2025 年度

シ ラ バ ス

（講義要綱）

2022 年度以前入学生

総合政策学部

四日市大学

卒業必要単位数（総合政策学部）

【2017～2022年度入学生】

<table>
<tr><th colspan="3">区　　分</th><th colspan="5">卒業必要単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="19">全学共通教育科目</td><td colspan="2" rowspan="2">基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="2">6単位</td><td rowspan="19">50単位以上</td><td rowspan="20">全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上</td><td rowspan="20">合計130単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">必修</td><td colspan="2">4単位　留学生は日本語で4単位</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">語学科目</td><td>選択</td><td colspan="2">4単位以上　留学生は日本語で4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">情報科目</td><td>必修</td><td colspan="2">6単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">地域科目</td><td>選択</td><td colspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">一般教養科目</td><td>社会科学系列</td><td>選択</td><td colspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学系列</td><td>選択</td><td colspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系列</td><td>選択</td><td colspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">キャリア科目</td><td>必修</td><td colspan="2">4単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">※特別科目</td><td>選択</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">スキル科目</td><td>社会調査士養成ユニット</td><td>選択</td><td colspan="2" rowspan="5">いずれかのユニットから10単位以上</td></tr>
<tr><td>公務員養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>おもてなし経営ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語力養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>メディアデザインユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="11">専門教育科目</td><td colspan="2">学部基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="2">6単位</td><td rowspan="11">62単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">演習科目</td><td>必修</td><td colspan="2">12単位</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">地域・まちづくり分野</td><td>選択必修</td><td rowspan="6">いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上</td><td rowspan="6">選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上</td><td rowspan="6">左記の条件を満たし、さらに8単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">スポーツ・人間分野</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">国際・経営分野</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">分野共通科目</td><td>選択</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・ザブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
配当年次	科目が開講されいる学年・学期を記載します。 ○　・・・半期週1回開講 ◎　・・・半期週2回開講 集　・・・集中講義 ▲　・・・その他の開講 ・・・・不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼　・・・他学部所属教員 非　・・・他大学、他組織所属教員 空白・・・本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
ページ	シラバス掲載ページ番号
備考	特記事項があれば記載します。

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通教育科目	基礎科目	必修	「人間たれ」	「人間たれ」Ⅰ	②	○								兼	鬼頭　浩文　他	1	
			入門演習Ⅰ	入門演習a	②	○									鶴田　利恵	2	
															富田　与		
															永井　博		
															松本　彩月		
															加納　光		
															小西　琴絵		
															中西　紀夫		
															倉田　英司		
			入門演習Ⅱ	入門演習b	②		○								中西　紀夫	3	
															永井　博		
															松本　彩月		
															富田　与		
															加納　光		
															倉田　英司		
															小西　琴絵		
															鶴田　利恵		
	語学科目	必修	基礎英語Ⅰ	基礎英語Ⅰ	②	○									ゴードン　リース	4	
														兼	青木　陽子		
														兼	樋口　晶子		
														非	ケント　スコット		
			基礎英語Ⅱ	基礎英語Ⅱ	②		○								ゴードン　リース	5	
														兼	青木　陽子		
														兼	樋口　晶子		
														非	ケント　スコット		
			基礎日本語Ⅰ	基礎日本語Ⅰ	②	◎									加納　光	6	留学生対象科目
														非	伊藤　晴苗		
														非	安田　由紀子		
			基礎日本語Ⅱ	基礎日本語Ⅱ	②		◎								加納　光	7	留学生対象科目
														非	伊藤　晴苗		
														非	安田　由紀子		
		選択科目	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠ	2			○							ゴードン　リース	8	
														兼	青木　陽子	9	
														兼	樋口　晶子	10	
			英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅡ	2				○						ゴードン　リース	11	
														兼	青木　陽子	12	
														兼	樋口　晶子	13	
			中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	2			○							加納　光	14	
			中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	2				○						加納　光	15	
			ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語Ⅰ	2			○							フェリペ　フェハーリ	16	
			ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱ	2				○						フェリペ　フェハーリ	17	
			海外語学研修a（英語）	海外語学研修a（英語）	2				▲					兼	青木　陽子	18	
			海外語学研修b（中国語）		2												
			日本語中級Ⅰ	日本語中級Ⅰ	2			○							加納　光	19	
														非	伊藤　晴苗		
														非	安田　由紀子		
			日本語中級Ⅱ	日本語中級Ⅱ	2				○						加納　光	20	
														非	伊藤　晴苗		
														非	安田　由紀子		
			日本語上級Ⅰ	キャリアのための日本語力Ⅰ	2					○				非	安田　由紀子	21	
			日本語上級Ⅱ	キャリアのための日本語力Ⅱ	2						○			非	伊藤　晴苗	22	
	情報科目	必修	コンピュータリテラシー		④												
			情報倫理		②	○								兼	前川　督雄	23	
														兼	野呂　達哉		
		選択	情報科学	情報科学概論	2	○								兼	池田　幹男	24	
			情報と職業		2		○							兼	柳瀬　元志	25	
														兼	黒田　淳哉		
			アプリケーション演習Ⅰ														
			アプリケーション演習Ⅱ	文書表現ツール2	2				○					兼	栁澤　翔士	26	
	地域科目		四日市学	四日市学	2	○									岡　良浩　他	27	
			地域社会の歴史	社会史	2	○									浅井　雅	28	
			市民教育	公共哲学	2	○									フェリペ　フェハーリ	29	
			人権論	「人間たれ」Ⅱ	2		○								小林　慶太郎　他	30	
			地域社会と環境		2	○								兼	野呂　達哉	31	
			地域防災	防災とまちづくり	2	○								兼	鬼頭　浩文	32	オンデマンド授業
			地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2		▲								倉田　英司	33	
			地域連携特別講義b														

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通教育科目	一般教養科目	社会科学系列	経営学	経営学入門	2		○								小西　琴絵	34	
			経済学	経済学概論	2		○							兼	鬼頭　浩文	35	
			政治学	政治学概論	2	○									吉川　和挟	36	
			社会学	社会学概論	2	○									三田　泰雅	37	
			ジェンダー論	ジェンダー論	2		○								三田　泰雅 松本　彩月	38	
			メディアリテラシー		2	○								兼	前川　督雄	39	
			社会福祉概論	社会福祉概論	2		○								松本　彩月	40	
			日本国憲法	日本国憲法概論	2	○									中西　紀夫	41	
			法学	法学入門	2		○								中西　紀夫	42	
			民法入門														
		人文科学系列	倫理学	社会思想史	2		○								フェリペ　フェハーリ	43	
			哲学	哲学概論	2	○									フェリペ　フェハーリ	44	
			文学	文学概論	2	○									永井　博	45	
			文章表現論	文化表現論	2	○									ゴードン　リース	46	
			文化論	表象文化論	2		○								富田　与 永井　博	47	
			教育学	教育学概論	2		○							非	黒田　司	48	
			日本史概論	歴史学概論	2	○									浅井　雅	49	
			世界史概論	近現代史概論	2		○								浅井　雅	50	
			地理学概論	地理学概論	2		○								倉田　英司	51	
			地誌														
		自然科学系列	科学的思考論		2	○								兼	大八木　麻希	52	
			科学思想史														
			自然科学概論														
			数学概論	数学概論	2	○								非	金岩　稔	53	
			化学概論	化学概論	2	○								兼	牧田　直子	54	
			地学概論	地学概論	2	○								非	森　康則	55	オンデマンド授業
			生物学概論	生物学概論	2		○							非	新井　優一	56	
			生物と進化		2		○							兼	野呂　達哉	57	
			環境論		2		○							非	浦畑　夢	58	
			心理学	心理学概論	2		○								フェリペ　フェハーリ	59	
		キャリア科目	キャリア基礎Ⅰ	キャリア基礎b	2		○								三田　泰雅	60	
			キャリア基礎Ⅱ	キャリア基礎c	2			○							小林　慶太郎 小西　琴絵	61	
			キャリア基礎Ⅲ	キャリア基礎a（再）	2				○						高田　晴美	62	オンデマンド授業
		特別科目	ボランティア活動a	ボランティア活動a	2	▲									松本　彩月	63	
			ボランティア活動b	ボランティア活動b	2	▲									松本　彩月	64	
			国際協力研修	国際協力研修	2		▲								永井　博	65	
			インターンシップ	インターンシップa	2			▲						兼	岡　良浩 鬼頭　浩文	66	
			他大学開放科目a	他大学開放科目a	2			▲									
			他大学開放科目b	他大学開放科目b	2			▲									
			他大学開放科目c	他大学開放科目c	2			▲									
			他大学開放科目d	他大学開放科目d	2			▲									
			他大学開放科目e	他大学開放科目e	2			▲									
	総合政策学部スキル科目	社会調査士養成	社会調査入門	社会調査入門	2	○									三田　泰雅	67	
			社会調査の技法	社会調査の技法	2		○								三田　泰雅	68	
			データ分析の基礎	統計学入門	2				○					非	小西　凌	69	
			統計的分析	社会統計学	2			○						非	小西　凌	70	
			データ解析の技法	データ解析の技法	2				○					非	新井　優一	71	
			フィールドワーク論	フィールドワーク論	2			○							倉田　英司	72	
			社会調査実習1	社会調査実習1	2					○					倉田　英司	73	
			社会調査実習2	社会調査実習2	2						○				倉田　英司	74	
		公務員養成	公務のための数的推理	公務のための数的推理	2		○								高田　晴美	75	
			公務のための判断推理	公務のための判断推理	2	○									高田　晴美	76	
			公務のための現代文	公務のための現代文・資料解釈	2		○								高田　晴美	77	オンデマンド授業
			公務のための政治学	公務のための政治学	2				○						小林　慶太郎	78	
			公務のための経済学	公務のための経済学	2			○						兼	鬼頭　浩文	79	オンデマンド授業
			公務のための法学	公務のための法学	2			○							中西　紀夫	80	
			公務のための人文科学	公務のための人文科学	2				○						浅井　雅	81	
			公務のための自然科学	公務のための自然科学	2					○				非	高田　晴美 浦畑　夢	82	
			公務のための英文理解	公務のための英文理解	2						○				ゴードン　リース	83	オンデマンド授業
			公務のための論文・面接		2							○			松本　彩月	84	
		おもてなし経営	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2		○							非	石田　京子	85	
			サービス経営論														
			販売士講座														
			ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーション	2			○						非	石田　京子	86	
			グローバルコミュニケーション	文化人類学	2			○							富田　与	87	
			オペレーション演習														
			ビジネスマネジメント	経営分析論	2					○					二村　建也	88	
			マーケティング演習	マーケティング実践論	2					○					川崎　綾子	89	
			おもてなし特別講義a	経営ケーススタディ	2				○						岡　良浩 川崎　綾子	90	
			おもてなし特別講義b														
		英語力養成	観光英語Ⅰ	ビジネス英語e	2	○									ゴードン　リース	91	
			観光英語Ⅱ		2												
			コンピュータ英語Ⅰ	ビジネス英語a	2	○								兼	樋口　晶子	92	
			コンピュータ英語Ⅱ	ビジネス英語b	2		○							兼	樋口　晶子	93	
			英語表現Ⅰ	ビジネス英語c	2			○						兼	青木　陽子	94	
			英語表現Ⅱ	ビジネス英語d	2				○					兼	青木　陽子	95	
			ビジネス英語Ⅰ	ビジネス英語アドバンストⅠ	2			○							ゴードン　リース	96	
			ビジネス英語Ⅱ	ビジネス英語アドバンストⅡ	2				○					兼	樋口　晶子	97	
			検定英語Ⅰ	英語リーディングⅠ	2					○				兼	樋口　晶子	98	
			検定英語Ⅱ	英語リーディングⅡ	2						○				ゴードン　リース	99	
		メディアデザイン	メディアツールa		2	○								非	西尾　秀樹	100	
					2		○							非	山本　努武	101	
			メディアツールb		2		○							非	西尾　秀樹	102	
			メディアツールc		2			○						非	纐纈　智英	103	
			メディアツールd		2				○					兼	柳澤　翔士	104	
			Webデザインa														
			Webデザインb		2						○			非	山本　努武	105	
			Webプログラミングa	Webプログラミング1	2		○							兼 兼 兼	池田　幹男 片山　清和 柳澤　翔士	106	
			Webプログラミングb														
			インターネット論	ITリテラシー	2			○						兼	柳澤　翔士	107	

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
専門教育科目	学部基礎	必修	政策科学入門	政策科学入門Ⅰ	②	○									小泉　大亮 他	108	
			総合政策論Ⅰ	政策科学入門Ⅱ	②		○								吉川　和挟	109	
			総合政策論Ⅱ	総合政策概論	②			○							小泉　大亮 他	110	オンデマンド授業
	演習科目	必修	基礎演習a	基礎演習a	②			○							浅井　雅	111	
															川崎　綾子	112	
															小林　慶太郎	113	
															高田　晴美	114	
															鶴田　利恵	115	
															富田　与	116	
															フェリペ　フェハーリ	117	
															二村　建也	118	
															松本　彩月	119	
															三田　泰雅	120	
															吉川　和挟	121	
															若山　裕晃	122	
			基礎演習b	基礎演習b	②				○						浅井　雅	123	
															川崎　綾子	124	
															小林　慶太郎	125	
															高田　晴美	126	
															鶴田　利恵	127	
															富田　与	128	
															フェリペ　フェハーリ	129	
															二村　建也	130	
															松本　彩月	131	
															三田　泰雅	132	
															吉川　和挟	133	
															若山　裕晃	134	
			専門演習a	専門演習a	②					○					浅井　雅	135	
															岡　良浩	136	
															川崎　綾子	137	
															小林　慶太郎	138	
															高田　晴美	139	
															鶴田　利恵	140	
															富田　与	141	
															中西　紀夫	142	
															フェリペ　フェハーリ	143	
															二村　建也	144	
															三田　泰雅	145	
															吉川　和挟	146	
															若山　裕晃	147	
			専門演習b	専門演習b	②						○				浅井　雅	148	
															岡　良浩	149	
															川崎　綾子	150	
															小林　慶太郎	151	
															高田　晴美	152	
															鶴田　利恵	153	
															富田　与	154	
															中西　紀夫	155	
															フェリペ　フェハーリ	156	
															二村　建也	157	
															三田　泰雅	158	
															吉川　和挟	159	
															若山　裕晃	160	
			専門演習c		②							○			川崎　綾子	161	
															小泉　大亮	162	
															小林　慶太郎	163	
															高田　晴美	164	
															鶴田　利恵	165	
															富田　与	166	
															中西　紀夫	167	
															フェリペ　フェハーリ	168	
															二村　建也	169	
															三田　泰雅	170	
															若山　裕晃	171	
														兼	鬼頭　浩文	172	
			専門演習d		②								○		川崎　綾子	173	
															小泉　大亮	174	
															小林　慶太郎	175	
															高田　晴美	176	
															鶴田　利恵	177	
															富田　与	178	
															中西　紀夫	179	
															フェリペ　フェハーリ	180	
															二村　建也	181	
															三田　泰雅	182	
															若山　裕晃	183	
														兼	鬼頭　浩文	184	

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
専門教育科目	地域・まちづくり分野	分野必修	地方自治論	地方自治論	2		○								吉川　和挟	185	
			地域経済論	地域経済論	2			○							岡　良浩	186	
		政策の理論	政策過程論	法とまちづくり	2				○						小林　慶太郎	187	
			現代財政学	地方財政論	2				○						鶴田　利恵	188	
			行政法														
			行政学	行政学	2			○							吉川　和挟	189	
			都市法	都市環境と法	2					○					中西　紀夫	190	
			政策法務	警察行政と安全	2						○				小林　慶太郎	191	
		地域と社会	地域産業論	産業とまちづくり	2			○							岡　良浩	192	
			地域開発論	地域開発論	2				○						岡　良浩	193	
			地域福祉論	地域福祉論	2			○							松本　彩月	194	
			社会保障論	社会保障論	2				○						松本　彩月	195	
			地域社会学	地域社会学	2			○							三田　泰雅	196	
			環境社会学	環境社会学	2				○					非	平　春来里	197	
			女性学														
		まちづくり	食とまちづくり														
			祭りとまちづくり	都市祭礼論	2			○							浅井　雅 小林　慶太郎	198	
			音楽とまちづくり														
			鉄道とまちづくり														
			コミュニティ論	市民社会論	2	○									松本　彩月	199	
			地方議会論	地方議会とまちづくり	2				○						吉川　和挟	200	
			NPO論	市民とまちづくり	2				○						小林　慶太郎 兼　鬼頭　浩文	201	
		地域政策	マイノリティ政策	ダイバーシティ社会論	2	○									小林　慶太郎	202	
			環境政策	環境とまちづくり	2			○						兼	鬼頭　浩文	203	
			観光政策	ツーリズム論	2				○						浅井　雅 高田　晴美 富田　与	204	
			経済政策	ミクロ経済学入門	2				○					兼	鬼頭　浩文	205	
			都市政策	消防行政と安心	2			○						兼	鬼頭　浩文	206	
			交通政策														
			都市計画論	都市計画論	2					○					倉田　英司	207	
	スポーツ・人間分野	分野必修	からだとこころ	現代社会論	2				○						富田　与 三田　泰雅	208	
			こころの科学	リーダーシップ論	2			○							若山　裕晃	209	
		スポーツ基礎	スポーツ政策論	スポーツ政策論	2		○								小泉　大亮	210	
			スポーツ指導論	スポーツ指導論	2	○									若山　裕晃	211	
			スポーツトレーニング論	スポーツトレーニング論	2	○									若山　裕晃	212	
			スポーツ心理学	スポーツ心理学	2		○								若山　裕晃	213	
			スポーツ社会学	スポーツ文化論	2			○							若山　裕晃	214	
			スポーツ生理学	スポーツ生理学	2			○							小泉　大亮	215	
			健康スポーツ論	生涯スポーツ論	2				○						小泉　大亮	216	
			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学	2				○					非	櫻井　智美	217	
		スポーツ実践 こころと健康	アスリート育成論	アスリート育成論	2		○								若山　裕晃	218	
			スポーツ応用科学	スポーツ応用科学	2			○							小泉　大亮	219	
			スポーツメディカル論	スポーツメディカル論	2				○						小泉　大亮	220	
			地域スポーツ論	地域スポーツ論	2			○							小泉　大亮	221	
			スポーツ実技														
			介護予防スポーツ														
			健康スポーツ実技	健康スポーツ実技	2				○						小泉　大亮	222	
			こころの健康	サブカルチャー論	2		○								高田　晴美	223	
			こころと文学	現代文化論	2			○							高田　晴美	224	
	国際・経営分野	分野必修	国際経済事情	多国籍企業論	2		○								鶴田　利恵	225	
			国際関係論	グローバルイシューズ	2				○						ゴードン　リース	226	
			経営管理論	経営管理論	2				○						小西　琴絵	227	
		国際理解	日本経済事情	マクロ経済学入門	2	○									鶴田　利恵	228	
			金融論	金融論	2			○							二村　建也	229	
			国際経営論	管理会計論	2				○						二村　建也	230	
			国際協力論	国際社会学	2				○						富田　与	231	
			開発経済学	新興市場論	2			○							鶴田　利恵	232	
		ビジネス経営	簿記入門	簿記入門	2		○								二村　建也	233	
			会計学総論	会計学総論	2		○								二村　建也	234	
			財務諸表論	財務諸表論	2				○						二村　建也	235	
			経営戦略論	経営戦略論	2	○									川崎　綾子	236	
			マーケティング論	マーケティング論	2			○							小西　琴絵	237	
			中小企業論	企業論	2				○						岡　良浩	238	
			人事管理論	経営組織論	2						○				川崎　綾子	239	
			ものづくり経営	商業簿記	2			○							二村　建也	240	
			流通論	流通論	2				○						川崎　綾子	241	
			農業経営論	農業経営論	2			○							鶴田　利恵	242	
			起業論	アントレプレナーシップ論	2			○							岡　良浩	243	
	分野共通科目	特別講義	総合政策特別講義Ⅰ														
			総合政策特別講義Ⅱ	総合政策特別講義b	2		▲								浅井　雅 吉川　和挟	244	
			総合政策特別講義Ⅲ														
		文化論	出版文化論	コミュニケーション論	2			○							富田　与	245	
			日本文化論	日本文化論	2				○						永井　博	246	
			東洋文化論	比較文化論	2				○						加納　光	247	
			西洋文化論														
			地域文化論	文化史	2						○				浅井　雅	248	

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論 ①			科目コード	③ 181203	授業コード	④ 111301
担当教員	三田　泰雅 ②			科目ナンバリング		GLAS1004 ⑤	
配当年次	1 ⑥	開講学期	前学期 ⑦	単位数	⑧ 2.0	必修／選択	選択 ⑨

授業の位置づけ ⑩	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
授業のねらい ⑪	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。
到達目標 ⑫	社会学的なものの見方や考え方を身につける
授業計画 ⑬	第１講　ガイダンス 第２講　規範と価値 第３講　私（わたし）とは誰か 第４講　近代をスポーツから考える 第５講　人は集団をつくる 第６講　家族とは何だろうか 第７講　社会の中のジェンダー 第８講　格差と社会階層 第９講　なぜ学校に行くのか 第10講　都市と村落 第11講　国家と国民社会 第12講　まとめ① 第13講　環境を考える 第14講　社会的排除 第15講　まとめ② 定期試験
テキスト・教材（参考文献含む） ⑭	＜参考文献＞ 倉沢進・秋元律郎・岩永雅也， 2001， 『新訂　社会学入門』放送大学出版協会. 石黒格編， 2018， 『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房.
事前・事後学習 ⑮	新聞やニュースに目を通す（毎日20分）
成績評価方法 ⑯	＜評価＞小レポート30%， 中間試験15%， 期末試験55%
授業内の課題・提出方法 ⑰	＜課題＞毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法 ⑱	＜フィードバック＞小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。
アクティブ・ラーニング ⑲	ディスカッション、ミニッツペーパー
実務経験のある教員 ⑳	民間企業勤務、研究機関勤務経験あり。地方都市の社会生活を研究対象としています。
担当者から一言 ㉑	学生諸君の積極的な参加を期待します。

① 授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
② 担当教員：授業科目担当者です。
③ 科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
④ 授業コード：時間割順を示すナンバーです。
⑤ 科目ナンバリング：別掲の科目ナンバリングを参照のこと。
⑥ 配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
⑦ 開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
⑧ 単位数：単位数を表記しています。
⑨ 必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
⑩授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（ＤＰ）と当該授業科目の関連が記載されています。
⑪授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
⑫到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
⑬授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
⑭テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには，授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
⑮事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「 ○○○Ⅰ 」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
⑯成績 評価方法：定期試験 ６０ %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
⑰授業内の課題・提出方法、⑱フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
⑲アクティブラーニング：アクティブラーニングの要素（キーワード）が書かれています。
⑳実務経験のある教員：実務経験がある担当教員が、職種や実務経験を通じどのような授業を行うか等を記載しています。
㉑担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載しています。

授業科目名	「人間たれ」			科目コード	171001	授業コード	125101
担当教員	鬼頭　浩文、足立　明信、青木　陽子、樋口　晶子、黒田　淳哉、大八木　麻希、柳瀬　元志			科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。
授業計画	第１講　4/11　ガイダンス：建学の精神「人間たれ」と能登半島地震と学友会と 第２講　4/18　災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第３講　4/25　災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第４講　5/9　災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第５講　5/16　被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所運営を経験して（齋藤） 第６講　5/23　被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が被災して（鈴木＆北村） 第７講　5/30　被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難所をどう見たか（雁部） 第8・9講　フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講　6/20　教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講　6/27　教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講　7/4　教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講　7/11　教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講　7/18　教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講　7/25　教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（１日30分以上）。
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な４年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。

授業科目名	入門演習Ⅰ			科目コード	171002	授業コード	124107
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GEF1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	学生生活を進めるうえで必要な、次のようなスチューデントスキル（四日市大学の学生として最低限身につけておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 1. 授業を受けるうえで必要なスキル 2. 人間関係を作るうえで必要なスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知り、活用するスキル 4. 総合政策学部を知り、学修を進めていくスキル						
到達目標	大学生として必要なスチューデントスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	第１回　ガイダンス（入門演習とは）/履修登録のチェック 第２回　ハラスメント 第３回　総合政策学部とは 第４回　大学の講義の受け方 第５回　ＣＳＣガイダンス 第６回　コンピュータ・センターと情報センターのガイダンス 第７回　ノートの取り方（基本的なこと・ノートの取り方・ノートを取る際の注意） 第８回　ノートの取り方　②（模擬授業とノートチェック） 第９回　読解の基礎　①（課題文の読解） 第１０回　読解の基礎　②（課題の解答の確認） 第１１回　新聞記事の読み方　①（新聞記事とは・新聞の組み立て・新聞記事の読み方） 第１２回　新聞記事の読み方　②（課題の報告） 第１３回　人前で話す　①（話す力とは・３つの力・話す力を伸ばす） 第１４回　人前で話す　②（自己紹介の準備） 第１５回　研究倫理教育 ＊授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド　総合政策』2025年度版						
事前・事後学習	毎回の授業に関係するテキストをよく読み、その章の「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に関係するテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係個所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
アクティブラーニング	課題・宿題、体験学習、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「読む」力を重視します。また、先生と知り合い、友だちをつくる機会でもあります。積極的に参加してください。						

授業科目名	入門演習Ⅱ			科目コード	171003	授業コード	124508
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GEF1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	大学生として、また総合政策学部の学生として学ぶために必要なスタディスキルを学ぶ。						
到達目標	大学生として必要なスタディスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	第１回　ガイダンス／履修登録のチェック 第２回　読解の実践 第３回　資料の探し方・選び方 第４回　引用の基礎 第５回　レジメの作り方　① 第６回　基礎演習ガイダンス 第７回　レジメの作り方　② 第８回　文章・レポートの書き方　① 第９回　文章・レポートの書き方　② 第１０回　プレゼンテーション・レジメ作成 第１１回　プレゼンテーション準備・予行 第１２回　プレゼンテーション　① 第１３回　プレゼンテーション　② 第１４回　ボランティア・ガイダンス 第１５回　１年次の振り返りと２年次に向けて ＊授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド　総合政策』2025年度						
事前・事後学習	毎回の授業に関係するテキストの章をよく読み、その「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に関係するテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係個所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
アクティブラーニング	課題・宿題、グループワーク、ディベート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「書く」「話す」力を重視します。積極的に参加してください。						

授業科目名	基礎英語Ⅰ			科目コード	171101	授業コード	123101
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEL1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	英語を総合的に高めることを第１のねらいにしています。２つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。３つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第１講義　ガイダンス　及び　Unit 1 第２講義　Unit 2 以下　第１５講義まで展開						
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。						
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。						
授業内の課題・提出方法	各担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各担当教員の指示に従ってください。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	高等学校までの英語学習からステップアップし、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、新しい英語学習を始めましょう。						

授業科目名	基礎英語Ⅱ			科目コード	171102	授業コード	123501
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEL1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	基礎英語Ｉで修得した力を基礎として、さらに学修を深めます。英語力を総合的に高めることを第１のねらいにしています。２つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。３つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第１講義　ガイダンス　及び　Unit 1 第２講義　Unit 2 以下　第１５講義まで展開						
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。						
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従ってください。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語の言語能力（聞く・読む・話す・書く）に加え、伝える力・相手を理解する力を養ってコミュニケーション能力を高め、あらゆることに興味を持って視野を広げる気持ちで、積極的に授業に参加してください。						

授業科目名	基礎日本語Ⅰ			科目コード	171103	授業コード	123105
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
授業のねらい	言語の四技能−読む、書く、聞く、話す−を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。
到達目標	この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。
授業計画	第１講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第２講 レポート作成、読解、語彙② 第３講 レポート作成、読解、語彙③ 第４講 レポート作成、読解、語彙④ 第５講 能力試験対策模擬試験①、② 第６講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第７講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第８講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第９講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合もあります。
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10［中、中上級］』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『１回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺
事前・事後学習	Ｎ１までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしていくこと（90分）
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却し ます）50%、期末試験50%。
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。
アクティブラーニング	小レポート／小テスト
実務経験のある教員	
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	171104	授業コード	123505
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能−読む、書く、聞く、話す−を学びながら、総合的な 日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス 日本を知る 論議、発表① 語彙学習① 第２講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習② 第３講 能力試験対策模擬試験①、② 第４講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第５講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第６講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第７講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第８講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第９講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10［中、中上級］』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『１回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	Ｎ１向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。 真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	171105	授業コード	121201
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙いです。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をします。スキットやラジオドラマを利用して、『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造があります。 The main goal is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a le						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. TOEIC(L/R)３５０～４２５点に相当する英語力獲得を目指す。						
授業計画	第1 講　　ガイダンス 第２講　　Unit 1-　I'm a Big Fan 第３講　　Unit 2-　He's Kissing Her 第４講　　Unit 3 -　I Don't Have Any Money 第５講　　Unit 4-　What Do You Do Every Day? 第６講　　Unit 5-　Wow! Is That Your Car 第７講　　Unit 6-　Be Careful! 第８講　　Radio Thriller- radio drama 第９講　　Radio Thriller- radio drama 第10講　　Unit 7-　Let's Meet at the Station 第11講　　Unit 8-　How Was Rome? 第12講　　Unit 9-　I Read It in a Magazine 第13講　　Unit 10-　What Did You Do on Sunday? 第14講　　Unit 11-　The Goats Were Dancing 第15講　　復習 プレゼンテーション- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	『English Charge!』　金星堂 市川泰弘 /Robert Hickling　著 978-4-7647-3890-4						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）						
成績評価方法	学習態度　　30% 課題・小テスト　　30% スピーキングテスト・スキット　　20% プレゼンテーション-定期試験　　20%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	ラジオドラマ、スキット						
実務経験のある教員							
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. ２回遅刻すると１回の欠席になる。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	171105	授業コード	121402
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、さまざまな会話表現に触れ、実践的な英語力を養うことで、英語力を向上させます。授業で学んだ英語表現を実践の場で活かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。						
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要 第2講　Unit 1 It's nice to meet you. 第3講　Unit 1 It's nice to meet you. 第4講　Unit 2 Who are they talking about? 第5講　Unit 2 Who are they talking about? 第6講　Unit 3 When do you start? 第7講　Unit 3 When do you start? 第8講　Unit1~Unit3の復習、小テスト 第9講　Unit 4 Where does this go? 第10講　Unit 4 Where does this go? 第11講　Unit 5 How do I get there? 第12講　Unit 5 How do I get there? 第13講　Unit 6 What happened? 第14講　Unit 6 What happened? 第15講　総復習 定期試験 ＊授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『English Firsthand 5th Edition Level 1 Student Book 』 Marc Helgesen， John Wiltshier， Steven Brown（Pearson） 定価：3，630円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	小テスト　20% 課題・宿題　20% 定期試験　60%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	171105	授業コード	121202
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	テキストに加えて動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講　ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講　Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講　Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講　Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講　Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講　Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講　Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講　Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講　Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講　Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講　Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講　Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講　Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』 (金星堂) 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	テキストの内容は必ず予習・復習してください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。 授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　６０％ （毎回、小テストを行います） 定期試験　４０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。得手不得手にこだわらず、コミュニケーションする気持ちを自分から示してください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	121601
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	「英語コミュニケーションI」で習得した英語コミュニケーション能力をさらに磨きます。楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙いです。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をします。スキットやラリダーズシアターを利用して、『使える英語』を目指します。 The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. T						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. TOEIC(L/R)375～450点に相当する英語力獲得を目指す。						
授業計画	第1 講　　ガイダンス 第２講　　Unit 12-　If Animals Could Talk 第３講　　Unit 13-　Been There，Done That 第４講　　Unit 14 -　It Starts at Eight 第５講　　Unit 15-　Studying Can Be Tiring 第６講　　Unit 16-　I Think I'll Go Shopping 第７講　　Unit 17-　A Cute Little Nose 第８講　　Slow Food- リーダーズ・シアター 第９講　　Slow Food- リーダーズ・シアター 第10講　　Unit 18-　He Speaks Romantically 第11講　　Unit 19-　You Must Be Home by Eleven 第12講　　Unit 20-　A Burger and Fries 第13講　　Unit 21-　Mom's Cheesecake Is Better 第14講　　Unit 22-　It's Made from Soy 第15講　　復習 プレゼンテーション- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	『English Charge!』　金星堂 市川泰弘 /Robert Hickling　著 978-4-7647-3890-4						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）						
成績評価方法	学習態度　　30% 課題・小テスト　　20% リーダーズ・シアター・スキット　20% プレゼンテーション-定期試験　　30%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、スキット						
実務経験のある教員							
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. ２回遅刻すると１回の欠席になる。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	121802
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、さまざまな会話表現に触れ、実践的な英語力を養うことで、英語力を向上させます。授業で学んだ英語表現を実践の場で活かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。						
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要 第2講　Unit 7 I'd love that job. 第3講　Unit 7 I'd love that job. 第4講　Unit 8 What's playing? 第5講　Unit 8 What's playing? 第6講　Unit 9 What are you going to do? 第7講　Unit 9 What are you going to do? 第8講　Unit7~Unit9の復習、小テスト 第9講　Unit 10 How much is this? 第10講　Unit 10 How much is this? 第11講　Unit 11 How do you make it? 第12講　Unit 11 How do you make it? 第13講　Unit 12 Listen to the music. 第14講　Unit 12 Listen to the music. 第15講　総復習 定期試験 ＊授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『English Firsthand 5th Edition Level 1 Student Book 』 Marc Helgesen， John Wiltshier， Steven Brown（Pearson） 定価：3，630円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	小テスト　20% 課題・宿題　20% 定期試験　60%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	121602
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得またはそれに相当する英語があることを前提に、さらにコミュニケーション能力を磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解を深めることを重視します。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、IELTS、英検等）
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。 5. 本授業を受講後に、英語資格試験（TOEIC、英検等）の受験をめざす。
授業計画	テキストに加えて動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講　ガイダンス 　　Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講　Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講　Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講　Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講　Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』 (金星堂)【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　６０％ （原則として毎回、小テストを行います） 定期試験　４０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題
実務経験のある教員	
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生主導型の授業です。得手不得手にこだわらず、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。

授業科目名	中国語Ⅰ			科目コード	171107	授業コード	121203
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。						
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしながら、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス・中国事情（概況） 第２講 中国語事情 第３講 声調（４）と単母音（７）の発音 第４講 複合母音（13）の発音 第５講 鼻母音（16）の発音 第６講 子音（21）の発音 第７講 発音、表記上の規則 第８講 発音のまとめ、小テスト 第９講 どうぞよろしく（point１～４） 第10講 お名前は（point１～４） 第11講 ご出身は（point１～４） 第12講 飲み物は（point１～４） 第13講 おいくつ（point１～４） 第14講 和食はいかが（point１～４） 第15講 復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。						
テキスト・教材（参考文献）	１）教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』 （朝日出 版社）2，400円＋税 ２）参考書：『WHY？に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） ３）辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）						
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。						
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡しのいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点後返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。						
アクティブラーニング	小テスト／小レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	171108	授業コード	121603
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力
授業のねらい	この授業は中国語Ｉを継続するものです。中国語Ｉと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。 コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。
授業計画	「中国語Ｉ」からの継続 第１講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（１） 第２講：家庭訪問（２）、買い物（１） 第３講：買い物（２）、道案内（１） 第４講：道案内（２）、中秋節（１） 第５講：中秋節（２）、食事の前は（１） 第６講：食事の前は（２）、第１～５講の復習（１） 第７講：第１～５講の復習（２） 第８講：手作り料理（１） 第９講：手作り料理（２）、カ二の季節（１） 第10講：カ二の季節（２）、スキー場で（１） 第11講：スキー場で（２）、おみやげ（１） 第12講：おみやげ（２）、空港まで（１） 第13講：空港まで（２）、第６～12講の復習（１） 第14講：第６～12の復習（２） 第15講：総復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。
テキスト・教材（参考文献）	１）教 材：『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂 他 ２）副教材：『中国語の文法書』（同学社） ３）辞 書：『中国語辞典』（光生館） ４）参考書：『中国語はじめの一歩』（ちくま新書）
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。 加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点後返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。
授業内の課題・提出方法	授業j内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡しの、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点後返却しフィードバックします。
アクティブラーニング	小レポート／小テスト
実務経験のある教員	
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。

授業科目名	ポルトガル語Ⅰ			科目コード	171109	授業コード	121204
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GEL1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本−ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　アルファベットと発音 第３講　挨拶と自己紹介 第４講　名詞の性と数 第５講　冠詞と数字 第６講　ser動詞（1） 第７講　ser動詞（2） 第８講　所有表現（１） 第９講　所有表現（２） 第10講　所有表現（３） 第11講　gostar動詞 第12講　規則動詞（１） 第13講　規則動詞（２） 第14講　規則動詞（３） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari (朝日出版社) （2，300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約180 分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：新品の教科書を購入し、初回から毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。 注意③：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0 点になります。 注意④：この授業の人数が制限されています。						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ			科目コード	171110	授業コード	121604
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GEL1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本−ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第１講　前期の総合復習 第２講　前置詞 第３講　不規則動詞：ir 第４講　不規則動詞：terとfazer 第５講　不規則動詞：poder 第６講　不規則動詞：querer 第７講　estar動詞 第８講　ser動詞とestar動詞の違い 第９講　現在分詞と現在進行形 第10講　規則動詞の過去形（１） 第11講　規則動詞の過去形（２） 第12講　規則動詞の過去形（３） 第13講　様々な表現（１） 第14講　様々な表現（２） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari (朝日出版社) （2，300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約180 分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：新品の教科書を購入し、初回から毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。 注意③：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0 点になります。 注意④：この授業の人数が制限されています。						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	海外語学研修ａ（英語）			科目コード	171111	授業コード	126501
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GEL1009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	夏期や春期休業期間を利用し、海外の語学学校に短期留学することで、英語を学び、現地の社会や文化に直接触れることを目的としています。 なお、学生の参加応募状況や現地の社会情勢等によっては、やむを得ず変更や中止になる場合もあります。						
到達目標	1. 外国語によるコミュニケーション能力を高めます。 2. 外国の文化に直接触れます。 3. 異文化への理解を深めます。						
授業計画	海外語学研修参加の流れ 1. 説明会の開催 2. 参加の正式申し込み（航空券等の手配） 3. 渡航前の事前研修（語学、外国でのマナーなどの学習） 4. 現地学校での語学研修（社会見学を含む） 5. 帰国後のレポート提出 6. 単位認定						
テキスト・教材（参考文献）	渡航先の大学もしくは語学学校配布のものを使用します。						
事前・事後学習	事前学習：研修実施先の地理や文化、社会等について調べる。 事後学習：研修で学んだ内容を理解し、レポートを作成する。						
成績評価方法	国内での事前研修、現地での語学授業担当者の評価やコメント、引率教員の報告、帰国後のレポート提出等をもとに、総合的に評価します。 なお、本科目は単位認定科目のため、その評価は「認定」となります。						
授業内の課題・提出方法	海外語学研修終了後にレポートを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研修活動の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	本学教員が全行程を引率する予定です。研修参加希望者は説明会にご参加ください。						

授業科目名	日本語中級Ⅰ			科目コード	171113	授業コード	125301
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第５講　文章読解④　語彙学習④ 第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第7講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第13講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第14講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第15講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えを しっかりまとめておきましょう（180分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語中級Ⅱ			科目コード	171114	授業コード	125701
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL9004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話す―を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第5講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　文章読解④　語彙学習④ 第11講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第12講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第13講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第14講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第15講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えを しっかりまとめておきましょう（180分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級Ⅰ			科目コード	171115	授業コード	123203
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GEL9005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、専門分野のレポートや論文など論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を獲得することを目指します。また、発表やディスカッションを通して、日本語でのコミュニケーション力や豊かな表現力を身につけ、就職活動や卒業後のキャリアでも活用できる日本語運用力を身につけることを目標としています。						
到達目標	卒業後の進路（主に就職）に対応できるように、日本語の理解力や運用力の促進を図る。						
授業計画	第１講　１課「言葉の役割」 第２講　〃 第３講　２課「イルカと超音波」 第４講　〃 第５講　３課「地図の分類」 第６講　〃 第７講　４課「睡眠時間」 第８講　〃 第９講　日本語能力試験模擬試験 第１０講　５課「日時計」 第１１講　〃 第１２講　６課「研究者の２つのタイプ」 第１３講　〃 第１４講　７課「地球温暖化」 第１５講　〃 定期試験 ＊授業の進度および内容は、若干変更する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	・『改訂版　大学・大学院　留学生の日本語①読解編』　（アルク）　アカデミック・ジャパニーズ研究会　編 ・『ロールプレイ玉手箱』（ひつじ書房）　嶋田和子・西部由佳・酒井祥子 ・『留学生のためのアカデミックジャパニーズ　聴解』（スリーエーネットワーク）東京大国語大学留学生日本語教育センター						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う読解文を読み、内容をつかみ、語彙や文法を確認しておく。(90分) 事後学習：読解文の要点を記述する。(90分)						
成績評価方法	授業参加度　２０％ 小テスト　３０％ 期末試験　５０％						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに提出方法を指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容によって、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小レポート・小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃からインターネットなどを通じて、日本の社会や文化についての記事を読んでください。卒業後に日本の社会で活躍できるよう、日本語能力を高めましょう。						

授業科目名	日本語上級Ⅱ			科目コード	171116	授業コード	123602
担当教員	伊藤　晴苗			科目ナンバリング	GEL9006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、専門分野のレポートや論文など論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を獲得することを目指します。また、発表やディスカッションを通して、日本語でのコミュニケーション力や豊かな表現力を身につけ、就職活動や卒業後のキャリアでも活用できる日本語運用力を身につけることを目標としています。						
到達目標	卒業後の進路（主に就職）に対応できるように、日本語の理解力や運用力の促進を図る。						
授業計画	第１講　８課「風呂場の戸」 第２講　〃 第３講　９課「手で数を表す」 第４講　〃 第５講　10課「文明はどのように伝わったかー１茶」 第６講　〃 第７講　11課「文明はどのように伝わったかー２タとハタケ」 第８講　〃 第９講　日本語能力試験模擬試験 第１０講　日本語能力試験模擬試験 第１１講　12課「カラスの自動車利用行動」 第１２講　〃 第１３講　14課「人間と口ボットの協調動作に関する研究」 第１４講　〃 第１５講　〃 定期試験 ＊授業の進度および内容は、若干変更する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	・『改訂版　大学・大学院　留学生の日本語①読解編』　（アルク）　アカデミック・ジャパニーズ研究会　編 ・『ロールプレイ玉手箱』（ひつじ書房）　嶋田和子・西部由佳・酒井祥子 ・『留学生のためのアカデミックジャパニーズ　聴解』（スリーエーネットワーク）東京大国語大学留学生日本語教育センター						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う読解文を読み、内容をつかみ、語彙や文法を確認しておく。(90分) 事後学習：読解文の要点を記述する。(90分)						
成績評価方法	授業参加度　２０％ 小テスト　３０％ 期末試験　５０％						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに提出方法を指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容によって、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小レポート・小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃からインターネットなどを通じて、日本の社会や文化についての記事を読んでください。卒業後に日本の社会で活躍できるよう、日本語能力を高めましょう。						

授業科目名	情報倫理			科目コード	171202	授業コード	123110
担当教員	前川　督雄、野呂　達哉			科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	環境情報学部で学ぶ皆さんは、環境・情報・メディアいずれかの領域で専門家（プロフェッショナル）となるための素養が求められます。一般人やユーザではなく、専門家として、どのような立ち位置で、どのようにものごとを見て、どのように振る舞うことが求められるか、多方面の観点から知り、考えてもらう講義です。						
到達目標	専門家・プロフェッショナルの立場からの倫理・責任を、できるだけ広く俯瞰して、当事者となっていく自覚をもつ。						
授業計画	第１講　ガイダンス／専門家とは 第２講　専門家として　個人情報の扱い 第３講　専門家として　著作権の扱い 第４講　専門家として　AIの扱い 第５講　研究者として　科学体系の成り立ち／研究するとは／改竄・捏造が及ぼす影響第６講　研究者として　実験における倫理 第７講　研究者として　社会に対する責任／共同や連携、学際研究を行う際の倫理 第８講　技術者として　安全確保と保守／社会に対する責任 第９講　技術者として　業界標準の意義／知的財産／企業秘密と守秘義務 第10講　環境技術者として　生態系のなかの人間活動 第11講　環境技術者として　フィールドワークにおける倫理／地域や海外での活動倫理 第12講　メディア情報技術者として　表現するとは／表現における倫理 第13講　メディア情報技術者として　情報セキュリティと倫理 第14講　メディア情報技術者として　オープンソースという貢献 第15講　まとめ　組織の一員であること／ダイバーシティへの配慮／ハラスメントの防止 （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。 講義中に、参考映像を視聴することがあります。						
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（60分）。毎回の授業の後に復習するとともに、不明点を調べ、自分の思考・行動を振り返って考えを深めて下さい（120分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。						
実務経験のある教員	担当教員は専門領域のプロフェッショナルとして実務に従事してきている。						
担当者から一言	新しく設立した科目です。試行錯誤しながら進めます。						

授業科目名	情報科学			科目コード	171203	授業コード	123202
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GEI1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。						
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。						
授業計画	第１講　ガイダンス　人間はどうやって情報を伝えているか 第2講　情報メディア 第3講　身の回りの情報機器 第4講　コンピュータシステム 第5講　文字符号化 第6講　アナログからデジタルへ 第7講　マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講　インターネット 第9講　WWW 第10講　ＳＮＳ 第11講　ビッグデータと人工知能 第12講　生体認証 第13講　暗号化とセキュリティ 第14講　デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講　情報処理の将来 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。 関連科目：情報科学（環境情報学科専門科目）						
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題と小テスト30%、定期テスト40%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。						
アクティブラーニング	Moodle でのディスカッション、ミニレポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。						

授業科目名	情報と職業			科目コード	171204	授業コード	123808
担当教員	黒田　淳哉、柳瀬　元志			科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	講義の前半は自らが地域イベントにスタッフとして参加し、地域を体験的に理解することから始めます。後半は、メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信を行っている方々の声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。						
到達目標	・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。 ・この学びを、地域に関連した研究活動や将来のビジョンへと繋げる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、授業の概要 第２講 地域と繋がる体験１（オンデマンド予定） 第３講 地域と繋がる体験２（オンデマンド予定） 第４講 地域と繋がる体験３（10/16木５限目予定） ＜イベント参加10/18(土)＆10/19(日)予定＞ ※イベントスタッフとして2日間参加することが、第5～7講の講義になります。 第５講 地域と繋がる体験４ 第６講 地域と繋がる体験５ 第７講 地域と繋がる体験６ ＜ゲストを招いた講義＞ 第８講 地域のイベント 第９講 イベント業界と仕事について 第10講 放送業界と仕事について 第11講 地域の放送局 第12講 地域のメディア 第13講 地域のIT１ 第14講 地域のIT２ 第15講 地域のICT						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	定期試験は行いません。受講態度と講義で提出するレポートで評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業内もしくはMoodleでミニッツペーパーやレポートを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニッツペーパーへの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
アクティブラーニング	実習、ディスカッション、グループワーク						
実務経験のある教員	関連領域で実務経験を持つ教員がこの講義の進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。						
担当者から一言	講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	アプリケーション演習Ⅱ			科目コード	171206	授業コード	124501
担当教員	栁澤　翔士			科目ナンバリング	GEI1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、現代においては重要なスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。						
到達目標	MOS word 365&2019エキスパート合格レベルの知識技術を習得する事を目指す						
授業計画	1.ガイダンス・基礎知識 2.文書のオプションと設定の管理1 3.文書のオプションと設定の管理2 4.文書のオプションと設定の管理3 5.編集機能・書式設定機能1 6.編集機能・書式設定機能2 7.編集機能・書式設定機能3 8.ドキュメント要素の作成1 9.ドキュメント要素の作成2 10.ドキュメント要素の作成3 11.高度なWord機能の利用1 12.高度なWord機能の利用2 13.MOS word 365&2019模擬試験問題1 14.MOS word 365&2019模擬試験問題2 15.MOS word 365&2019模擬試験問題3 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	佐藤　薫　著　「MOS攻略問題集Word 365&2019エキスパート」 日経BP　￥3300						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング	Word実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学び、MOS word365&2019エキスパート合格レベルを目指しましょう。						

授業科目名	四日市学			科目コード	171301	授業コード	125201
担当教員	岡　良浩、青木　陽子、倉田　英司、鬼頭　浩文、小林　慶太郎、永井　博			科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第１に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境など多面的に四日市について理解する機会とします。第２に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。 これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただきたいと思っています。						
到達目標	講義は13回にわたる様々なテーマの座学とフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の４点です。 １．「四日市」を多面的に理解すること ２．フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること ３．地域の課題を発見して考察を行うこと ４．全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること						
授業計画	第１講(4/11)　ガイダンス＋フィールドワークの説明（岡） 第２講(4/18)　「四日市公害に向き合う」（鬼頭［司会］；四日市公害と環境未来館） 第３講(4/25)　「四日市の産業」（岡［司会］；四日市市商工農水部） 第４講(5/9)　「四日市の文学者たち」（永井［司会・講義］） 第５講(5/16)　「四日市の歴史」（永井［司会］；四日市市博物館学芸員） 第６講(5/23)　「四日市の多文化共生」（青木［司会］；四日市市多文化共生推進室） 第７講(5/30)　「四日市の食」（小林［司会・講義］） 第８講(6/6)　「四日市の都市計画」（倉田［司会］；四日市市都市整備部） 第９講(6/13)　「四日市の文化財」（鬼頭［司会］；四日市市文化課） 第10講(6/20)　「四日市市のシティプロモーション」（岡［司会］；四日市市シティプロモーション部） 第11講(6/27)　「四日市市の危機管理と防災」（鬼頭［司会］；四日市市危機管理統括部） 第12講(7/4)　「四日市市の子育て支援」（松本［司会］；四日市市こども未来部） 第13講(7/11)　「四日市市の行財政」（小林［司会］；四日市市財政経営部） フィールドワーク（第14・15講分） 四日市市博物館等でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。						
テキスト・教材（参考文献）	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。（Moodleでの配布を予定）						
事前・事後学習	事前学習：講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習（90分程度）事後学習：講義中の課題を行う（90分程度）						
成績評価方法	以下の３つで総合評価します。 講義中の課題（リアクションペーパー）各200字程度（60%） フィールドワークに関するレポート（20%） 学期末試験（20%）						
授業内の課題・提出方法	毎回、課題を設定し小レポートを提出（Moodleを使用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。						
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。						
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。						

授業科目名	地域社会の歴史			科目コード	171302	授業コード	122205
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GEC1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	地域社会の歴史・文化を知ることで、政治だけでない人々の営みを理解し、自分たちも未知なる社会に立ち向かう態度を先人たちの経験を追体験することにより養う。						
到達目標	1.地域社会の歴史・文化に関する知識を身につける。 2.知識を活用し、発信できる力を身につける。 3.地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につける。						
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　時代区分等歴史の基礎知識 第3回　考古 第4回　古代(1) 第5回　古代(2) 第6回　中世(1) 第7回　中世(2) 第8回　中世(3) 第9回　近世(1) 第10回　近世(2) 第11回　近世(3) 第12回　近世(4) 第13回　近代(1) 第14回　近代(2) 第15回　現代						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示する。						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。(60分) 事後学習については、毎回の講義に関して不明点を残さないように調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。(60分)						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末レポート試験＝70% なお、病欠・公欠等は別途相談のこと。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるkことがあるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	市民教育			科目コード	171303	授業コード	123404
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GEC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。						
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第２講　マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第３議　日常生活の哲学 第４講　道徳と倫理 第５講　エートス 第６講　「力」と「責任」 第７講　「民主主義」と「権威主義と」 第８講　ファシズムの脅威 第９講　『ウェイブ』（Die Welle ） 第10講　「悪の凡庸さ」 第11講　マイノリティー 第12講　動物の権利 第13講　人工知能のチャレンジ 第14講　これからの哲学の問題 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いますか？一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。						

授業科目名	人権論			科目コード	171304	授業コード	125501
担当教員	小林　慶太郎、浅井　雅、二村　建也、倉田　英司、フェリペ　フェハーリ、永井　博			科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。						
授業計画	第１講（ 9/26） ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林） 第２講（10/ 3） 情報リテラシーと犯罪対策（三重県警サイバー犯罪対策課） 第３講（10/10）日本の財政状況と税金（財務省 津財務事務所） 第４講（10/17）お金をうまく管理しよう①（二村） 第５講（10/24）お金をうまく管理しよう②（二村） 第６講（10/31）お金をうまく管理しよう③（二村） 第７講（11/ 7） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学２期生 原田さん（津市職員） 第８講（11/14）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ホック・モビヌルさん） 第９講（11/21）教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（永井） 第10講（11/28）世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林） 第11講（12/ 5） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（倉田） 第12講（12/12）外国人研修生の日本での生活紹介および子供の森計画について（オイスカ） 第13講（12/19）教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（浅井） 第14講（ 1/ 9） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（フェハーリ） 第15講（ 1/16）教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（小林） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序・内容は変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（１日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。						
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。						
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な４年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	地域社会と環境			科目コード	171305	授業コード	125309
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけではなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　地域社会と環境問題 第３講　農村と里山 第４講　里山の自然と維持管理 第５講　里山の衰退と獣害問題 第６講　里山の再利用とエコツーリズム 第７講　郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第８講　都市の自然と生物多様性 第９講　外来生物問題 第10講　ペットの遺棄と地域ネコ 第11講　グローバル化と感染症問題 第12講　都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講　地域住民による外来生物対策 第14講　地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講　まとめ
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（１日平均30分）。
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。

授業科目名	地域防災			科目コード	171306	授業コード	125307
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 ＊テキスト・受験料などの実費18，000円が必要です。 （この金額は変更の可能性があります）						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド 1 4/11 ガイダンス(対面)／補講1；近年の災害／第15講；地震・津波 ／第16講；風水害／第11講；復旧・復興 2 4/18 第20講；災ボラ／第14講；事業継続／第6講；ハザードマップ 3 4/25 補講2；耐震／第12講；医療／第18講；避難所 4 各自 普通救命講習（市町の消防本部など） 自分の住む市町か、四日市市で、各自で申し込み受講し、修了証のコピーを提出する 5～7 5/24 防災士養成講座（会場研修）① 8～10 5/25 防災士養成講座（会場研修）② 11 5/24 第1講；地震・津波／第2講；気象災害／第3講；土砂災 12 5/31 第4講；火山／第5講；火災／第7講；情報と予報・警報 13 6/7 第8講；災害情報／第9講；行政／第10講；行政の対策 14 6/14 第13講；ライフライン／補講3；損害保険／第17講；自主防 15 6/21 第19講；多様性／第21講；防災士の役割／補講4；各種訓練 学期末試験：7/4 ★8月3日(日)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。						
テキスト・教材（参考文献）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担￥18，000に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要個所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要個所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。						
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	地域連携特別講義 a			科目コード	171307	授業コード	126503
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GEC1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	10月上旬　「ガイダンス」 13：00−14：00　現状把握と課題解決の考え方 14：10−15：10　ご当地グルメを活用した町おこし 15：20−17：00　グループワーク 10月中旬　「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00−15：30　展示見学・講義 15：40−17：00　グループワーク 10月下旬　「食を活かした観光開発」 10：00−12：00　施設見学・体験 12：00−13：00　昼食・移動 13：00−14：00　農を活かした観光開発 14：10−16：10　グループワーク 11月下旬　「食と観光を踏査する」 10：00−16：10　フィールドワーク 12月上旬　「食と観光を考える」 13：00−17：00　グループワーク 12月中旬　「食と観光を発表する」 13：00−16：00　成果発表会 16：00−17：00　講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料等を配布する場合があります。						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢　60% ②成果発表レポート　40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・ プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	経営学			科目コード	171401	授業コード	123705
担当教員	小西　琴絵			科目ナンバリング	GLAS1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ，社会や地域の課題を発見し，原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識をにつけている。						
授業のねらい	本講義のねらいは初学者が経営学の基礎的諸概念，基本用語，各理論の概要について理解するすることである。またこの知識を用いて社会や企業に潜む様々な課題を自ら発見し解決する能力を身につける。						
到達目標	本講義の到達目標は以下の3点である。 ①　経営学の基礎的概念，基本用語，各理論の概要について理解することができる。 ②　企業の仕組みやシステムについて説明することができる。 ③　企業が直面する重要な経営課題を説明することができる。						
授業計画	第 1 講 ガイダンス 第 2 講 企業に関する基礎知識① 第 3 講 企業に関する基礎知識② 第 4 講 人的資源管理論① 第 5 講 人的資源管理論② 第 6 講 経営戦略論① 第 7 講 経営戦略論② 第 8 講 マーケティング論① 第 9 講 マーケティング論② 第10講 生産管理① 第11講 生産管理② 第12講 会計① 第13講 会計② 第14講 サプライチェーン・マネジメント 第15講 ラップアップ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	【テキスト】 なし（講義資料を学内システム上で配布） 【参考文献】 ・加護野忠男・吉村典久（2012）『1からの経営学（第2版）』碩学舎。 ・北中英明（2020）『プレステップ経営学　第2版』 弘文堂。 ・上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明（2018）『経験から学ぶ経営学入門（第2版）』 有斐閣ブックス。						
事前・事後学習	予習（90分）：講義資料を熟読し，わからない言葉などを事前に辞書で調べておくこと 復習（90分）：講義資料と確認課題の内容を照らし合わせながら自身の理解度を把握すること						
成績評価方法	毎講義後の確認課題30%，中間課題30%，期末課題40%						
授業内の課題・提出方法	・毎講義後に，講義内容の理解度を確認する課題を提示する ・確認課題，中間課題はmoodleにて提出すること ・期末課題についてmoodleでの提出を予定している						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・確認課題は提示した翌週に講評する ・中間課題は採点後に講評する						
アクティブラーニング	確認課題や中間課題の実施						
実務経験のある教員							
担当者から一言	・講義資料の紙での配布は原則しませんので各自で事前に印刷やダウンロード等して準備すること ・受講生の理解度や講義の進捗状況に合わせて，適宜レポートなどの追加課題を課すことがある						

授業科目名	経済学			科目コード	171402	授業コード	122801
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GLAS1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的考え方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならなくなる。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。						
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：能登半島地震と経済① 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 9：日本経済における「働き方」の変化 10：文化・スポーツなどの経済活動 11：企業経営の事例から経済を学ぶ 12：インバウンド・外国人と日本経済① 13：インバウンド・外国人と日本経済② 14：能登半島地震と経済② 15：復習と試験の説明						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。						
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートをとり、写真に撮影してMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	政治学			科目コード	171403	授業コード	122201
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	GLAS1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
授業のねらい	私たちは不可避に政治に出会うことになります。それは「政治」が、独りでは生きていけない私たちのあいだのルールを決める営みだからです。本講義ではこのような集合的意思決定としての政治について学習します。 本講義前半（4～10回）では政治制度や政治に参加する集団の行動原理について「利益」の観点から分析し、政治学の基礎的知識を身に着けます。 本講義後半（11～15回）では「利益」の観点から離れた別の視点から政治の世界を眺め、単なる利益闘争には還元できない政治学の側面を身に着けます。
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる
授業計画	01.ガイダンス／政治とは何か？ 02.政治のとらえ方 03.なぜ分け合う必要があるのか 04.国家という枠組み 05.政治体制 06.選挙と多数決 07.政党と政党システム 08.政権とアカウンタビリティ 09.政策過程と官僚制・利益団体 10.安全保障と平和 11.民主主義とは何か？ 12.「投票」だけが民主主義か？ 13.「私」のことも政治か？ 14.「市民である」とはどういうことか？① 15.「市民である」とはどういうことか？② 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳（2020『政治学の第一歩［新版］」有斐閣 ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望（2017）『ここから始める政治理』」有斐閣
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。

授業科目名	社会学			科目コード	171404	授業コード	121301
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GLAS1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる存在でもあります。私たちはどのように社 会を作り、そして社会に作られているのか。この両面から社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を理解する						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 規範と価値 第３講 自分とは何か 第４講 スポーツから近代社会を考える 第５講 人は集団をつくる 第６講 家族を考える 第７講 ジェンダーとは 第８講 格差と社会階層 第９講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内でリアクションペーパーを作成し提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回の課題は翌週以降の授業内で適宜まとめてコメントします。						
アクティブラーニング	リアクションペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	ジェンダー論			科目コード	171405	授業コード	122701
担当教員	松本　彩月、三田　泰雅			科目ナンバリング	GLAS1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決しうるものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識して、自分でも気づけるようになってもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は２名の教員（松本・三田）で実施します。						
到達目標	１ ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 ２ 社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。 ３ 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、ジェンダーバイアス（松本） 第２講 近代社会とジェンダー（三田） 第３講 ジェンダーと表象（三田） 第４講 言葉とジェンダー（松本） 第５講 ジェンダーと家族（松本） 第６講 ジェンダーと政治（松本） 第７講 ジェンダーと法　（松本） 第８講 ジェンダーと社会保障（松本） 第９講 ジェンダーと福祉（松本） 第10講 男性のジェンダー（三田） 第11講 ジェンダーとメディア（松本） 第12講 ジェンダーと教育（松本） 第13講 ジェンダーと暴力（松本） 第14講 ジェンダーとケア労働（松本） 第15講 ジェンダーとグローバリゼーション（松本） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。また、ジェンダーにまつわるニュースがあった場合は、内容が変わる可能性もあります。						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）						
成績評価方法	毎回の小レポート 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った２人の教員が、それぞれの専門や持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。						

授業科目名	メディアリテラシー			科目コード	171406	授業コード	121408
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	GLAS1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。 社会のなかでのメディアの有り様は、変革を続けている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前に思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。						
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。						
授業計画	第１講　ガイダンス／メディアとは／メディアリテラシーとは 第２講　デジタルネイティブ 第３講　Society5.0／DX 第４講　AIとの付き合い方 第５講　国家・ネット企業が握る個人情報 第６講　メタバース 第７講　XR・VR・AR・MR 第８講　メディアエコロジー 第９講　スマホ依存 第10講　SNSでのふるまい 第11講　フェイクニュース 第12講　インターネットとマスメディア 第13講　メディアの身体性 第14講　コミュニケーションの実質 第15講　まとめ （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（90分）。毎回の授業を受けて自分のメディア行動を振り返り、考えを深めて下さい（90分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言							

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	171407	授業コード	121605
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GLAS1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回　ガイダンス　授業の概要（社会福祉とは） 第2回　社会福祉の歴史的変遷 第3回　社会福祉の制度と人権 第4回　社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回　社会保障　小レポート-1 第6回　少子社会の展開 第7回　子ども家庭福祉 第8回　高齢者福祉 第9回　障がい者福祉 第10回　母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉　小レポート-2 第11回　生活困窮者に対する福祉 第12回　社会福祉における相談援助 第13回　地域福祉 第14回　ボランタリズムとボランティア 第15回　まとめ　小レポート-3 　定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論　社会福祉の原理と政策　第5版』勁草書房（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習180分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	日本国憲法			科目コード	171408	授業コード	122401
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GLAS1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　憲法の機能 第３講　天皇と国民の関係 第４講　国民の三大義務 第５講　基本的人権とその種類 第６講　環境権（判例的考察） 第７講　憲法上の権利と義務 第８講　法の下の平等 第９講　絶対平和主義 第10講　国家機密と国民の知る権利 第11講　平等な投票にするための権利義務 第12講　行政救済 第13講　国際私法 第14講　憲法改正問題 第15講　まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験　70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で「憲法」を中心に法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業科目名	法学			科目コード	171409	授業コード	125603
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GLAS1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修

授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。
授業のねらい	法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思いますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　六法の意味、社会規範 第３講　実定法と自然法、法源 第４講　制定法の体系、法の形式による分類 第５講　法の種別（国内法）、国内法と国際法 第６講　公法と私法、裁判による権利の実現 第７講　法の適用、法解釈における問題点 第８講　権利と義務、権利義務の主体と客体 第９講　罪刑法定主義 第10講　法と裁判（裁判の仕組み） 第11講　民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講　司法権の独立と公開主義 第13講　自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講　裁判員制度とその課題 第15講　まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験　70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業科目名	倫理学			科目コード	171501	授業コード	123804
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GLAH1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができると意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。						
到達目標	主な社会思想かの思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。						
授業計画	第１講　ガイダンス・社会学とは何か 第２講　社会学の目的 第３講　古代におけるポリス 第４講　国家の誕生 第５講　社会契約論 第６講　コントにおける「社会学」 第７講　実証主義と反実証主義 第８講　イデオロギー 第９講　資本主義の精神 第10講　社会的事実 第11講　社会思想は世界を変える 第12講　フランクフルト学派 第13講　人間解放 第14講　歴史の終わり 第15講　これからの社会思想						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。						

授業科目名	哲学			科目コード	171502	授業コード	123201
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GLAH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。						
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス・「哲学」とは何か 第２講　哲学の起源 第３講　哲学の三つの伝統 第４講　西洋と東洋 第５講　ソクラテス：無知の知 第６講　プラトン：洞窟の比喩 第７講　アリストテレス：現実とは何か 第８講　中世哲学 第９講　中世から近代へ 第10講　近代哲学 第11講　近代から現代へ 第12講　カント：超越とは何か 第13講　弁証法 第14講　懐疑的解釈学の哲学者たち 第15講　言葉には力がある！						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。						

授業科目名	文学			科目コード	171503	授業コード	121404
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	GLAH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年９月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年２月、イスラエルのガザ地区侵攻は2023年10月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい						
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　日露戦争概説 第３回　与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第４回　陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第５回　トルストイ「汝悔い改めよ」 第６回　幸徳秋水「戦争来」 第７回　内村鑑三の日露戦争非戦論 第８回　前半のまとめと復習（グループワーク） 第９回　ヴェトナム戦争概説 第10回　ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回　武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回　日本国憲法第９条 第13回　加藤周一ほか「９条の会」 第14回　核戦争と「文学者の反核声明」 第15回　全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテクストは、それぞれのテクストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。						
授業内の課題・提出方法	毎回ミニ・レポートを提出してもらう。提出方法は、ミニ・レポート用紙を配布するので、それを講義の終りに提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニ・レポートは、講義を聴いて書いたと思えないもの、何が書いてあるか意味が分からないもの、また講義の内容を単にまとめただけのものなどは高く評価できない。講義の内容を踏まえ、それをもとに自分の考えを筋道立てて分かりやすく書いているレポートを高く評価する。毎回３点満点で評価し、その点数を記して翌週の講義の際にコメントとともに返却する。						
アクティブラーニング	毎回提出のミニ・レポート。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるつもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。出席して坐っていれば単位が取れると安易に考えないでほしい。ノートをしっかり取る、関連する作品を自分でさがして読むなど、積極的に取り組んでほしい。						

授業科目名	文章表現論			科目コード	171504	授業コード	123210
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GLAH1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講座では、パフォーマンスと映画制作をテーマに、楽しみながら英語を学びます！演劇やラジオドラマや映画を通じて英語を自然に使うことで、セリフを覚えたり感情を込めて話す練習ができ、発音や表現力が向上します。講座の前半では、英語の基礎を学びながら、スキットに関連する語彙やフレーズを練習します。そして、ペアやグループでそのスキットを演じます。次のステップでは、学んだ語彙やフレーズを活用しながら、短いスクリプトを書き、オリジナルスキットを作成します。講座の後半では映画撮影の基本的なスキルを学びながら短編映画を制作						
到達目標	1. 英語での自然なコミュニケーション力の向上。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. チームワークや自己表現のスキルを身につける。 5. 基本的な撮影技術を学ぶ。						
授業計画	第1 講　ガイダンス- Unit 1- Is it ok to play with fireworks? 第２講　Unit 1- Is it ok to play with fireworks? 第３講　Unit 1- Is it ok to play with fireworks?　パフォーマンス 1 第４講　What time does the show start? 第５講　What time does the show start?　パフォーマンス 2 第６講　ラジオドラマ-『スリラー』 第７講　ラジオドラマ-『スリラー』　パフォーマンス 3 第８講　『殺し屋』- short story 第９講　『殺し屋』- short story- ラジオドラマ 第10講　『殺し屋』- ラジオドラマ　パフォーマンス 4 第11講　短編映画制作 第12講　短編映画制作 第13講　短編映画制作 第14講　短編映画制作 第15講　短編映画制作 映画発表会- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	『Performance』 David Harrington， Charles LeBeau Language Solutions Inc. 978-192-927-4338						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）						
成績評価方法	学習態度　20% パフォーマンス(3)　30% 『殺し屋』- ラジオドラマ　20% 短編映画の制作、演技、発表　30%						
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	パフォーマンス、スキット、ラジオドラマ						
実務経験のある教員							
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. ２回遅刻すると一回の欠席になる。						

授業科目名	文化論			科目コード	171505	授業コード	125604
担当教員	永井　博、富田　与			科目ナンバリング	GLAH1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、2人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テクスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テクスト理論など）と実践を紹介します。						
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：ガイダンス、表象文化とは 富田 第2講：表象の考え方 富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」をめぐる表象　富田 第4講：「厄払い」「病」をめぐる表象　富田 第5講：「街路の表象 バンクシーを中心に」「病」と「戦争」をめぐる表象 富田 第6講：テクスト理論の基礎　永井 第7講：「戦陣訓」の捕虜言説　「戦争」をめぐる表象　永井 第8講：中島敦「文字禍」の捕虜言説　「戦争」をめぐる表象　永井 第9講：太宰治「冬の花火」の捕虜言説　「戦争」をめぐる表象　永井 第10講：中島敦「李陵」の捕虜言説（1）　「戦争」をめぐる表象　永井 第11講：中島敦「李陵」の捕虜言説（2）　「戦争」をめぐる表象　永井 第12講：井上哲次郎の捕虜言説（1）　「戦争」をめぐる表象　永井 第13講：井上哲次郎の捕虜言説（2）　「戦争」をめぐる表象　永井 第14講：竹山道雄「ビルマの竪琴」の捕虜言説　「戦争」をめぐる表象　永井 第15講：石野径一郎「ひめゆりの塔」の捕虜言説「戦争」をめぐる表象　永井 ＊講義の内容、順番は変更することがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	講義に関係する諸種の文章を読む。（事前・90分） 毎回ミニ・レポートを指定した期日までに提出する。（事後・90分）						
成績評価方法	毎回のミニ・レポートの評価45%と定期試験レポート55%で成績評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義内にレポートを紙に書いて提出するか、後日に期限を決めてmoodleに提出するか、教員が指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の中でミニ・レポートに対してコメントします。						
アクティブラーニング	毎回ミニ・レポートの提出を求めます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていないことを見つけ、新しい見方を提案してみてほしい。逆に、出席してただ坐っていれば単位が取れると安易に考えないでほしい。ノートをしっかり取る、関連する作品を自分でさがして読むなど、積極的に取り組んでほしい。						

授業科目名	教育学			科目コード	171506	授業コード	121606
担当教員	黒田　司			科目ナンバリング	GLAH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	教育学概論は、教育に関するさまざまな事象や問題について考える学問です。教育は人間社会で固有の営みですが、決して学校だけで行われるものではありません。本講義では、教育についての歴史的な背景や思想、教育制度についての理解を深めていきます。その上で、身近に起こっている教育に関するテーマを取り上げ、理解を深めながら、教育学の基本的な知識習得を目指します。						
到達目標	本講義では、教育に関するさまざまな問題を理解し、それらについて説明できるようになることを目指していきます。人間にとって不可欠な営みである教育について、歴史的背景や思想、制度の変遷を理解し、さまざまな教育の問題について客観的に考察できる力を養います。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、教育とは 第２講　　教育の歴史と思想 第３講　　日本の教育制度と海外の教育制度 第４講　　学歴社会の変貌と格差 第５講　　いじめの問題 第６講　　不登校の課題と対応 第７講　　体罰の問題 第８講　　情報社会と教育 第９講　　インクルーシブ教育について 第10講　　グローバル社会と教育 第11講　　青年期と教育 第12講　　キャリア教育①キャリア教育とは 第13講　　キャリア教育②日本のキャリア教育政策 第14講　　地域の教育と生涯学習 第15講　　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義毎にレジュメを配布します。 参考文献については、適宜指示します。						
事前・事後学習	【事前学習】テレビや新聞等で教育問題に意識すること（毎日20分以上） 【事後学習】各講義のレジュメを見直し、不明な点について調べる（90分）						
成績評価方法	定期試験（持ち込み不可）：60% 小レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義毎に小レポートまたはコメントペーパー						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業にて適宜コメントします						
アクティブラーニング	小レポート及びコメントペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	一緒にさまざまな教育問題について考えていきましょう。積極的な授業参加を期待しています。						

授業科目名	日本史概論			科目コード	171507	授業コード	125304
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GLAH1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供する。						
到達目標	1. 歴史と文化・思想のつながりを理解することができる。 2. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 3. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。						
授業計画	第1回　講義のガイダンス、自己紹介 第2回　考古 第3回　古代(1) 第4回　古代(2) 第5回　古代(3) 第6回　中世(1) 第7回　中世(2)＆近世(1) 第8回　中世(3)＆近世(2) 第9回　近世(3) 第10回　近世(4) 第11回　近世(5) 第12回　近世(6) 第13回　近世(7) 第14回　近代(1) 第15回　近代(2)						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。(90分) 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。(90分)						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート試験＝55% なお、病欠・公欠等は別途相談のこと。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	世界史概論			科目コード	171508	授業コード	122603
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GLAH1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目と考えるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活・社会に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	第1回ガイダンス、歴史の基礎知識等 第2回　政治・行政の概要 第3回　戦前の政治・行政(1) 第4回　戦前の政治・行政(2) 第5回　戦前の政治・行政(3) 第6回　戦後の政治・行政(1) 第7回　戦後の政治・行政(2) 第8回　戦後の政治・行政(3) 第9回　産業・経済(1) 第10回　産業・経済(2) 第11回　社会・文化(1) 第12回　社会・文化(2) 第13回　社会・文化(3) 第14回　社会・文化(4) 第15回　社会・文化(5)						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。(90分) 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。(90分)						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート試験＝55% なお、病欠・公欠等は別途相談のこと。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	地理学概論			科目コード	171509	授業コード	122501
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GLAH1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	地理学概論では、様々な国や地域に関して、歴史、文化、社会、自然、産業など様々な視点から幅広く学んでいきます。この授業を通して、地域の現状や課題の読み取り方、フィールドワークの手法、調査時資料の使い方について学習します。						
到達目標	地域の現状および課題に対する地理学的な見方や考え方を身につけ、問題を発見するまた新しい発想を生み出す力をつけることを目的とする。						
授業計画	１. ガイダンス ２. 地理学の概要 ３. 世界の地形・気候 ４. 日本の地形・気候 ５. 資源と産業1 ６. 資源と産業2 ７. 人口問題 ８. 都市・居住問題 ９. 都市の地域構造 10. 日本の都市と課題 11. 世界の民族と衣食住 12. 地誌的考察（アジア、アフリカ） 13. 地誌的考察（ヨーロッパ、ロシア） 14. 地誌的考察（アメリカ、オセアニア） 15. まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ① 講義時に提示する課題への提出状況及び受講態度　70% ② 定期試験時に提出する(これまでの講義に即した)レポート課題　30% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回において説明する。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、プレゼンテーション、フィールドワーク						
実務経験のある教員							
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 資料収集やフィールドワークも含めて幅広く調べることを心掛けるなど、積極的に参加してください。						

授業科目名	科学的思考論			科目コード	171601	授業コード	124314
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	河川とその周辺環境が持つ多様な役割や課題を理解し、持続可能な管理と保全の方法を学ぶことです。具体的には、河川が生態系や水資源、地域社会に与える影響を科学的に分析し、気候変動や人間活動が引き起こす問題を解決するための知識を深めます。						
到達目標	本講義では、河川の生態系や水質保全の基礎知識を理解し、気候変動や人間活動による影響を評価し、持続可能な管理や保全策を提案できる力を養うことを到達目標とする。						
授業計画	第１講　ガイダンス、河川の基礎知識 第２講　河川の形成と地形 第３講　河川流路 第４講　源流域と上流域 第５講　河川中流域 第６講　河川下流域 第７講　河川水質（栄養塩） 第８講　河川水質（有機物） 第９講　河川生態系 第10講　水害被害 第11講　水害対策 第12講　治水 第13講　利水 第14講　河川利用 第15講　河川管理 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト 身近な水の環境科学（第2版）、松本嘉孝ほか、朝倉書店、2022、2600円＋税 参考文献 総合河川学入門、末次忠司、鹿島出版会、2015、2200＋税						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート　３０％ レポート　７０％						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートについては、毎回採点し返却時に解説を行う。						
アクティブラーニング	実習、レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。						

授業科目名	数学概論			科目コード	171604	授業コード	122202
担当教員	金岩　稔			科目ナンバリング	GLAN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。						
到達目標	（１）数学的な物の考え方ができるようになる。 （２）基礎的な数学を理解する。						
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数１ 10 関数２ 11 極限１ 12 極限2 13 回転1 14 回転2 15 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献）	配布資料						
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。						
成績評価方法	平常点（50%）課題（50%）						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に配布・提出。 Moodle併用する場合もある。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事後の講義やMoodleにて。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	なるべく数式を使わず、数学の面白さをわかってもらえたらと思います。						

授業科目名	化学概論			科目コード	171605	授業コード	121302
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	GLAN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。 関連科目は「環境化学」、「自然調査法」、「環境						
到達目標	「元素の周期表から的確な情報を引き出す」 　「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになろう。						
授業計画	第1講　ガイダンス、化学の学び方 第2講　物質とは何か 第3講　身の回りの物質 第4講　物質の性質 第5講　物質の状態 第6講　原子と電子軌道 第7講　電子配置と周期表 第8講　化学結合１ 第9講　化学結合2、物質量 第10講　気体と溶液の性質 第11講　化学反応 第12講　酸と塩基 第13講　酸化と還元 第14講　光 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。						
成績評価方法	宿題プリント（12回分）：30%、定期試験：70%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法−授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から12回分課す。 提出方法−翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 　宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
アクティブラーニング	課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	地学概論			科目コード	171606	授業コード	121101
担当教員	森　康則			科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある事例を交えながら学んでいきます。						
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。						
授業計画	第１講　ガイダンス・地学とは 第２講　地球の構造と形状 第３講　岩石と鉱物１ 第４講　岩石と鉱物２ 第５講　化石 第６講　地質年代１ 第７講　地質年代２ 第８講　堆積作用 第９講　プレートテクトニクス 第10講　火山 第11講　地震 第12講　自然災害１ 第13講　自然災害２ 第14講　温泉１ 第15講　温泉２						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（１）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （２）期末課題 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNIPAを使って、アナウンスします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。						
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を薦めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。						

授業科目名	生物学概論			科目コード	171607	授業コード	123801
担当教員	新井　優一			科目ナンバリング	GLAN1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことをはっきりさせて行きます。まず、生物の共通性と多様性について、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。						
到達目標	人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。						
授業計画	第1講　ガイダンス 第2講　生物の共通性と多様性 第3講　生物とエネルギー 第4講　代謝と酵素 第5講　光合成：エネルギーの生産 第6講　呼吸：エネルギーの活用 第7講　遺伝情報とDNA 第8講　遺伝情報とタンパク質の合成 第9講　情報の伝達 第10講　内分泌系とホルモン分泌の調節 第11講　体内環境の維持のしくみ 第12講　免疫の働き 第13講　植生と遷移 第14講　生態系と生物の多様性 第15講　生態系のバランスと保全 定期試験　持ち込み不可 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。						
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布します						
事前・事後学習	講義終了後、講義内容のノートを見返し、メモした疑問点を調べる（60分） 講義の前日に前回の講義ノートを読み返して整理する（60分）						
成績評価方法	授業中の課題（50%）、定期試験（50%）						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中の課題、必要に応じてフィードバックします						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	生物学は生命現象を研究する学問であり、生物学を学ぶことで自然界に生息する生物や人間である私たちの体についても深く理解することができます。						

授業科目名	生物と進化			科目コード	171608	授業コード	123510
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。						
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　野生動物の系統と分類 第３講　日本の野生動物の特徴と生物地理１ 第４講　日本の野生動物の特徴と生物地理２ 第５講　野生動物の個体群と生息場所 第６講　野生動物の行動と社会 第７講　野生動物の繁殖生態 第８講　野生動物をめぐる現状と課題 第９講　飼育下の野生動物の活用 第10講　野生動物の死体の活用 第11講　野生動物の保護管理 第12講　生息場所の保全管理 第13講　種と個体群の保護管理 第14講　野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一ら）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔ら）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（１日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境論			科目コード	171609	授業コード	122807
担当教員	浦畑　夢			科目ナンバリング	GLAN1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	近年では，地球温暖化などの環境問題によって農業の持続性が危ぶまれている．その一方で，農業が環境に与える好影響と悪影響があり，また，農業による直接的な影響のみならず，農業を営むために整備されている設備等が環境に与える影響も存在する．本授業では，農業と環境の関係について技術（ハード）と政策（ソフト）の観点から幅広く学ぶ.						
到達目標	農業と環境の関係について学び，今後の農業の在り方について考えることができる.						
授業計画	第1講　地球を取り巻く環境問題 第2講　農業の近代化 第3講　農業に関連する環境政策 第4講　農業と水資源：歴史と現状 第5講　農業と水資源：三重県北部地域を例として 第6講　農業による食糧供給機能 第7講　農業が環境に与える影響 第8講　農業水利施設について 第9講　農業水利施設と環境（1） 第10講　農業水利施設と環境（2） 第11講　農村が担う役割（1） 第12講　農村が担う役割（2） 第13講　農業と再生可能エネルギー 第14講　農業と防災 第15講　これまでの内容の振り返り 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	シラバスの授業計画を確認し，関連する内容を参考文献などで予習する(90分)．各回の授業を復習し，次回授業の小テストに備える(90分).						
成績評価方法	小テスト課題30%，レポート課題30%，定期試験40%とする. 毎回の授業冒頭で，前回授業の簡単な小テストを行う．レポート課題は2回の実施を予定している.						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度を深めるために，前回授業内容の簡単な小テストを行う.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストは採点して，次回授業に返却する．また，レポート課題についてはフィードバックと採点を行い，返却する.						
アクティブラーニング	レポート課題の実施						
実務経験のある教員							
担当者から一言	農業と環境は密接にかかわっており，環境に好影響を及ぼす側面がある一方で，悪影響を及ぼす側面もあります．農業と環境がどのように関連しているのかを学び，考える機会としてください.						

授業科目名	心理学			科目コード	171610	授業コード	123601
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GLAN1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	古代から、人は宗教や哲学を通じて魂と心について考えてきました。啓蒙時代以来、多くの学者は人の心と行動を科学的に研究する学問として心理学を確立しました。 この授業では、心理学とその歴史を学びながら、人間の行動や思考、感情、意識、性格、精神、意志などを研究します。						
到達目標	心理学の専門知識を高め、自分や周囲の人と良い関係の作り方について学びます。						
授業計画	第１講　ガイダンス・心理学とは何か 第２講　古代における「心」（プシュケー）の思考 第３講　心身二元論 第４講　啓蒙時代と心理学の誕生 第５講　「心」の哲学 第６講　行動主義 第７講　ゲシュタルト 第８講　精神分析 第９講　臨床心理学 第10講　認知心理学 第11講　発達心理学 第12講　心理学と社会 第13講　「私」と「汝」 第14講　心理学と現在 第15講　これからの心理学						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	人間の心を科学の立場から一緒に勉強しましょう。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅰ			科目コード	171701	授業コード	121701
担当教員	三田　泰雅、二村　建也、小西　琴絵、松本彩月、岡　良浩、鶴田　利恵			科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。						
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1.　世の中の仕事について知る 2.　いろいろな仕事のつながりを知る 3.　将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる						
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①キャリアとは 3 労働②キャリアを考えるには 4 労働③現代社会の職業 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③世界の中の日本の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて						
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。						
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）						
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。						
アクティブラーニング	小レポート						
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。						
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ			科目コード	171702	授業コード	123301
担当教員	小林　慶太郎、小西　琴絵			科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では、前の学期に引き続き、卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えていきます。自分の「就きたい職業」や「働きたい業界」をどのように見つけ、そして、就職活動をどのように進めていったら良いのか、実践も交えながら探っていきます。現在の日本の就職事情等をしっかり把握し、自ら主体的に行動できるようになることをねらいとしていますので、進学等を予定しているなどで卒業後すぐに就職をしないつもりの学生にとっても、有益な授業になるはずです。						
到達目標	以下の３つの到達目標があります １．なぜ、どのような仕事に就きたいのかを、自らの言葉で説明できるようになる（志望理由） ２．自らがどんな人間であるのかを長所・短所も含めて客観視して説明できるようになる（自己PR） ３．自らの大学生活を振り返り、どのようなことに取り組み、どのような力を育んできたのかを説明できるようになる（ガクチカ）						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　就職活動のすすめ方 第３講　インターンシップ・オープンカンパニーのすすめ 第４講　自己分析 第５講　エントリーシート・履歴書対策 第６講　業界・企業研究 第７講　面接対策 第８講　グループディスカッション対策 第９講　筆記試験対策 第10講　就職活動マナー 第11講　業界・企業セミナー① 第12講　業界・企業セミナー② 第13講　業界・企業セミナー③ 第14講　働く者の権利 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	適宜、資料などを配布する予定です。						
事前・事後学習	新聞やニュース、特に自らの志望する業界などに関するものに、しっかり目を通すこと（1日20分以上）。しっかり復習をし、夏のオープンカンパニーや就職活動の開始に備えること。						
成績評価方法	日頃の課題等への取組状況：60% 期末試験：40%						
授業内の課題・提出方法	ゲストスピーカーによって異なるため、授業中に指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降の授業中にコメントする。						
アクティブラーニング	実際に書類を書く練習をしたり、グループワークを行ったりする予定である。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、企業等において、就職活動等に関する情報を多く収集し、指導実績も豊富な方々です。						
担当者から一言	大学生活も折り返し点を過ぎました。自身の将来、卒業後の進路を見据えて、真剣に取り組んでいってください。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ			科目コード	171703	授業コード	126504
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。						
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、数学１ 第２講 数学２ 第３講 数学３ 第４講 数学４ 第５講 数学５ 第６講 数学６ 第７講 数学７ 第８講 数学８ 第９講 数学９ 第10講 読解１ 第11講 読解２ 第12講 読解３ 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	「キャリア基礎a」用テキストを使用します。						
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。						
成績評価方法	期末試験 100%						
授業内の課題・提出方法	テキストの各章末の確認テスト問題を課題とします。 Moodleに解答を掲示しますので、それを見て自分で答え合わせをしてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答・解説はMoodleにて示します。 課題や授業内容などについて、疑問がありましたら、メール等で受け付け、返信します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	担当者の高田は、複数の大学や再就職希望社会人向けの就職試験対策講座や公務員試験対策講座の担当経験あり。						
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。						

授業科目名	ボランティア活動ａ			科目コード	171801	授業コード	126102
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GESC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、ｂを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に着け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1　対象となる活動 ①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②　別に大学の審査により認められたボランティア活動 2　単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3　活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4　事前申請 参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 5　単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の１月末日まで） ①　ボランティア活動ａ単位認定申請書 ②　ボランティア活動団体発行の証明書 ③　活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	ボランティア活動ｂ			科目コード	171802	授業コード	126103
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GESC1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、ｂを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に着け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1　対象となる活動 ①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②　別に大学の審査により認められたボランティア活動 2　単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3　活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4　事前申請 参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 5　単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の１月末日まで） ①　ボランティア活動ａ単位認定申請書 ②　ボランティア活動団体発行の証明書 ③　活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修			科目コード	171803	授業コード	126502
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	GESC1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「 特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府組織）、国際ボランティアなどの海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶことをねらいとします。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象です。 海外で実際に行われている社会貢献活動に参加することによって、国際的な視野を広げることを目的とします。						
到達目標	1　国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2　国際感覚を身につけます。						
授業計画	1　単位認定の対象となる活動 大学の審査により認められた国際協力活動（事前審査が必要です）。 2　活動時期 大学の授業、行事等に支障がないと判断された時期に活動を認めます。 3　単位認定の手続き ①事前審査が必要なため、活動参加の３ヶ月前までに教学課に申請して下さい。 ②単位認定を申請する場合は、海外研修から帰国後１か月以内に教学課に以下の書類を提出してください。 （ア）「国際協力研修単位認定申請書」 （イ）「活動団体発行の証明書」 参加者の氏名、活動内容、活動期間が明記されているもの。 （ウ）「活動日誌」 研修・活動期間中の日々の活動内容、感想などが具体的に明記されているもの。 （エ）「レポート」 研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及されているもの。参加した学生が作成。字数1，200字程度。様式は自由、パソコン（word）使用のこと。						
テキスト・教材（参考文献）	【参考情報】 公益財団法人オイスカ・ホームページ（https://oisca.org/） 外務省ホームページ（研修先の国の情報を調べて下さい。）						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも目を通すこと。（90分）						
成績評価方法	「活動日誌」（50%）、「レポート」（50%）						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、「活動日誌」と「レポート」を提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	「活動日誌」と「レポート」に対してコメントします。						
アクティブラーニング	海外で国際協力活動、フィールド・ワークに参加する。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	研修は学生が自分で活動を探し、参加して下さい。 参加費や渡航費も自分でまかなう必要があります。渡航先の状況にはくれぐれも注意して下さい。						

授業科目名	インターンシップ			科目コード	171804	授業コード	126101
担当教員	鬼頭　浩文、岡　良浩			科目ナンバリング	GESC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	大学の長期休暇などで、5社以上のオープンカンパニー（１社３時間以上）に参加する。これにより、働くことについて深く理解することが本講義のねらいである。安易な受講は避けてほしいが、社会人になる準備の科目ととらえ、積極的に履修してほしい。						
到達目標	仕事・業界について知り、働くことへの理解を深める。						
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 ５月（10月） 説明会/申込 ６月（11月） 事前学習 ７月（12月） 事前研修 ８月～９月（２月～３月） オープン・カンパニー 10月（３月） 事後学習 11月（３月） 単位認定 ＊（ ）は春季スケジュール						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。						
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。						
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	オープンカンパニーは、会社の説明や実際に働く人たちの日常を知る機会であるが、ときにはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。						
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。						
担当者から一言	気軽にチャレンジしてほしいが、安易な考えで受講することは、しないでほしい。なお、オープンカンパニーは平日昼に実施されることが多い。当然、アルバイトやクラブ活動でドタキャンすることは認められない。						

授業科目名	社会調査入門			科目コード	172101	授業コード	123206
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GSSR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。 調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1ガイダンス 2社会調査の目的と意義 3社会調査の歴史 4社会調査の種類と方法 5質的調査1：インタビューの実例 6質的調査2：参与観察の実例 7質的調査3：ドキュメント分析の実例 8量的調査1：質問紙調査の実例 9量的調査2：二次分析の実例 10量的調査3：電話調査とウェブ調査 11サンプリングの歴史 12公的統計の意義と活用 13社会調査の展開1：社会地図の方法 14社会調査の展開2：アクションリサーチ 15調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社.						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法			科目コード	172102	授業コード	123604
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GSSR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社.						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。						

授業科目名	データ分析の基礎			科目コード	172103	授業コード	125705
担当教員	小西　凌			科目ナンバリング	GSSR1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に着けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第１講　ガイダンス：統計学とは 第２講　記述統計（1）：単純集計と度数分布 第３講　記述統計（2）：中央値と最頻値 第４講　記述統計（3）：分散と標準偏差 第５講　記述統計（4）：標準化と偏差値 第６講　相関係数と因果関係 第７講　回帰分析 第８講　中間テスト 第９講　中間テスト振り返り 第10講　確率 第11講　条件付き確率とベイズの定理 第12講　ベイズの定理 第13講　期待値 第14講　統計資料の扱い方 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	講義ごとにレジュメを配布します。						
事前・事後学習	授業内でお伝えします。						
成績評価方法	中間テスト３０点、期末レポート５０点、コメントペーパー20点（予定）						
授業内の課題・提出方法	授業内でお伝えします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントペーパーに感想や疑問を書いてもらい、次の授業でお答えする形式を取る予定です						
アクティブラーニング	コメントペーパーを通じて、学生の皆さんとディスカッションできればと思います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	数学に苦手意識がある方でも大丈夫です。「統計って役に立つ」と思ってもらえるように尽力します。						

授業科目名	統計的分析			科目コード	172104	授業コード	125305
担当教員	小西　凌			科目ナンバリング	GSSR1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたいでに即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定、理論とその応用(平均や比率の差の検定、独立性の検定)、サンプリングの理論、属性相関係数(クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。						
到達目標	クロス集計、回帰分析などの概念などを身に着けて、実際のデータに適用できるようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス：授業進行や評価方法について 第2講 標本抽出：標本と母集団、無作為抽出 第3講 標本分布：標本統計量と標本分布 第4講 度数分布：度数分布表 第5講 クロス集計：カイ二乗検定 第6講 クロス集計：多重クロス表 第7講：確率論の基礎：確率変数と正規分布 第8講：中間テスト 第9講：２つの平均の差を検定する：t検定 第10講：複数の平均の差を検定する：分散分析 第11講：一次関数と相関係数：相関係数の性質 第12講：回帰分析の基礎：回帰分析の性質 第13講：重回帰分析とダミー変数 第14講：因果関係と相関関係 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	講義ごとにレジュメを配布します。						
事前・事後学習	授業内でお伝えします。						
成績評価方法	中間テスト３０点、期末レポート５０点、コメントペーパー２０点（予定）						
授業内の課題・提出方法	授業内でお伝えします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントペーパーに感想や疑問を書いてもらい、次の授業でお答えする形式を取る予定です。						
アクティブラーニング	コメントペーパーを通じて、学生の皆さんとディスカッションできればと思います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	数学に苦手意識がある方でも大丈夫です。「統計って役に立つ」と思ってもらえるように尽力します。						

授業科目名	データ解析の技法			科目コード	172105	授業コード	123701
担当教員	新井　優一			科目ナンバリング	GSSR1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	現代社会には様々なデータが溢れている。様々なデータを統計的に解析することは非常に重要であり、適切なデータ解析を行えば、物事の傾向や変化に関して一定の根拠に基づいた統計的指標による科学的な判断を下すことが可能になる。本授業ではデータ解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。						
到達目標	（1）データ解析に必要な基礎力を身につける。 （2）回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 （3）回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し，結果を適切に評価できるようになる。						
授業計画	１．ガイダンス・社会におけるデータ解析の意義 ２．エクセル基本操作 ３．データの表し方：代表値の種類と特性 ４．データの表し方：分散と標準偏差 ５．データの表し方：グラフ・ヒストグラム、箱ひげ図、散布図 ６．データの表し方：グラフ・折れ線グラフ、円グラフ、その他グラフ ７．事象の発生確率・確率分布 ８．母集団と標本集団，データのサンプリング ９．基本統計量の算出とグラフの作成 １０．統計的仮設検定の考え方 １１．統計的仮設検定の実行 １２．回帰分析1　回帰分析の考え方・単回帰の実行 １３．回帰分析2　回帰分析の精度評価 １４．重回帰分析 １５．まとめ・実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。						
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし，適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018年）						
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）						
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5 回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。						
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	データ解析は、社会のあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。						

授業科目名	フィールドワーク論			科目コード	172106	授業コード	123403
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GSSR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。
授業計画	1. ガイダンス 2. フィールドワークとは 3. フィールドワークによる調査事例 4. 目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区 5. 地区内の現状把握手法（データ分析） 6. 地区内の課題把握手法（データ分析） 7. 地区内の現状把握手法（聞き取り調査） 8. 地区内の課題把握手法（聞き取り調査） 9. 地区内の現状把握手法（参与観察） 10. 地区内の課題把握手法（参与観察） 11. 地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方 12. 調査結果の考察手法 13. 調査結果を踏まえた提言手法 14. 最終レポートのガイダンス 15. まとめ
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①講義への参加度（発言等）：30% ②各回のレポート：30% ③最終レポート：40% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、フィールドワーク調査を行います。
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。

授業科目名	社会調査実習１			科目コード	172107	授業コード	122405
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GSSR1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。特に、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査を通じて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。
授業計画	１．ガイダンス ２．問題の整理 ３．対象について学ぶ ４．問いを立てる ５．先行研究をさがす ６．先行研究の検討(1) ７．先行研究の検討(2) ８．仮説の形成 ９．調査項目の洗い出し 10．調査表作成の基礎 11．調査票の作成(1) 12．調査票の作成(2) 13．調査票の完成 14．調査の実施 15．まとめ
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）。
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%
授業内の課題・提出方法	不定期に中間報告の機会を設けます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習2」の単位も取得する必要があります。

授業科目名	社会調査実習２			科目コード	172108	授業コード	122803
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GSSR1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置 いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。（5）レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。
授業計画	１．ガイダンス ２．データの整理 ３．データ入力(1) ４．データ入力(2) ５．データ分析の基本 ６．データの分析(1) ７．データの分析(2) ８．分析結果の報告(1) ９．分析結果の報告(2) 10．分析結果の報告(3) 11．レポートのまとめ方 12．報告原稿の発表(1) 13．報告原稿の発表(2) 14．報告原稿の発表(3) 15．報告書の作成
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）。
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①実習への参加度 50% ②期末レポート 50%
授業内の課題・提出方法	不定期に報告機会を設けます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、実際に現地で社会調査を行います。
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習1」の単位も取得する必要があります。

授業科目名	公務のための数的推理			科目コード	172201	授業コード	125801
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員１次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、ほとんどが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理のほとんどのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	１ 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 ２ 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第１講 ガイダンス、整数の性質① 第２講 整数の性質② 第３講 方程式と不等式 第４講 比と割合 第５講 濃度 第６講 仕事算、ニュートン算 第７講 年齢算、損益算 第８講 平均算、魔法陣 第９講 速さ① 第10講 速さ② 第11講 速さ③ 第12講 場合の数 第13講 確率 第14講 n進法 第15講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）1，650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・課題（30分） ・講義で扱った問題の解きなおし（60分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業等で行います。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座担当の経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための判断推理			科目コード	172202	授業コード	121205
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』 エクシア出版（2021年）1，650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・課題（30分） ・講義で扱った問題の解きなおし（60分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業等で行います。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座の担当経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための現代文			科目コード	172203	授業コード	125704
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	公務員試験科目のうちの「文章理解（国語）」の「現代文」のところと「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解（国語）」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきましょう。
到達目標	1　「文章理解（国語分野）」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。 2　「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。
授業計画	第１講　ガイダンス、現代文①――内容把握 第２講　現代文②――内容把握 第３講　現代文③――要旨把握 第４講　現代文④――要旨把握 第５講　現代文⑤――文章整序 第６講　現代文⑥――文章整序 第７講　現代文⑦――空欄補充 第８講　資料解釈①――実数 第９講　資料解釈②――実数 第10講　資料解釈③――割合・構成比 第11講　資料解釈④――割合・構成比 第12講　資料解釈⑤――指数・増加率 第13講　資料解釈⑥――指数・増加率 第14講　資料解釈⑦――特殊な問題 第15講　資料解釈⑧――特殊な問題 定期試験 なお、この科目はオンデマンドで行います。
テキスト・教材（参考文献）	● 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック［改訂版］』実務教育出版（2020年） ● 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）（「公務のための数的推理」と同テキスト）
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・（特に「資料解釈」では）講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。
成績評価方法	毎回の課題　30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%
授業内の課題・提出方法	課題は講義の中で説明します。 Moodleに提出してください。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、授業もしくはMoodleで示します。
アクティブラーニング	
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員試験対策講座の担当経験あり。
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

授業科目名	公務のための政治学			科目コード	172204	授業コード	122602
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	GSPO1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょう。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第１講　ガイダンス：この授業の進め方 第２講　三権分立と法の支配 第３講　議院内閣制 第４講　国会 第５講　内閣 第６講　官僚制と行政 第７講　裁判所 第８講　地方自治 第９講　直接請求権 第10講　選挙 第11講　政党政治 第12講　政治理論 第13講　各国の政治制度 第14講　国際政治 第15講　時事問題 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1，500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	原則として毎回、小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。						
アクティブラーニング	原則として毎回、小テスト（問題演習）を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	公務のための経済学			科目コード	172205	授業コード	122404
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GSPO1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。
授業計画	教学課の課題提出ポスト横のテーブルに、全ての回のレジュメ冊子を置きますので、1回目の授業の前に入手してください。講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジュメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。 １．ガイダンス ２．無差別曲線と消費者の行動① ３．無差別曲線と消費者の行動② ＜課題①＞ ４．企業の行動① ５．企業の行動② ＜課題②＞ ６．需要の価格弾力性① ７．需要の価格弾力性② ＜課題③＞ ８．市場メカニズムと安定性 ＜課題④＞ ９．公共財の供給 10．外部効果(外部経済・不経済) 11．その他の経済学の問題演習 ＜課題⑤＞ 12．財政政策・金融政策① ＜課題⑥＞ 13．財政政策・金融政策② ＜課題⑦＞ 14．比較優位の理論① 15．比較優位の理論②
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1，500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学概論」単位取得後の受講が好ましい。
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの個所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要個所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。
実務経験のある教員	
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。

授業科目名	公務のための法学			科目コード	172206	授業コード	123205
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GSPO1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさんの問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思います。
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第３講　大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第４講　人権の発達、基本的人権の原理 第５講　日本国憲法における基本的人権の種類 第６講　人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第７講　参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第８講　要約（これまでの確認） 第９講　民法、刑法、その他の法律 第10講　主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講　労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講　社会保障、高齢社会、少子社会 第13講　地球環境問題 第14講　資源・エネルギー問題 第15講　要約（これまでの確認） 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1，650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の３科目共通です。
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習９０分と復習９０分）
成績評価方法	小テスト　30%：授業中に行う小テストは採点をして２週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験　70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
アクティブラーニング	学生さん自身が理解度を確認できるように、テキストの問題だけでなく別の本などの問題も解いてもらうようにしています。また、タイミングを見計らいながら、テキストの復習もしています。
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業科目名	公務のための人文科学			科目コード	172207	授業コード	122802
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GSPO1007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。						
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。						
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　日本史(1) 第3回　日本史(2) 第4回　日本史(3) ＋世界史(1) 第5回　世界史(2) 第6回　世界史(3) 第7回　世界史(4) 第8回　地理(1) 第9回　地理(2) 第10回　地理(3) ＋国語(1) 第11回　国語(2) 第12回　思想(1) 第13回　文学・芸術(1) 第14回　文学・芸術(2) 第15回　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『大卒程度警察官・消防官新スーパー過去問ゼミ人文学改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円＋税 その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。						
事前・事後学習	事前に次回の授業に向け、当該範囲を予習しておく。(60分） 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。(60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー） ＝30% 期末試験＝70% なお、病欠・公欠等は、別途相談のこと。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、了解しておくこと。						

授業科目名	公務のための自然科学			科目コード	172208	授業コード	125401
担当教員	高田　晴美、浦畑　夢			科目ナンバリング	GSPO1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の「自然科学」の内容は高校レベルの「物理」「化学」「生物」「地学」です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く（浅く）知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。						
到達目標	公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、物理① 第２講　物理② 第３講　物理③ 第４講　生物① 第５講　生物② 第６講　生物③ 第７講　生物④ 第８講　地学① 第９講　地学② 第10講　地学③ 第11講　地学④ 第12講　化学① 第13講　化学② 第14講　化学③ 第15講　化学④ 定期試験 物理と地学は高田が、生物と化学は浦畑が担当します。 講義の順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『大卒程度　警察官・消防官　新スーパー過去問ゼミ　自然科学　改訂第3版』実務教育出版（2018年）1,650円（税込）						
事前・事後学習	次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・課題を解く（30分） ・講義で扱った問題の解きなおし（60分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	定期試験（資料持込不可）　70% 課題　30%						
授業内の課題・提出方法	授業で課題を示します。 提出方法は、各担当教員が指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答解説は、授業で示します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員試験対策講座の担当経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための英文理解			科目コード	172209	授業コード	124604
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSPO1009		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	現在、日本では公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しません。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の動画を毎回観たり、記事を毎回読んだりします。この講座のテキストは英語の４技能を高めるための構造をしています。CEFR 「ヨーロッパ言語共通参照枠」基準で作成された質が高かく、興味深い動画を利用しています。この動画は"authentic video"です。Authentic videoは「外国語学習として意図的に作られた教材ではなく、実際の英語の動画を音声教材
到達目標	1.　英語の読解力と聴解力を向上させる。 2.　英語の語彙を増やす。 3.　英文法の基礎を身につける。 4.　TOEIC(L/R)400～500点に相当する英語力獲得を目指す。
授業計画	第1 講　ガイダンス/ Unit 1 Holidays at Home <Free Time> 第２講　Unit 1 Holidays at Home <Free Time> 第３講　Unit 2 Soccer in Soweto <Sports & Culture> 第４講　Unit 2 Soccer in Soweto <Sports & Culture> 第５講　Unit 3 Hannah’s Van <Life> 第６講　Unit 3 Hannah’s Van <Life> 第７講　Unit 4 Bionic Boots <Inventions> 第８講　Unit 4 Bionic Boots <Inventions> 第９講　Unit 5 Sophie’s Costume <Culture> 第10講 Unit 5 Sophie’s Costume <Culture> 第11講 Unit 6 Marvelous Mountain Biking <Sports> 第12講 Unit 6 Marvelous Mountain Biking <Sports> 第13講 Unit 7 A Family’s History <Family> 第14講 Unit 7 A Family’s History <Family> 第15講　プレゼンテーション プレゼンテーション・定期試験
テキスト・教材（参考文献）	『Expanding Horizons』　南雲堂 Charles Browne/Yuji Tanabe 著 978-4523-179214 『Grammar in Practice 2』 Roger Gower Cambridge University Press 978-0-521-66566-7
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　40% 定期試験 ・プレゼンテーション　30% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スピーチ、スキット
実務経験のある教員	
担当者から一言	オンデマンド授業を予定しています。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あります。

授業科目名	公務のための論文・面接			科目コード	172210	授業コード	125102
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GSPO1010		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょう。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。 　この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生は受講しましょう。						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第１講　ガイダンス　この授業の進め方 第２講　文章の書き方（実習） 第３講　面接の心構え（実習） 第４講　論文①（実習） 第５講　面接①（実習） 第６講　論文②（実習） 第７講　面接②（実習） 第８講　論文③（実習） 第９講　面接③（実習） 第10講　論文④（実習） 第11講　面接④（実習） 第12講　論文⑤（実習） 第13講　面接⑤（実習） 第14講　論文⑥（実習） 第15講　面接⑥（実習）						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください（60分）。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください（毎日20分以上）。						
成績評価方法	課題等への取り組み状況：45% 講義時に指示する宿題の提出状況：30% 受講態度：25%						
授業内の課題・提出方法	宿題は授業の冒頭で提出してもらいます。 また、授業中にも、口頭で応える課題や書いてもらう課題を課します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	口頭での課題に対しては、その場で適宜指導します。 文書で提出された課題・宿題は、毎回添削して返却します。						
アクティブラーニング	ディスカッション、ペアワーク、面接実践練習						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	この講義は、公務員試験に間に合うよう、６月上旬までの期間に集中して週２回連続で実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。遅刻、携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	172301	授業コード	125601
担当教員	石田　京子			科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの初級者として、様々な理論や技術の基礎を学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を２００６年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（１２の能力要素）です。 主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人には、この社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけビジネスマナーやビジネススキルを中心に、実社会で必要な相手目線（顧客）を意識した自己表現力を磨き、身
到達目標	１．社会人としてのマナーの基本を学び習得することで、社会生活の様々なシーンで適切な基本的実践行動ができるようになることです。 ２．人間関係の土台であるコミュニケーションスキルを基本的に学び、そのエビデンスである心理学を理解し考察することで、相手目線に立ち、その場と関わりに応じた適切な自己表現ができるようになることです。
授業計画	第１講　ガイダンス　挨拶の基本 第２講　マナーとコミュニケーション概論 第３講　一般的なマナー①表情・声・身体表現 第４講　一般的なマナー②敬語 第５講　ビジネスマナー①職場のルール・報連相・電話応対 第６講　ビジネスマナー②受付・案内・席次・名刺交換 第７講　ビジネスマナー③ビジネス文書・ビジネスメール 第８講　第一印象力 第９講　話す力 第10講　聴く力 第11講　考える力（主体的論理的思考） 第12講　クレーム対応・ハラスメント基礎・アンガーマネジメント基礎 第13講　プレゼンテーション原稿つくり 第14講　プレゼンテーション個人発表 第15講　総まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。
成績評価方法	定期テスト５０％、小テスト２５％、出席時の積極的態度と発言２５％。
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、クループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修に携わる。
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。周りの人々と心から繋がり合い、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築しましょう。意欲的で実行力のある学生の受講を望みます。

授業科目名	ビジネスコミュニケーション			科目コード	172304	授業コード	122402
担当教員	石田　京子			科目ナンバリング	GSHM1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を２００６年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（１２の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義は笑顔とホスピタリティ溢れる接客技術や、説明力・説得力・プレゼンテーション力などを含む会話術を中心に行います。こ
到達目標	①ビジネス社会において、人間関係の土台であるコミュニケーションスキルの理論と実践を応用的に学び習得することで、様々なビジネスシーンで相手とその関係性において適切な自己表現行動ができるようになることです。 ②接客技術や会話術を、エビデンスと実践練習で学び習得することで、主体的に考え、判断し、有言実行し、地域社会に貢献できるスキルをもつようになることです。
授業計画	第１講　　ガイダンス　仕事の意義・挨拶の基本 第２講　　コミュニケーション概論・ホスピタリティ理論 第３講　　パフォーマンス心理学　場と関わりの自己表現 第４講　　第一印象力・電話応対 第５講　　接客力・名刺交換 第６講　　ビジネス文書・ビジネスメール 第７講　　コンプライアンス・リスク管理・ハラスメント 第８講　　心理学　セルフコーチング 第９講　　心理学　交流分析 第10講　　心理学　アサーティブコミュニケーション 第11講　　合意形成（コンセンサス） 第12講　　論理的思考力・説明力・説得力 第13講　　プレゼンテーション１ 第14講　　プレゼンテーション２ 第15講　　総まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。
成績評価方法	定期テスト５０％、小テスト２５％、出席時の積極的態度と発言２５％。
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、クループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修。就活の面接指導。
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。心から繋がりあい、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築するために、自身のスキルや人間力を磨きましょう。周りと共に生き、なりたい自分になるために切磋琢磨する学生を望みます。

授業科目名	グローバルコミュニケーション			科目コード	172305	授業コード	121102
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	GSHM1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では、「遠く」に住む人あるいは「遠く」から来た人と、自分の「近く」でコミュニケーションを行うための考え方を見ていきます。ここで「遠く」、「近く」というのは必ずしも空間的距離の問題だけではなく、価値観、生活様式、宗教など生活世界を構成する様々な局面での距離感も含まれます。文化人類学の考え方を手掛かりに、他者との対話を継続していくための方策を考えていきたいと思います。						
到達目標	文化人類学の理論を対話の実践に応用する能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：ガイダンス、コミュニケーションとは 第2講：自然と知識 第3講：技術と環境 第4講：呪術と科学 第5講：現実と異世界 第6講：モノと芸術 第7講：贈り物と負債 第8講：貨幣と信用 第9講：国家とグローバリゼーション 第10講：戦争と平和 第11講：子どもと大人 第12講：親族と名前 第13講：ケアと共同性 第14講：市民社会と政治 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『文化人類学の思考法』（村松圭一郎、中川理、石井美保編）世界思想社 1800円						
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	コミュニケーション技術の発達は、お互いの理解促進よりむしろ対立の顕在化を引き起こしているように見えます。技術では克服しにくい距離感の存在とそれへの対応を考えてみましょう。						

授業科目名	ビジネスマネジメント			科目コード	172307	授業コード	125203
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	GSHM1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	この「経営分析論」では企業の決算書（財務諸表）などを使って分析することを学びます。第4講までで財務諸表のなかでも特に重要な貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の要点を理解しましょう。次に経営（財務）分析の手法や指標の意味・使い方を観点ごとに学びます。第10講以降は、実存する企業の公開されている財務諸表を使って分析します。ライバルである企業どうしの比較などで経営分析についての理解を深め定着させてください。
到達目標	（1）財務諸表の要点を理解する。 （2）経営分析の手法を財務諸表の各項目の意味と合わせて理解する。 （3）企業の財務諸表だけでなく、ビジネスモデルや競争戦略なども考慮して経営分析ができる。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　貸借対照表 第３講　損益計算書 第４講　キャッシュ・フロー計算書 第５講　経営分析のための準備 第６講　安全性の分析 第７講　収益性の分析 第８講　効率性の分析 第９講　成長性の分析 第10講　ケース（1）連結決算 第11講　ケース（2）セグメント情報とビジネスモデル 第12講　ケース（3）小売・飲食・サービス 第13講　ケース（4）IT 第14講　ケース（5）メーカー 第15講　まとめ
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献：桜井久勝「財務諸表分析 第9版」中央経済社（2024年）、定価：3740円（税込）
事前・事後学習	「経営分析論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。そのうえで、上場企業の財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください。また日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（180分）。
成績評価方法	（1）小テスト・平常点（受講態度など）：30% （2）課題（2回）：30%（15%×2） （3）定期試験：40%
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第8講・第10講予定）実施します。課題はMoodleまたはメールで提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと課題については全体の講評を授業で行います。
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務・ビジネスモデル・競争戦略などの比較するレポートを作ってもらいます。
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。

授業科目名	マーケティング演習			科目コード	172308	授業コード	122408
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では，成功企業の事例を理解した上で，企業のマーケティング戦略について考察する．考察を通じて，実践的なマーケティングの理解を深めることを，本講義のねらいとする．						
到達目標	成功企業の事例について学んだ上で，その企業を成功に導いた根本的な理由について考察する．その上で，他のビジネスへの応用可能性について検討する．既存のマーケティング戦略の改善案や新たな戦略案を提示できる．						
授業計画	第1回　4/8　ガイダンス 第2回　4/15　マーケティングの基本的な考え方 第3回　4/22　マーケティングの分析軸 第4回　4/29　事例研究① 第5回　5/13　事例研究② 第6回　5/20　中間レポートの発表①（予定） 第7回　5/27　中間レポートの発表②（予定） 第8回　6/3　中間レポートの発表③（予定） 第9回　6/10　事例研究③ 第10回　6/17　事例研究④ 第11回　6/24　事例研究⑤ 第12回　7/1　事例研究⑥ 第13回　7/8　最終レポートの作成と発表① 第14回　7/15　最終レポートの作成と発表② 第15回　7/22　最終レポートの作成と発表③ ※外部講師によるご講義の回を予定しています． （第1回のガイダンス時に詳細を説明予定です） ただし川崎による講義に代える場合があります						
テキスト・教材（参考文献）	教科書（テキスト） 大﨑孝徳（2016）『すごい差別化戦略』日本実業出版社 ISBN-13：978-4534053480						
事前・事後学習	マーケティングや企業経営に関するニュースに目を通すことを心がけること（30分程度，週2日以上）。講義内容を復習し，既存のマーケティング戦略の長所や短所について考える時間をもつことが望ましい（1時間程度）。						
成績評価方法	中間レポートと発表　　50% 最終レポート（レポート試験）と発表　50% ※レポートの内容だけでなく，発表態度や発表を聴く態度も含む． 受講者数が多く，発表の時間が取れない場合は レポートの内容と聴講態度で評価する						
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること ②中間レポートと最終レポートも，moodleから提出してもらう予定．						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントします． 履修者数が多く，全員の発表時間が取れない場合は 優秀な中間レポートを，前のスクリーンで紹介する予定です．						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある．						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして企業のかたにご講義いただく予定です						
担当者から一言	実践的なマーケティングを学ぶ機会になれば幸いです．自ら進んで学ぶ姿勢をもって取り組める人は，是非受講してください． ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります．						

授業科目名	おもてなし特別講義ａ			科目コード	172309	授業コード	123610
担当教員	岡　良浩、川崎　綾子			科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。 具体的には「三重のサステナブル経営アワード」をとりあげ、受賞企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。またこの制度を含めた中小企業振興施策を実施されている三重県庁の方や、教員からみた経営のケーススタディについてもお話する予定です。 全体として成功の要因について、共通する点・他企業・他業態への応用の可能性など普遍化できるかを考察していきたいと思います。						
到達目標	・企業経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。						
授業計画	第1回　9/24 ガイダンス 第2回　10/1 外部講師による講義（三重県） 第3回　10/8外部講師（企業経営者）による講義① 第4回　10/15外部講師（企業経営者）による講義② 第5回　10/22中間レポート１ 第6回　10/29 外部講師（企業経営者）による講義③ 第7回　11/5外部講師（企業経営者）による講義④ 第8回　11/12外部講師（企業経営者）による講義⑤ 第9回　11/19 中間レポート2 第10回　11/26外部講師（企業経営者）による講義⑥ 第11回　12/3 外部講師（企業経営者）による講義⑦ 第12回　12/10 外部講師（企業経営者）による講義⑧ 第13回　12/17中間レポート3 第14回　1/7 まとめ１ 第15回　1/14まとめ２ ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、適宜、講義中にお知らせします。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑）　40% 中間レポート　30% 定期試験（レポート試験）　30%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただきます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、Moodle内でコメントをつけてフィードバックします。						
アクティブラーニング	講義中に、質疑やグループディスカッション等が求められることがあります。積極的に参加することが求められます。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。						
担当者から一言	この講義は公開授業とする予定です。一般の方と一緒に受講していただきます。履修者は、社会人としてのマナーを守って受講してください。						

授業科目名	観光英語Ⅰ			科目コード	172401	授業コード	121303
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	新社会人が入社後に初めて任された仕事に取り組むストーリーを通して、日常表現と優しいビジネス表現や基本文法を学びます。英語の4技能を養成することを目的としていますが、簡単なビジネスプレゼンテーションスキルも学んで、受講生は講座中２回英語プレゼンテーションを挑戦します。 The textbook follows a new university graduate in his first year of working at a small advertising company. Students will
到達目標	この講座の目標は、受講生の英語でのビジネスコミュニケーション力を向上させることです。電話の使い方、アポイントの取り方、プレゼンテーション、メール作成などの実践的スキルを養います。TOEIC(L/R)425～475点に相当する英語力獲得を目指します。 The main goal of this class is for students to improve their business communication level and develop skills necessary for work in
授業計画	第1 講　　ガイダンス 第２講　　Unit 1- Nice to Meet You 第３講　　Unit 2- Getting Started 第４講　　Unit 3 -Office Tour 第５講　　Unit 4- First Work Assignment 第６講　　Unit 5- Small Talk with Co-Workers 第７講　　プレゼンテーション 1- preparation 第８講　　プレゼンテーション 1- preparation 第９講　　プレゼンテーション- Demonstration Speech 第10講　　Unit 6- First Contact with a Client 第11講　　Unit 7- Client Meeting Preparation 第12講　　Unit 8- Final Preparations 第13講　　プレゼンテーション 2- preparation 第14講　　プレゼンテーション 2- preparation 第15講　　プレゼンテーション 2- A Memorable Experience プレゼンテーション 2- 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	『English Spark!』　金星堂 Robert Hinkling　著 978-4-7647-4216-1
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　20% プレゼンテーション 1　20% 定期試験- プレゼンテーション 2　30% 注意 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. ２回遅刻すると１回の欠席になる。
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。　詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット
実務経験のある教員	
担当者から一言	この科目は本気で英語を取得したい学生の為にある。授業の内容は容易ではありません。対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。

授業科目名	コンピュータ英語Ⅰ			科目コード	172403	授業コード	123204
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GSET1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につけるスタート段階は、世の中のいろいろなことに対して、自分の意見を持ち、それをことばで表現することです。そのための基礎的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を磨きます。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。また、将来、TOEIC、英検などの試験問題に挑戦することに備え、その出題形式を知ることを目的として、試験概要を説明します。グループワークやペアワークを毎回行います。
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. 簡単な自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。
授業計画	テキストに加えて、動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講　ガイダンス Introduction、Unit 1/ Weather 第2講　Unit 2/ The Internet 第3講　Unit 3/ Animals 第4講　Unit 4/ Friends 第5講　Unit 5/ Helping Others 第6講　Unit 6/ Traveling 第7講　Unit 7/ Collections and Gifts 第8講　Unit 8/ Careers 第9講　Unit 9/ European Cultures 第10講　Unit 10/ Gifted Children 第11講　Unit 11/ Restaurants 第12講　Unit 12/ Transportation 第13講　Unit 13/ Homes 第14講　Unit 14/ Space 第15講　Unit 15/ Personality 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 2』（南雲堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは受講前に調べておいてください。復習も欠かさず行ってください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはしないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （原則として毎回、小テストを行います） 定期試験　５０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題
実務経験のある教員	
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。自分やクラスメートの英語レベルに拘泥せず、コミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。

授業科目名	コンピュータ英語Ⅱ			科目コード	172404	授業コード	123603
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GSET1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につける第二段階は、自分の意見を持ち、それをことばで表現する力をブラッシュアップすることです。「ビジネス英語a」で獲得またはそれに相当する英語力を前提に、自分の意見を英語を伝えるための基礎的な力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）をさらに伸ばします。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。「ビジネス英語a」に引き続き、将来のTOEIC、英検などの受験を念頭に、出題形式を知るために問題を
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. ある程度まとまった自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。
授業計画	テキストに加えて、動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講　ガイダンス Introduction、Unit 1/ Nature 第2講　Unit 2/ Music 第3講　Unit 3/ Hobbies 第4講　Unit 4/ Culture 第5講　Unit 5/ Interesting Places 第6講　Unit 6/ Animals 第7講　Unit 7/ Art and Design 第8講　Unit 8/ Weather 第9講　Unit 9/ Traveling 第10講　Unit 10/ Entertainment 第11講　Unit 11/ Friends 第12講　Unit 12/ Africa 第13講　Unit 13/ Self-Improvement 第14講　Unit 14/ Sports 第15講　Unit 15/ Transportation 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 3』（南雲堂）【「ビジネス英語a」と違うテキストですので、ご注意ください。】、テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは受講前に調べておいてください。復習も欠かさず行ってください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはしないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （原則として毎回、小テストを行います） 定期試験　５０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題
実務経験のある教員	
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。自分やクラスメートの英語レベルに拘泥せず、コミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。

授業科目名	英語表現Ⅰ			科目コード	172405	授業コード	123401
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GSET1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスの場で使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多いさまざまなビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるEメールを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで、さまざまな表現方法を学びます。						
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス、Unit 1 Introducing Yourself 第2講　Unit 1 Introducing Yourself 第3講　Unit 2 Introducing Companies 第4講　Unit 2 Introducing Companies 第5講　Unit 3 Explaining Your Role 第6講　Unit 3 Explaining Your Role 第7講　Unit 4 Introducing Products 第8講　Unit1~Unit3の復習、小テスト 第9講　Unit 4 Introducing Products 第10講　Unit 5 Checking Information 第11講　Unit 5 Checking Information 第12講　Unit 6 Giving Your Opinion 第13講　Unit 6 Giving Your Opinion 第14講　Unit 7 Making Requests 第15講　総復習 定期試験 ＊授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『Go Global? グローバル時代のビジネスコミュニケーション』 Garry Pearson， Graham Skerritt， 吉塚弘（成美堂） 定価：2，640円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	小テスト　20% 課題・宿題　20% 定期試験　60%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	英語表現Ⅱ			科目コード	172406	授業コード	123802
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GSET1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスの場で使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多いさまざまなビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるEメールを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで、さまざまな表現方法を学びます。						
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス、Unit 8 Asking Permission 第2講　Unit 8 Asking Permission 第3講　Unit 9 Making Invitations 第4講　Unit 9 Making Invitations 第5講　Unit 10 Making Appointments 第6講　Unit 10 Making Appointments 第7講　Unit 11 Canceling and Rescheduling 第8講　Unit8~Unit10の復習、小テスト 第9講　Unit 11 Canceling and Rescheduling 第10講　Unit 12 Describing Locations 第11講　Unit 12 Describing Locations 第12講　Unit 13 Looking after a Visitor 第13講　Unit 13 Looking after a Visitor 第14講　Unit 14 Making a Phone Call 第15講　総復習 ＊授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『Go Global グローバル時代のビジネスコミュニケーション』 Garry Pearson， Graham Skerritt， 吉塚弘（成美堂） 定価：2，640円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	小テスト　20% 課題・宿題　20% 定期試験　60%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	ビジネス英語Ⅰ			科目コード	172407	授業コード	122403
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	プレゼンテーションを通じて、学生の英語でのビジネスコミュニケー ション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をします。スキットやロールプレイを利用して、『使える英語』を目指します。 In this course students will work on improving their business communication and English presentation skills. A textbook will be utilized
到達目標	1. 英語の４技能（reading， writing， listening， speaking)を高める。 2. ビジネス英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. 英語の基礎的なプレゼンテーションスキルを身に付ける。 5. TOEIC(L/R)475～575点に相当する英語力獲得を目指す。
授業計画	第1 講　　ガイダンス 第２講　　Unit 4- Life Counseling / Job Hunting 第３講　　Unit 4- Life Counseling / Job Hunting 第４講　　Unit 6 -Poverty / Australia- Help for Job Seekers 第５講　　Unit 6- Poverty / Australia- Help for Job Seekers 第６講　　プレゼンテーション 1- Preparation- Job Interview 第７講　　プレゼンテーション 1- Preparation- Job Interview 第８講　　プレゼンテーション 1- Job Interview- Role Play 第９講　　Unit 12- Women’s Rights / AI 第10講　　Unit 12- Women’s Rights / AI 第11講　　Unit 14- Lifestyle-Ways to Get Out of the Busyness Trap 第12講　　Unit 14- Lifestyle-Ways to Get Out of the Busyness Trap 第13講　　プレゼンテーション 2- Preparation- 第14講　　プレゼンテーション 2- Preparation- 第15講　　プレゼンテーション 2- News Story プレゼンテーション 2- 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	INTEGRITY Intermediate (中級) - 金星堂 Vitalize Your English Studies with Authentic Videos Osamu Takeuchi/Tomoko Yabukoshi / Yukie Shinhara 著 978-4-7647-4175-1
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　20% プレゼンテーション 1　20% 定期試験 -プレゼンテーション 2　30%
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット、ロールプレー
実務経験のある教員	
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. ２回遅刻すると一回の欠席になる。

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ			科目コード	172408	授業コード	122601
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GSET1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	英語によるプレゼンテーション能力を身につけることが目的です。単に英語でおしゃべりができることとは違い、論理的に相手に伝え、説得し、聞いた人に何らかのアクションを起こさせるプレゼンテーションをするためには、そのテーマに関する知識とプレゼンテーション技術に加え、何度も練習することが必要です。その活動を通じて、話す・聞く・読む・書く力に加え、やり取りする能力や理解力、共感力など多様な力を高めます。さらに授業をクラスメートと協力しながら学ぶスタイルで進めることにより、複数のグループワークやペアワークを頻繁に行うこ
到達目標	与えられたテーマや自分が設定したテーマについて、わかりやすい英語を使って自分の意見をまとめ、文章を作り、それを論理的かつ明確に他者に伝えること、他者の意見を聞きそれに対する自分の意見を述べられるカを身につけることをめざします。それらの活動を通じて思考カを高め、多様性を前提とした国際社会で通用するコミュニケーションカを磨きます。目標とする英語レベルはTOEIC(L/R) 475～575点相当です。
授業計画	第1講　ガイダンス Unit 1/ Conversation 1　挨拶 第2講　Unit 2/ Conversation 2　出身地 第3講　Unit 3/ Conversation 3　習慣 第4講　Unit 4/ Converstaion 4　過去のできごと 第5講　Unit 5/ Conversation 5　未来や予定 第6講　Unit 6/ Discussion 1　自分の意見を述べる 第7講　Unit 7/ Discussion 2　同意・反論 第8講　Unit 8/ Presentation 1　プレゼンテーションの基本構造 第9講　Unit 9/ Presentation 2　プレゼンテーションの内容 第10講　Unit 10/ Presentation 3　グラフを使う 第11講　Unit 11/ Simplified Debate 1　ディベート① 第12講　Unit 12/ Simplified Debate 2　ディベート② 第13講　Unit 13/ Simplified Debate 3　ディベート③ 第14講　Unit 14/ Simplified Debate 4　ディベート④ 第15講　Unit 15/ Simplified Debate 5　ディベート⑤ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Speak Easy』（金星堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。
事前・事後学習	予習・復習が重要です。わからない単語を調べるなど、事前にできることは予習段階で全部済ませて授業に臨んでください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。自己紹介など身近で易しい内容から始めますが、講義中盤以降では英語によるディスカッションやディベートなど難度が高くなります。第1講から第15講まで、確実に積み重ねる学習を怠らないようにしてください。
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （適宜、小テストを行います） 定期試験　５０％ 学習者同士が協力して学び合うスタイルの授業です。単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題
実務経験のある教員	
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。クラスで前に出て発表したり自分のスピーチを録画するなど、実践型の授業ですので、心配や不安がある人は個別に担当教員に相談してください。クラスメートと協力し合うことを楽しみ、英語力をの向上を通じて思考力を身につけてください。

授業科目名	検定英語Ⅰ			科目コード	172409	授業コード	121405
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	読むことは知識を得るだけでなく、思考力・判断力・表現力を深めることにつながります。表面的な英語訳読を超えて、総合的な学力・人間力を高めることをめざし、ある程度の長さのある様々な分野の論理的・学術的な文章を精読します。読んだ文章を本当に理解することを重視するため、読むことに加え、要約や読んだ内容についてのクラスメートと意見交換を通じて（読む・書く・聞く・話す・やりとりする）、理解の度合いを深めます。IELTS、英検などの英語能力測定試験の読解問題にも挑戦しますが、高得点の取得が目的ではなく、あくまでも内容を
到達目標	英語で書かれた様々な文章を読んで理解し、そこに書かれた内容についての知識を得ると共に、その内容を要約し、テーマに対する自分の意見をまとめます。リーディングが中心ですが、読む力を高めるためのリスニング、ライティングやディスカッション等を行い、総合的に英語理解を深めます。それらの活動を通じて国際人としての教養を身につけ、多様性を前提とした異文化理解を促進します。TOEIC(L/R) 525～600点程度に相当する英語読解力獲得をめざします。
授業計画	第1講　ガイダンス Unit 1/ Smartphone Addiction 第2講　Unit 2/ Congestion at the Cafeteria 第3講　Unit 3/ Infectious Diseases 第4講　Unit 4/ Universal Design 第5講　Unit 5/ Column 1 第6講　Unit 6/ Student Stress 第7講　Unit 7/ Black Baito 第8講　Unit 8/ Older Drivers 第9講　Unit 9/ Plastic Waste 第10講　Unit 10/ Column 2 第11講　Unit 11/ Overtourism 第12講　Unit 12/ Esportse 第13講　Unit 13/ Sleep Deprivation 第14講　Unit 14/ AI 第15講　Unit 15/ Column 3 定期試験 ※テキストに加え、プリントを配布します。プリントは、その回のテキストのテーマにかかわらず多様な分野からリーディング教材を選びます。
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Let's Find a Solution!　PBL(問題解決型学習)ではじめる総合英語−学習者から探究者へ−』（南雲堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。
事前・事後学習	授業内容は必ず予習し、わからない単語などは調べておいてください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではパッセージの内容を逐一説明するわけではないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （適宜、小テストを行います） 定期試験　５０％ 学習者同士が協力して学び合うスタイルの授業です。単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題
実務経験のある教員	
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。授業は原則として日本語で行うので、一定の日本語能力が必要です。大学院入試を考えている方には、個別相談にも応じますので、担当教員にお尋ねください。

授業科目名	検定英語Ⅱ			科目コード	172410	授業コード	121702
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	『英語リーディングII』は、学生がTOEICスコア525～600を目指し、英語の語彙力や読解力を高めることを目的としています。特に大学卒業後の大学院進学を目指す学生を対象に、アカデミックな読解力の向上に重点を置き、実際の英語文献を通じて専門的な知識の習得をサポートします。リーディング中心のコースですが、総合的なアプローチをします。この講座のテキストは海外メディアの独自目線で作られた映像を用いて、4技能の多彩なタスクを展開します。2～3分程度の動画を観て４技能を伸ばします。動画の内容を確認し、掘り下げられた						
到達目標	１。英語の読解力を高める。 ２。英語の基礎的なプレゼンテーションスキルを身につける。 ３。英語の語彙を増やす。 ４。TOEIC(L/R)525～600点に相当する英語力獲得を目指す。						
授業計画	第1 講　ガイダンス- Unit 1- Alternative Meat 第２講　Unit 1- Alternative Meat 第３講　Unit 2- Zero Emissions 第４講　Unit 2- Zero Emissions 第５講　Unit 3- Health / Social Media 第６講　Unit 3- Health / Social Media 第７講　プレゼンテーション1- preparation 第８講　プレゼンテーション1- preparation 第９講　プレゼンテーション1- リーダーズ・シアター 第10講　Unit 7- Nature / Life 第11講　Unit 7- Nature / Life 第12講　Unit 8- Health / British Society 第13講　Unit 8- Health / British Society 第14講　Unit 10- Food Waste / Education 第15講　Unit 10- Food Waste / Education プレゼンテーション 2- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	INTEGRITY Intermediate-（中級） 金星堂 Vitalize Your English Studies with Authentic Videos Osamu Takeuchi/Tomoko Yabukoshi / Yukie Shinhara 著 978-4-7647-4175-1						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　20% プレゼンテーション1- リーダーズ・シアター　20% プレゼンテーション２- 定期試験　30%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット、リーダーズ・シアター						
実務経験のある教員							
担当者から一言	以下のルールを注意して下さい。 １．5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 ２．テキストがないと欠席扱いになります。 ３．２回遅刻すると1回の欠席になります。 ＊履修者が18名を超えた場合は抽選となります。						

授業科目名	メディアツールa			科目コード	172501	授業コード	125204
担当教員	西尾　秀樹			科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illusratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーションカアップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット　など） 3.色の基本（CMYK/RGB・面と線・グラデーションなど）・選択ツールの使い方 4.自由曲線1（ベジェ曲線の基本/イラスト作成1） 5.ツールについて（効果・フィルター・整列・パスファインダなど） 6.自由曲線2（描画したパスを編集/イラスト作成2） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.自由曲線3（下絵をトレースして着色） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザイン・レイアウトの実践1（サンプルに基づいてデータ作成） 12.デザイン・レイアウトの実践2（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
アクティブラーニング	実習を行います。						
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールa			科目コード	172501	授業コード	121703
担当教員	山本　努武			科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illusratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーションカアップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット　など） 3.色の基本（CMYK/RGB・面と線・グラデーションなど）・選択ツールの使い方 4.自由曲線1（ベジェ曲線の基本/イラスト作成1） 5.ツールについて（効果・フィルター・整列・パスファインダなど） 6.自由曲線2（描画したパスを編集/イラスト作成2） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.自由曲線3（下絵をトレースして着色） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザイン・レイアウトの実践1（サンプルに基づいてデータ作成） 12.デザイン・レイアウトの実践2（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
アクティブラーニング	実習を行います。						
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールb			科目コード	172502	授業コード	125607
担当教員	西尾　秀樹			科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 3.色調整・サイズ調整 4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール　など） 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成　など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工／フィルター・その他ツール 10.デザインの実践1（バナーデザインなど） 11.デザインの実践2（illustratorとの連動） 12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 ［これ面白い画像だな］とか［どうやって作ったんだろう］という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。
アクティブラーニング	実習を行います。
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。

授業科目名	メディアツールc			科目コード	172503	授業コード	124110
担当教員	纐纈　智英			科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業は、Adobe Premiere Proを使用し、動画編集の基本技術を習得することを目指します。初心者や基礎から学び直したい方を対象に、編集ソフトの操作方法や映像編集の手法を学びながら、映像制作の基礎力を身につけます。						
到達目標	・Adobe Premiere Proの基本的な操作を習得する。 ・動画編集に必要な基本的技術や手法を理解する。 ・タイムラインの編集やエフェクトの活用など、編集ソフトの機能を適切に活用できる。						
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：初期設定・ワークスペースの理解・基本操作 第３回：素材の取り込みと整理 第４回：タイムラインと基本編集操作 第５回：映像の接続とトランジションの適用 第６回：簡易なアニメーション・キーフレーム操作 第７回：テロップ（字幕・タイトル）の挿入 第８回：頻度の高いエフェクトの利用① 第９回：頻度の高いエフェクトの利用② 第１０回：オーディオ素材の取り扱いと編集基礎 第１１回：オーディオ素材のエフェクト 第１２回：色調整とカラーグレーディング 第１３回：書き出しとレンダリング 第１４回：全体のワークフロー理解と実践演習 第１５回：実践演習内容のおさらい						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。						
事前・事後学習	予習：課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分） 復習：配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）						
成績評価方法	・講義内で実施する数回の習熟度テスト（70%） ・課題への取り組み姿勢（30%）						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。						
アクティブラーニング	実習						
実務経験のある教員	映像制作業 代表。現場にて必要とされる基礎的なスキルをわかりやすく指導します。						
担当者から一言	Premiere Proの基礎を楽しくしっかり学び、みなさんが自信を持って映像編集にチャレンジできる環境づくりをサポートします。共に成長し、充実したクリエイティブライフを始めましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールd			科目コード	172504	授業コード	122605
担当教員	栁澤　翔士			科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。						
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。						
授業計画	・講義ではMac(GarageBand，Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。 必要な資料は適時配布します。						
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分) 音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)						
成績評価方法	受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。						
アクティブラーニング	Mac実習						
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有						
担当者から一言	音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	Webデザインb			科目コード	172506	授業コード	121609
担当教員	山本　努武			科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ブラウザベースで動作するプログラミングに関する技術を身につけます。html / css / js / php / mySQL を使って、私達が普段利用しているスマホサイトやWeb アプリケーションがどのような技術によって支えられているかを演習形式でトレースしてゆきます。また、これからのソフトウェア環境に適したデザインをインターフェイスの観点から考察し実装します。						
到達目標	今わたしたちが利用しているWebやインターネットを使ったさまざまなサービスやアプリは、いくつもの技術を使って複雑に組み上げられています。ですが、最終的には必ずブラウザ上にhtmlで表示されています。つまり、htmlをある程度理解すれば、上記のような複雑なWebやインターネットの仕組みを理解することができます。この授業では、html/cssの基本をおさらいしながら、phpとmySQLを用いてCMSサイトを構築する基礎を習得します。						
授業計画	第1回　導入　html/cssの復讐 第2回　html/css ① 主要素、marginとpadding、font 第3回　html/css ② divとdisplay 第4回　html/css ③ displayとposition 第5回　html/css ④ displayとflex 第6回　js ① 変数と関数、構文 第7回　js ② jquery 第8回　js ③ jquery plugin 第9回　cms ① webサーバ、wpインストール 第10回　cms ② wp開発 第11回　cms ③ wp開発 第12回　cms ④ wp開発 第13回　cms ⑤ wp開発 第14回　cms ⑥ wp開発 第15回　まとめ（学生受講調査アンケート記入）						
テキスト・教材（参考文献）	教員が適宜スライドや教材を用意します。						
事前・事後学習	「Webプログラミング1」「Webプログラミング2」を履修済みであること。 授業で使用するアプリケーション"vscode"は無料でインストールすることができますので、授業で行った操作の復習を毎週45分～1時間程度行うことをお勧めします。						
成績評価方法	① コード習熟度 … 20% ② デザイン習熟度 … 20% ③ 成果物の完成度 … 40% ④ 授業期間で養われたセンス … 20%						
授業内の課題・提出方法	学内ファイルサーバへデータを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。						
アクティブラーニング	作品制作						
実務経験のある教員							
担当者から一言	20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	Webプログラミングa			科目コード	172507	授業コード	124603
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	GSMD1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。						
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、WWWとWeb 第２講 HTML概要 第３講 画像とリンク 第４講 箇条書き 第５講 表組み 第６講 入力フォーム 第７講 CSS概要 第８講 見出しと段落 第９講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（１） 第14講 Webサイト制作（２） 第15講 Webサイト制作（３）						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬　「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3コーディングとサイト制作の教科書［改訂２版］」　技術評論社　￥2，948（税込）						
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング２」で学習します。						
成績評価方法	＜評価＞提出物55%、作品45%						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。						
アクティブラーニング	課題、実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。						

授業科目名	インターネット論			科目コード	172509	授業コード	123402
担当教員	栁澤　翔士			科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	増井　敏克　著　「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社　￥2300＋税						
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。						

授業科目名	政策科学入門			科目コード	471001	授業コード	123302
担当教員	小泉　大亮、浅井　雅、二村　建也、川崎　綾子、倉田　英司、松本　彩月、三田　泰雅、吉川　和挟、富田　与、鶴田　利恵、中西　紀夫、永井　博			科目ナンバリング	PFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する
授業のねらい	この講義では総合政策学部の専門教育科目を履修する準備をします。教員が分担して、政治、経済、国際社会、現代社会の諸問題について講義します。すでに高校までに学修した内容も含まれますが、大学生になった今、あらためて各テーマについてよく理解するようにして下さい。この講義で説明される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えるようにしましょう。
到達目標	学部の専門教育科目を学ぶための基本的な用語や考え方を理解できるようになること。
授業計画	第１回　ガイダンス　授業の進め方 第２回　現代の政治① 第３回　現代の政治② 第４回　現代の政治③ 第５回　現代の政治④ 第６回　現代の経済① 第７回　現代の経済② 第８回　現代の経済③ 第９回　現代の経済④ 第10回　おさらいの回 第11回　現代の国際社会① 第12回　現代の国際社会② 第13回　現代の国際社会③ 第14回　現代の国際社会④ 第15回　おさらいの回　専攻ガイダンス ＊授業の順番は入れ替わることがあります
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特になし。教員から資料が配布されます。 参考文献　井堀利宏『教養としての政治学』（総合法令出版） 中島岳志『自分ごとの政治学』（NHK出版 山崎広明 他『詳説 政治・経済』（山川出版社）
事前・事後学習	普段から新聞やインターネットなどのメディアで、政治・経済・国際問題などの記事を読んでおくこと。（１日20分程度） 毎回の授業で課されたレポート課題に取り組むこと。（90分）
成績評価方法	講義への参加意欲、講義で課された課題レポート（100%）
授業内の課題・提出方法	各回の課題レポートは、学内の教育支援システムmoodleにて提出を予定。課題レポート提出の締め切りは、講義のあったその週の金曜日の16：00までとする。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	それぞれの回の担当教員からレポート内容に関して総合的なコメントをフィードバックします。
アクティブラーニング	課題、小レポート、ミニッツ・ペーパー
実務経験のある教員	担当教員の中に中小企業診断士として活動してきた教員がいます。
担当者から一言	総合政策学部専門科目の学習の基本となる大切な必修科目です。欠席や遅刻したりせずに講義には毎回必ず出席し、しっかりと学んでください。

授業科目名	総合政策論Ⅰ			科目コード	471002	授業コード	122502
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PFC2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	いくつかの政策領域を事例として用いつつ、地域における政策問題解決のプロセスに関する知識を身に着けることを目的とします。 政策問題の解決は登場するアクターも、関連制度・法律なども多岐にわたり、一律の解決方法があるわけではありません。 本講義では、防災・消防・町並み保存などに関する実際のケースを取り上げつつ、各ケースの中でどのような問題が生じたのか、どのように解決されたのかを扱います。 この講義を通して、身近な問題への関心と感度が高まり、問題解決への糸口を見つけ出すための考え方を身に着けることを期待します。
到達目標	・政策学に関する基本的な事項・考え方を理解できる ・地域問題の多様性と考慮事項について理解できる
授業計画	01.　ガイダンス/政策とは何か 02.　政策プロセスとアクター 03.　地域における政策（事例1） 04.　防災政策（事例2） 05.　消防政策（事例3） 06.　医療行政（事例4） 07.　外国人集住都市（事例5） 08.　町並み保存（事例6） 09.　清掃事業（事例7） 10.　空き家政策（事例8） 11.　エネルギー政策（事例9） 12.　環境政策（事例10） 13.　観光政策（事例11） 14.　農業政策（事例12） 15.　まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・佐野 亘 (監修)、山谷清志 (監修)、焦従勉(編集)、藤井誠一郎(編集)（2020）『政策と地域』ミネルヴァ書房 ・石橋章市朗、佐野亘、土山希美枝、南島和久（2018）『公共政策学』ミネルヴァ書房
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・レポート（Moodle提出）：55%
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。

授業科目名	総合政策論Ⅱ			科目コード	471003	授業コード	126104
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PFC2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	総合政策とは、社会的な課題に対して、さまざまな人や組織の持てる力により解決策を見出す学問です。この講義は、総合政策学部の各教員が、それぞれの専門としている領域を念頭に、総合政策に関する内容を講義します。						
到達目標	１．それぞれの教員の専門領域を理解する ２．総合政策のもつ分野の多様性を理解する ３．今後、自らが選択する専攻や演習の指導教員などを見定める						
授業計画	第１回　ガイダンス　講義の進め方（小泉大亮） 第２回　地域の学びと文化（浅井雅） 第３回　人生の抽象化 ー学問する意味ー（川崎綾子） 第４回　自由貿易がもたらすもの（鶴田利恵） 第５回　地域の歴史・文化とまちづくり（倉田英司） 第６回　選挙・代表制民主主義と「くじ引き民主主義」（小林慶太郎） 第７回　文学作品や文学現象、文化現象を解明するということ（高田晴美） 第８回　リアリティの境界（富田与） 第９回　健康維持・増進とスポーツ（小泉大亮） 第10回　正義とは何か（フェリペ・フェハーリ） 第11回　未婚化のゆくえ（三田泰雅） 第12回　公共政策と価値の多様性（吉川和挟） 第13回　米国野球界の人材育成（若山裕晃） 第14回　お金で測る会計の可能性と限界（二村建也） 第15回　当事者と非当事者で社会を創る（松本彩月） ＊各教員の日程・内容などは変更する場合があります						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。（講義中に教員が講義資料を電子配布することがあります。）						
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通しておく（週あたり90分） 各回で課されたレポートの作成（90分）						
成績評価方法	各回で課すレポート課題の総合評価（100%）						
授業内の課題・提出方法	オンデマンドで配信された動画を視聴後に、各回で課された課題レポートを作成し提出していただきます。課題レポートの提出は学内の教育支援システムmoodleを使用します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	個人のレポート課題の採点評価と全体の講評をmoodle内で掲示します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	この講義は、総合政策学部の教員がオムニバスで登壇し、それぞれの専門領域について総合政策の観点から講義するものです。この講義を通じて、自身の専攻分野や関心領域を見定めてください。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124201
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	本科目では、歴史が地域社会の中でどう息づいているのか、その影響の中で我々は地域の課題とどう向き合っていけばよいのかを歴史的に考察することを将来的な目標とする学生を対象とする。その目標に向け、歴史的事実を根拠を持って説明できるよう、現地調査、史料調査の基本的なスキルを学習する。						
到達目標	1.通史として書かれたものの中に、どのような背景や根拠があるかを理解する。 2. 様々な視点から物事をとらえ、通説や常識を鵜呑みにするのではなく、根拠をしつかり押さえる。						
授業計画	第1回　ガイダンス、自己紹介 第2回　歴史学とは 第3回　自治体史講読（1） 第4回　自治体史講読（2） 第5回　自治体史講読（3） 第6回　地域イベント説明会 第7回　現地視察【交通費自己負担】 第8回　地域活動の必要性とは（鶴田先生） 第9回　四日市港の歴史（浅井） 第10回　子ども対象の地域イベントの意義とは（松本先生） 第11回　グループワーク（1） 第12回　グループワーク（2） 第13回　グループワーク（3） 第14回　グループワーク（4） 第15回　グループワーク（5）						
テキスト・教材（参考文献）	授業で必要なプリントは電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示する。						
事前・事後学習	自治体史講読、史料購読については予習必須 (60~90分）。 フィールドワークについてもフィールドワーク先の予習を行うこと (60~90分）。 事後学習については、毎回の授業での不明点を残さないようする。また、授業に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。 (60分）						
成績評価方法	評価方法は以下の通り。 ・予習等の取り組み： 50% ・授業中の発言・受講態度、グループワークへの貢献度等： 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で発言してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	都度、フィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	体験学習、グループワーク、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、了解しておくこと。 また、無断欠席者には原則として単位を与えない。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124202
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	本演習では経営学の2つの顔（理論と実践）を理解した上で，経営学者としての思考を養う．経営学では実践的な経営活動を，抽象的な理論で説明することが求められるが，優秀な経営者や経営学者は，理論と実践を往還する能力を備えている. 本演習では，理論を紐解く鍵としての「抽象化」に対する理解を深めた上で，理論と実践を往還する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける.
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う. ・論拠に基づいた説得力のあるレジュメを作成できるようになる. ・発表や議論の技術を身につける.
授業計画	1　ガイダンス　−発表する章の決定 2　お金と経営学 3　人生の抽象化　−抽象的な人と具体的な人 4　経営学者の思考　−理論ドリブンと現象ドリブン 5　社会人の方々は今こそ経営理論を学ぶべき 6　メモの魔力を持てば世界に敵はいない−序章 7　日常をアイデアに変える　−第1章 8　思考を深める　−第2章 9　自分を知る　−第3章 10　夢をかなえる　−第4章 11　メモは生き方である　−第5章 12　論文の準備（産業選択，資料整理）−論文の構造 13　とにかく書いてみる 14　発表と議論（１） 15　発表と議論（２）
テキスト・教材（参考文献）	前田裕二(2018)『メモの魔力』幻冬舎 ISBN：978-4344034082
事前・事後学習	第7〜11回：毎回，教科書を１章ずつ読む. 発表担当者は，任意の章の内容を要約したレジュメを基に発表する. 発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）. 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける. 発表者以外も，教科書を事前に読み込んだ上で，関連情報（各章のキーワードのWeb上の説明，関連本など）を集めておくこと（1時間程度）。 各回の演習内容や議論を踏まえた上で，論文の土台づくりを行う（毎週約1時間）.
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に教科書の担当分の発表をしなかった場合は 原則，その日は欠席扱いとなる. ※間に合わない場合は途中でも良いのでレジュメを用意して発表すること 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなる.
授業内の課題・提出方法	発表のレジュメは，ゼミの人数分（＋教員提出用１部）を印刷して持参すること.
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	出席確認の質問に対する解答は，前のスクリーンで紹介する場合がある. また発表や議論に関して，授業内で適宜コメントする.
アクティブラーニング	学生自身に教科書の担当章の要約を発表してもらい，発表に基づいて議論を行う回がある（第7〜11回の予定）.
実務経験のある教員	
担当者から一言	毎回の授業でノートをとること. ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く. 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること.

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	471101	授業コード	124203
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、地域のしくみを知るとともに、仲間と協働して身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　改めて地域の課題を考える 第３講　チームビルディングと協働 第４講　地方自治体に見る自治と協働 第５講　住民自治と団体自治 第６講　二元代表制と議会・首長の役割 第７講　計画・条例・予算 第８講　テーマとフィールド 第９講　現状の定量的把握 第10講　先行研究を探してみよう 第11講　新聞記事を探してみよう 第12講　著作権と研究倫理 第13講　現状と課題を整理してみよう 第14講　課題の絞り込み 第15講　研究計画を考える ※ 90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。 ※ 各人の興味の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。 ※ 夏休みには、有志のゼミ旅行も予定したいと思います。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2，200円＋税 大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規（2021年）、2，500円＋税						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 　また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
アクティブラーニング	第２講以降は毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	471101	授業コード	124204
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	日常にあふれる様々な言葉や表現、物語は、人のどのような意識のもと発せられているのか。言葉や文化、作品の創作や享受の裏には、どのような時代状況・社会状況の反映があるのか。文化現象・流行や近現代の（広い意味での）文学作品を取り上げ、これらの分析を通して、人間・人生・人間関係のあり方、社会の模様について考えを深めることを試みます。作品等に向き合うことで、「読む」「調べる」「分析する」「問題を見つける」「論じる」「文章にまとめる」「口頭発表する」「議論する」といった能力を鍛えましょう。						
到達目標	・読解力、解釈力、問題発見力、言葉に対する感性を養う。 ・自分の考えを文章にまとめて論じたレジュメを作成できるようになる。 ・口頭発表や質疑応答などの議論のスキルを身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、文学ネタで自己紹介プレゼン 第２講　〈異世界転生〉流行の理由――皆で考える 第３講　〈異世界転生〉流行の理由――発表① 第４講　〈異世界転生〉流行の理由――発表② 第５講　ラノベのタイトルはなぜ長い？問題――皆で考える 第６講　ラノベのタイトルはなぜ長い？問題――発表① 第７講　ラノベのタイトルはなぜ長い？問題――発表② 第８講　歌詞を細かく深く分析する練習① 第９講　歌詞を細かく深く分析する練習② 第10講　作品A①――読む・意見交換 第11講　作品A②――発表・議論 第12講　作品B①――読む・意見交換 第13講　作品B②――発表・議論 第14講　作品C①――読む・意見交換 第15講　作品C②――発表・議論						
テキスト・教材（参考文献）	演習で扱う作品のテクストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。						
事前・事後学習	基本的には、２～３週で１セットとなっています。１週目はみんなでコメントを出し合い、２、３週目に発表担当者がレジュメを準備したうえで口頭発表します。発表担当者は相当の時間（発表前1週間は毎日数時間ずつ）をかけて準備をすること。発表担当者以外も、与えられたテクストを読み、それにまつわる情報（作者の情報、関連作品について等）を収集しておくこと（１時間程度）。						
成績評価方法	・発表（レジュメ内容、口頭発表の仕方、質疑応答の様子）　40% ・毎回の取り組み姿勢（発言意欲、コメント内容など）　60% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	毎回のゼミで指示する。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷をして持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に関しては、教員・学生全員でコメントし合い、議論をする。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	文学作品や文学現象、文化現象に隠されている問題を見つけたり分析して説明をつけたりすること、普段自分から出会うことはなかなかない文学作品を読み、さらに読み解くこと、そしてそれを誰かと共有して語り合うことは、刺激的な体験となりえます。みんなで面白がりましょう。						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	471101	授業コード	124205
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	この授業では、“マンガ”で描かれたテキストを使って基本的な経済学の考え方を理解します。経済学は、「難しそうな言葉や複雑な計算がたくさん出てきそうだ」と思われがちですが、いくつかのキーワードを理解しておけば、数学ができなくても十分に理解できる学問です。また、そのようにして習得した経済学的な思考を使って、現実に起きている経済問題について考えていく力をつけてもらうことが、この授業のねらいです。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。さらに他のゼ						
到達目標	まずは、何がわからないかを声にだしてみましょう。その上で、経済学の基本的な考え方を習得し、テレビや新聞で報道されている経済問題を理解し、さらにその問題について自分の意見を言えるようになることを、到達目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 経済学って何をしようとする学問なの？＆商品開発 第３講 モノの値段は何をもとに決まっている？ 第４講 「コスト＝費用」についての経済学的な考え方とは？ 第５講 商品開発（二村ゼミと合同） 第６講 BAURAミーティングについて四日市商工会議所の講義（浅井・松本ゼミと合同） 第７講 四日市港見学（浅井・松本ゼミと合同） 第８講 BAURAミーティングのこれまでの取り組み（浅井・松本ゼミと合同） 第９講 子育て事業・イベントについて（浅井・松本ゼミと合同） 第10講 四日市港の歴史（（浅井・松本ゼミと合同） 第11講 商品開発（二村ゼミと合同） 第12講 商品開発（二村ゼミと合同） 第13講 財政政策と金融政策 第14講 良いインフレと悪いインフレがあるらしい？ レポート提出② 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	下記テキストのコピーを配布します。 井堀利宏「大学４年間の経済学がマンガでざっと学べる」KADOKAWA（2017年）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。授業後、その日読んだマンガのテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す（９０分以上）。						
成績評価方法	授業内での報告や発言内容70%、その他商品開発やゼミ活動への取り組み方30%。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業内で発言、報告、レポート提出などを行ってもらういます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内での質問や取り組み方の振り返りなどについては適宜説明します。						
アクティブラーニング	ディスカッション、ミニッツペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124206
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では国際情報の性質を考えていきます。実際の授業では、具体的な報道記事を材料に、「誰が、何を、どう表現し」、それを「誰が、どのように受容したか」を、できるだけ一次資料にまで遡って分析し、その上で、入手できた資料を使いオリジナルの記事を作成してみましょう。最後の２回ではオリジナルの記事の合評会を予定しています。 作業は留学生と日本人学生の混成グループにより進めることとし、作業中の使用言語は日本語と英語のみとします。						
到達目標	１．一次資料に遡れる調査能力の獲得 ２．資料に基づくレポート作成能力の獲得 ３．多言語コミュニケーション能力の獲得 ４．プレゼンテーション能力の獲得						
授業計画	第１講：ガイダンス 第２講：報道記事を解剖する（講義） 第３講：出来事の選択 第４講：記事の持ち寄り 第５講：記事の選択（グループ作業） 第６講：記事の解剖（グループ作業） 第７講：情報源の特定（グループ作業） 第８講：資料の抽出（グループ作業） 第９講：資料の持ち寄り 第10講：資料の評価 第11講：記事作成のための資料選択（グループ作業） 第12講：オリジナル記事の構成（グループ作業） 第13講：オリジナル記事の作成（グループ作業） 第14講：合評会 第15講：合評会						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。 １．材料とする報道記事の検索（１時間） ２．報道記事の分析（１時間半） ３．一次資料の調査（２時間） ４．発表資料の作成（２時間）						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ひとつの報道記事には、いくつかの別の主体の判断や認識が含まれているのが一般的です。「何が書かれていないか」に注目してみましょう。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124207
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　哲学とは何か 第３講　哲学と私 第４講　古代哲学：ソクラテス以前 第５講　古代哲学：ソクラテス 第６講　古代哲学：プラトン 第７講　古代哲学：アリストテレス 第８講　中世哲学：新プラトン主義 第９講　中世哲学：スコラ哲学 第10講　近代哲学：ルネサンス 第11講　近代哲学：デカルト 第12講　近代哲学：スピノザ 第13講　近代哲学：ライプニッツ 第14講　哲学論文の書き方 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『哲学用語図鑑』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 研究発表：20% 最終レポート：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124208
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	企業が年に1度作る書類に「財務諸表（決算書）」があります。簿記をベースにして作られる財務諸表からは、その企業がどんな資産をどれだけ持っているか、どれだけ儲けたか、といった会計情報を読み取れます。財務諸表を読み、経営分析の基礎的な手法を身につけることをこの演習のねらいとします。卒業研究を見据えて、情報の収集、分析、取りまとめや発表などのスキルを実践で鍛えましょう。また卒業研究のテーマ探索に向けてディスカッションをします。						
到達目標	（1）企業の財務諸表（決算書）を使った、基礎的な経営分析のスキルを身につける。 （2）企業の財務諸表を、ビジネスモデルや経営環境などと関連づけて読むスキルを身につける。 （3）自分の考えを文章にまとめるスキル、報告・発表するスキルを身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス・自己紹介 第２講　企業とお金の関係 第３講　企業の会計情報 第４講　企業に関する新聞・雑誌記事を読む 第５講　資料の探索・収集に図書館を活用する 第６講　財務諸表を読み解く（1） 第７講　財務諸表を読み解く（2） 第８講　わかりやすい文章 第９講　わかりやすい発表 第10講　経営分析のグループワーク（1） 第11講　経営分析のグループワーク（2） 第12講　経営分析のグループワーク（3） 第13講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（1） 第14講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（2） 第15講　まとめ・基礎演習bに向けたディスカッション ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。						
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、次回までに必要な情報の収集と分析、発表用のスライドの作成などを行う（合計90分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計90分以上）。						
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%						
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。						
アクティブラーニング	実在する企業の財務諸表をもとにした経営分析をグループおよび個人単位で行い、そのプレゼンテーションをしてもらいます。発表内容についてディスカッションも行います。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124209
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	現代社会における社会福祉問題の背景や要因を理解し、自分なりの解決方法を考察することを目指す授業です。						
到達目標	私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考え、実際に行動できるカを持つことが目標です。						
授業計画	第1回　　ガイダンス、自己紹介 第2回　　社会保障とは、社会福祉とは 第3回　　社会保障、社会福祉について① 第4回　　社会保障、社会福祉について② 第5回　　社会保障、社会福祉について③ 第6回　商工会議所よりゲストスピーカーを予定（鶴田ゼミ、浅井ゼミ合同） 第7回　フィールドワーク（現地見学） 第8回　鶴田先生講義（BAURAミーティングの意味） 第9回　松本講義（子育て事業・イベントの意味） 第10回　浅井先生講義（四日市港の歴史） 第11回　ワークショップ①（BAURAスタンプラリーの地図等の作成） 第12回　ワークショップ② 第13回　ワークショップ③ 第14回　ワークショップ④ 第15回　ワークショップ⑤						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、興味関心に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	授業内での報告や発言内容（70%）、レポート2回（30%）						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で発言してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で質問を受け付け、フィードバックを行います。						
アクティブラーニング	現地実習、ディスカッション、コメントカード						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）						
担当者から一言	授業計画はフィールドワークの時期や興味関心により変更する場合があります。自分ごととして社会福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席 扱いとします）していただきます。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124210
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、現実を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。基礎演習aでは論説文の書き方を学びます。論説文はレポートはもちろんプレゼンテーションの基本でもあります。自分の考えを正確にわかりやすく伝える力を高めましょう。						
到達目標	文章を論理的に組み立てることができる。						
授業計画	1 ガイダンス 2 文章の書き方 3 文章の型を知る 4 型から文章を作る 5 文章の読み方 6 メモを取りながら読む 7 メモを活用する 8 文書資料の探し方 9 統計資料の探し方 10 レジュメをつくる 11 レジュメから文章へ 12 段落の構成 13 文の構成 14 接続詞を学ぶ 15 後学期ガイダンス						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 野矢茂樹（2018）『増補版　大人のための国語ゼミ』筑摩書房. 宮内泰介・上田昌文（2020）『実践　自分で調べる技術』岩波書店.						
事前・事後学習	各回の課題に取り組むこと（一日15分程度）						
成績評価方法	平常点100%。 平常点は各回の課題と授業への参加度で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各回の課題は翌週の授業で提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題をもとに教員を含めた全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	原稿用紙のマス目を埋めるだけの作文を卒業し、論理と構成を備えた文章を書く力を身につけましょう。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	124211
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	この演習ではまず話すことと質問することに慣れることを目標とします。 【①質疑応答　導入】では各自が自由に設定したテーマについて各自で調査・資料作成、報告（15分程度）を行い、他のゼミ生からの質疑への応答をしてもらいます。 【②レジュメの作り方】では、与えられたテキストをどのように要約し、レジュメに落とし込むかの方法を学び、行政学や政策過程論に関係するテキストや論文の一部を担当学生が要約し、ディスカッションを行います。 【③問題解決演習】では、②で身につけた政策関連知識をもとに、実際の問題解決演習を行います
到達目標	①いかなるテーマに対しても自身の意見を述べることが出来る ②文章の読解・要約技術を身に着ける ③政策研究の末野の広さを理解し、自身の関心の所在を見つける
授業計画	01.　自己紹介／ゼミ運営ルールの共有 【①質疑応答　導入】 02.　プレゼンテーション基礎 03.　個人プレゼン・ディスカッション　1/3 04.　個人プレゼン・ディスカッション　2/3 05.　個人プレゼン・ディスカッション　3/3 【②レジュメの作り方】 06.　レジュメの作り方 07.　レジュメに基づく文書要約・報告 08.　レジュメに基づく文書要約・報告 09.　レジュメに基づく文書要約・報告 【③問題解決演習】 10.　グループワーク 11.　グループワーク 12.　グループワーク 13.　グループワーク 14.　グループワーク 15.　まとめ
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、下記を参考文献として挙げ、一部講読する可能性がある。 ・成清弘和（2016）『理系のための論理が伝わる文章術』講談社 ・秋吉貴雄（2017）『入門　公共政策学』中公新書 ・ユージン・バーダック、エリック・M・パタシュニック＝白石賢司・鍋島学・南津和広（2023）『政策立案の技法[第二版]』東洋経済新報社
事前・事後学習	報告担当となった学生は各自で報告資料・レジュメの作成を各自で事前に行ってください（300分程度）。 また、報告者以外の学生も演習中、質疑に参加してもらいます。質問を行うためには日ごろから目にしたニュースや新聞記事に関心を持っておく必要があります。通学中などにSNSやニュースサイトなどで気になったトピックを都度、調べてみる習慣を身に着けてください（60分程度）。
成績評価方法	報告資料（20%）と、ゼミへの貢献度：質疑への積極性・内容（80%）で総合評価します。 なお、原則として無断での遅刻・欠席は認めず、報告担当者が遅刻欠席した場合、単位を与えません。
授業内の課題・提出方法	演習中の報告資料を課題として設定し、演習中に適宜講評を行います。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	演習中に適宜講評を行います。
アクティブラーニング	学生による報告と質疑応答を実施する
実務経験のある教員	業務委託による自治体行政計画策定支援・ワークショップ等支援経験
担当者から一言	ゼミは講義と違って、学生の皆さんが主体となって討論しながら、考える場です。わからないことがあったら何でも口に出して質問する習慣を身につけましょう。自分がわからないことは、大概、他の人もわかっていません。誰かが質問しなければ永遠に謎のままです。全員でわからないを出し合って、少しずつわかる領域を増やしていきましょう。 なお、ゼミ運営にあたりマイクロソフトTeamsによる資料情報共有を予定しています。

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	471101	授業コード	124212
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本演習では、スポーツ科学に関連した文献講読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成する。						
到達目標	文献検索や資料作成等、研究を進めるための基礎的な手法を習得する。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　レポートのテーマ検討 第3講　レポートのテーマ検討 第4講　スポーツ科学とは 第5講　文献講読・討論 第6講　文献講読・討論 第7講　文献講読・討論 第8講　文献講読・討論 第9講　文献講読・討論 第10講　文献講読・討論 第11講　文献講読・討論 第12講　文献講読・討論 第13講　文献講読・討論 第14講　文献講読・討論 第15講　総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、課題文献に関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	課題文献の解説･要約（５０%）、レポート（５０%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	毎回担当者を決めて、課題文献の解説をしてもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	124605
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	本科目では、歴史が地域社会の中でどう息づいているのか、その影響の中で我々は地域の課題とどう向き合っていけばよいのかを歴史的に考察することを将来的な目標とする学生を対象とする。その目標に向け、歴史的事実を根拠を持って説明できるよう、実際に自分の関心に基づいて現地調査、史料調査を行ってみる。
到達目標	1. 論拠となる史資料を収集する能力を身につける。 2. 自分なりの論点を学術的に論じるための発表スキルを向上させる。 3. 上の作業を通して、研究テーマを固めていく。
授業計画	第1回　　ガイダンス、歴史研究とは 第2回　　フィールドワーク（1） 第3回　　フィールドワーク（2） 第4回　　フィールドワーク（3） 第5回　　フィールドワーク（4） 第6回　　興味・関心についての発表 第7回　　史資料の収集・分析（1） 第8回　　史資料の収集・分析（2） 第9回　　プレゼンテーション作成（1） 第10回　　プレゼンテーション作成（2） 第11回　　プレゼンテーション作成（3） 第12回　　プレゼンテーション作成（4） 第13回　　発表（1） 第14回　　発表（2） 第15回　　発表（3） ※フィールドワークの【交通費等自己負担】
テキスト・教材（参考文献）	授業で必要なプリントは電子あるいは紙で配布する。
事前・事後学習	研究テーマに関連した史資料収集をする(90分）。発表準備をする(90分）。
成績評価方法	評価方法は以下の通り。 ・プレゼンテーション： 50% ・授業中の発言・受講態度およびプレゼンテーション等： 50%
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で発表者以外も必ず一度は発言してもらう。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	都度、フィードバックする時間を設ける。
アクティブラーニング	フィールドワーク、調査学習、プレゼンテーション
実務経験のある教員	
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、了解しておくこと。 また、無断欠席者には原則として単位を与えない。

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124606
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	本演習では経営学の2つの顔（理論と実践）を理解した上で，経営学者としての思考を養う．経営学では実践的な経営活動を，抽象的な理論で説明することが求められるが，優秀な経営者や経営学者は，理論と実践を往還する能力を備えている. 本演習では，理論と実践を往還する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける.
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う. ・論拠に基づいた説得力のあるレジュメを作成できるようになる. ・発表や議論の技術を身につける.
授業計画	1　ガイダンス 2　前期のフィードバック（１） 3　前期のフィードバック（２） 4　問題意識　–今，考えるべき世の中の問題とは 5　問題の社会的意義の議論 6　資料収集（１）–先行研究 7　資料収集（２）–先行研究の深堀 8　資料収集（３）–事例研究 9　事例研究の検討（１） 10　事例研究の検討（２） 11　事例の考察　–具体の抽象化 12　考察の検討（１） 13　考察の検討（２） 14　解答の社会的意義の議論 15　まとめ–発表へのフィードバック
テキスト・教材（参考文献）	前田裕二(2018)『メモの魔力』幻冬舎 ISBN：978-4344034082
事前・事後学習	発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）. 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける. 発表者以外も，前期の資料や教科書を事前に読んだ上で，関連情報（各回のキーワードのWeb上の説明など）を集めておくこと（1時間程度）。 各回の内容を復習し，自分の卒論作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）.
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に発表しなかった場合は原則，その日は欠席扱いとなる. (前回の発表内容を少しでも良いので進めた上で，何らかの発表を行うようお願いします) 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点で原則，その日は欠席扱いとなる.
授業内の課題・提出方法	レジュメを用意するように指示された課題については， ゼミの人数分（＋教員提出用１部）のレジュメを印刷して持参すること. ※moodle上にも課題のファイルを提出するよう指示する場合がある. レジュメの印刷が間に合わない場合は，moodle提出だけでも行うこと
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や出席確認の質問に対する解答は，前のスクリーンで紹介する場合がある. また発表や議論に関して，授業内で適宜コメントする.
アクティブラーニング	卒論の土台（例．卒論の第1章と2章）を作成した上で，それに基づいた発表を行ってもらう回がある.
実務経験のある教員	
担当者から一言	毎回の授業でノートをとること. ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く. 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること.

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124607
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。
到達目標	この演習では、地域の抱えている課題や問題などを知り、それを解決・改善していくために必要となる基本的な知識や技能を身につけることを、到達目標としています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　火事と救急出動 第３講　消防士と消防団員 第４講　防災・危機管理 第５講　事件と事故 第６講　警察と公安委員会 第７講　消防士・警察官になるために 第８講　公共事業と社会資本 第９講　地域経済と産業振興 第10講　スポーツと健康づくり 第11講　地元企業で働くために 第12講　子育てと福祉 第13講　文化・市民活動 第14講　多文化共生と人権 第15講　自治体行政職員になるために ※ 各人の興味関心などに応じて、内容が変更になる場合があります。 ※ 秋には大学祭での模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」（有志のみ）を、それぞれ予定しています。
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2，200円＋税 大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規（2021年）、2，500円＋税
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 　また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めていきます
実務経験のある教員	
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124608
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	日本の近現代の文学作品を、前学期より学問的に分析していきます。前半は、現代のラノベ状況や流行の変遷について、それが時代や社会、読者心理とどのように関係しているかを分析します。後半は、文学作品を、単に作品だけを見るのではなく、時代状況、社会状況、そこで生きている作者本人という背景も踏まえた上で分析し、より作品に対する理解を深めて、そこから問題点を設定し自分なりの論点で論じる練習をします。						
到達目標	・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表のスキルを向上させる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、現代のラノベ状況について考える① 第２講　現代のラノベ状況について考える② 第３講　現代のラノベ状況について論じる① 第４講　現代のラノベ状況について論じる② 第５講　現代のラノベ状況について論じる③ 第６講　歌会 第７講　小説Aー作品について議論する 第８講　小説Aー作品を論じる 第９講　小説Bー作品について議論する 第10講　小説Bー作品を論じる 第11講　小説Cー作品について議論する 第12講　小説Cー作品を論じる 第13講　小説Dー作品について議論する 第14講　小説Dー作品を論じる 第15講　「ちびまる子ちゃん」について考える 履修者の人数によっては、内容の構成を多少変える可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	演習で扱う作品のテクストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。						
事前・事後学習	・ほぼ毎回、次回までに読んでくるべき資料を配布するので、それを読む（約１時間）。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも１週間前から入念な発表準備をする（毎日数時間×７日間）。						
成績評価方法	・毎回のコメントと受講態度　60% ・発表と質疑応答の内容　　40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。						
授業内の課題・提出方法	課題については、ゼミで指示します。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷してゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に対して、教員や学生全員でコメントし合い、議論をします。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「基礎演習ａ」では散発的に作品を読むという感じでしたが、「基礎演習ｂ」では1人の作家や1つのジャンルに対象は絞りつつも、より深く、より影響などを考察し、学問的に作品と格闘します。あーだこーだと考え、議論することの楽しさを味わいましょう。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124609
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この授業では、経済に関する新聞記事を読んで、経済用語や理論を学ぶとともに、現在どんなことが問題となっているかについて考えていきます。同時に３年生から取り組む卒業研究のテーマのネタ探しも行います。また、１０月中旬に四日市港（旧港）で行われるBAURAミーティングでの企画立案、当日の運営にも携わります。						
到達目標	基本的な経済理論と、身の回りで話題になっている経済問題を理解する。 問題意識を持つ力をつける。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 新聞記事を読む 第３講 新聞記事を読む 第４講 新聞記事を読む 第５講 新聞記事を読む 第６講 BAURAミーティング準備 第７講 BAURAミーティング準備 第８講 BAURAミーティング準備 第９講 BAURAミーティング参加 第10講 新聞記事を読む 第11講 新聞記事を読む 第12講 新聞記事を読む 第13講 新聞記事を読む 第14講 新聞記事を読む 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	新聞記事を用意します。						
事前・事後学習	前の週に渡した新聞記事を読んで、わからない用語を調べておくとともに、疑問点を３つ以上考えておく（９０分以上）。 授業後、ディスカッションした内容についてまとめる（９０分以上）。						
成績評価方法	課題の取り組み７０%、授業内での発言内容３０%						
授業内の課題・提出方法	全員に疑問点を板書してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	板書してもらった内容についてコメントします。						
アクティブラーニング	全員が疑問点を板書した上でディスカッションを行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	124610
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、論文作成を中心に考えます。前期までに考えてきた各自のテーマを論文のスタイルで表現してみましょう。その準備段階として、「一文作文」、「構成」、「一枚作文」という３つの作業を順番に進めます。最後には、足りないデータを探す方法を考えたいと思います。						
到達目標	自分で論文作成の準備ができる。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 研究テーマの確認 第３講 論文とは 第４講 論文の仕組み 第５講 「一文作文」の作成１ 第６講 「一文作文」の作成２ 第７講 「一文作文」から「構成」へ 第８講 「パラグラフ・ライティング」１ 第９講 「パラグラフ・ライティング」２ 第10講 「構成」から「一枚作文」へ１ 第11講 「構成」から「一枚作文」へ２ 第12講 「一枚作文」の合評会１ 第13講 「一枚作文」の合評会２ 第14講 追加データの確認 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	自ら表現することを中心に考えていきます。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	124611
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンスと前期の復習 第２講　前期のフィードバック(1) 第３講　前期のフィードバック(2) 第４講　近代哲学：カント(1) 第５講　現代哲学：カント(2) 第６講　現代哲学：ヘーゲル(1) 第７講　現代哲学：ヘーゲル(2) 第８講　発表と議論（１） 第９講　発表と議論（２） 第10講　発表と議論（３） 第11講　発表と議論（４） 第12講　発表と議論（５） 第13講　発表と議論（６） 第14講　発表と議論（７） 第15講　発表のコメントやフィードバック						
テキスト・教材（参考文献）	『哲学用語図鑑』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124612
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	企業が年に1度作る書類に「財務諸表（決算書）」があります。簿記をベースにして作られる財務諸表からは、その企業がどんな資産をどれだけ持っているか、どれだけ儲けたか、といった会計情報を読み取れます。財務諸表を読み解き、経営分析の基礎的な手法を身につけることをこの演習のねらいとします。卒業研究を見据えて、情報の収集、分析、取りまとめや発表などのスキルを実践で鍛えましょう。また卒業研究のテーマ探索に向けてディスカッションをします。
到達目標	（1）企業の財務諸表（決算書）を使った、基礎的な経営分析のスキルを身につける。 （2）企業の財務諸表を、ビジネスモデルや経営環境などと関連づけて読むスキルを身につける。 （3）自分の考えを文章にまとめるスキル、報告・発表するスキルを身につける。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　研究テーマの探索 第３講　レポート・論文の書き方（1） 第４講　レポート・論文の書き方（2） 第５講　財務諸表を読み解く（1） 第６講　財務諸表を読み解く（2） 第７講　経営分析のグループワーク（1） 第８講　経営分析のグループワーク（2） 第９講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（1） 第10講　財務諸表を読み解く（3） 第11講　経営分析のワーク（1） 第12講　経営分析のワーク（2） 第13講　経営分析のワーク（3） 第14講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（2） 第15講　まとめ・専門演習に向けたディスカッション ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、次回までに必要な情報の収集と分析、発表用のスライドの作成などを行う（合計90分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計90分以上）。
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。
アクティブラーニング	実在する企業の財務諸表をもとにした経営分析をグループおよび個人単位で行い、そのプレゼンテーションをしてもらいます。発表内容についてディスカッションも行います。
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124613
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	現代社会における社会福祉問題の背景や要因を理解し、自分なりの解決方法を考察することを目指す授業です。
到達目標	私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考え、実際に行動できるカを持つことが目標です。
授業計画	第1回　　後期ガイダンス 第2回　　BAURA事前準備 第3回　　フィールドワーク① 第4回　　フィールドワーク② 第5回　　フィールドワーク③ 第6回　　フィールドワーク④ 第7回　　フィールドワーク⑤ 第8回　　興味関心についての意見交換、ディスカッション① 第9回　　興味関心についての意見交換、ディスカッション② 第10回　興味関心についての深掘り、資料収集① 第11回　興味関心についての深掘り、資料収集② 第12回　発表資料作成準備① 第13回　発表資料作成準備② 第14回　プレ発表 第15回　発表
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、興味関心に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）
成績評価方法	授業内での報告や発言内容（70%）、レポート2回（30%）
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で発言してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で質問を受け付け、フィードバックを行います。
アクティブラーニング	現地実習、ディスカッション、コメントカード
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）
担当者から一言	授業計画はフィールドワークの時期や興味関心により変更する場合があります。自分ごととして社会福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます。

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124614
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、現実を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。2年生の後学期は文章を読む力をのばすことに主眼をおき、文章を通して色々な社会の見方に触れていきます。						
到達目標	1. 文章を読み、内容を吟味できるようになる 2. レジュメ作成の能力を身につける 3. 社会学の基本的な用語や考え方を身につける						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　論説文の読み方 第３講　短い文章を読む1 第４講　短い文章を読む2 第５講　文章を吟味する1 第６講　文章を吟味する2 第７講　レジュメの作り方 第８講　報告と議論1 第９講　報告と議論2 第10講　報告と議論3 第11講　書評レポートの書き方 第12講　報告と議論4 第13講　報告と議論5 第14講　報告と議論6 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	各回の課題に取り組むこと（一日15分程度）						
成績評価方法	報告50%、授業への参加度50%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題をもとに教員を含めた全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うことが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124615
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、研究の方法とその報告方法・まとめ方の習得を目標とします。 基本的にはグループワークを基本として、毎講義、グループごとでの進捗報告などをしてもらいます。 この活動を通して、卒業研究へ向けた基礎的な研究工程の考え方を身に着けることを目指します。						
到達目標	①研究工程に関する基礎的な知識を身に着ける ②研究活動の表現方法の基礎を身に着ける ③卒業研究に向けて自身の関心事を見つける						
授業計画	01.　ガイダンス 02.　研究とレポートの違い 03.　テーマ探し 04.　課題の設定 05.　先行研究調査 06.　先行研究整理 07.　論点整理 08.　追加調査 09.　追加調査 10.　レジュメ作成 11.　レジュメ講評 12.　報告準備 13.　報告練習 14.　報告実践 15.　まとめ ※12月初旬に他大学との合同研究発表合宿への参加あり						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。 演習中に必要に応じて随時紹介する。						
事前・事後学習	報告担当となった学生は各自で報告資料・レジュメの作成を各自で事前に行ってください（300分程度）。 また、報告者以外の学生も演習中、質疑に参加してもらいます。質問を行うためには日ごろから目にしたニュースや新聞記事に関心を持っておく必要があります。通学中などにSNSやニュースサイトなどで気になったトピックを都度、調べてみる習慣を身に着けてください（60分程度）。						
成績評価方法	報告資料（20%）と、ゼミ・グループワークへの貢献度：質疑への積極性・内容（80%）で総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	演習中の報告資料を課題として設定し、演習中に適宜講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	演習中に適宜講評を行います。						
アクティブラーニング	学生による報告と質疑応答を実施する						
実務経験のある教員	業務委託による自治体行政計画策定支援・ワークショップ等支援経験						
担当者から一言	ゼミは講義と違って、学生の皆さんが主体となって討論しながら、考える場です。わからないことがあったら何でも口に出して質問する習慣を身につけましょう。自分がわからないことは、大概、他の人もわかっていません。誰かが質問しなければ永遠に謎のままです。全員でわからないを出し合って、少しずつわかる領域を増やしていきましょう。 なお、ゼミ運営にあたりマイクロソフトTeamsによる資料情報共有を予定しています。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	471102	授業コード	124616
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本演習は、スポーツ・運動・健康をテーマとして、レポート及び論文作成のための基礎的な能力養成を目的とする。						
到達目標	各種資料（書籍・雑誌・新聞記事・映像資料等）を整理し、レポートとしてまとめた上で発表する。その発表内容についてクラス全員で質疑応答や討論を重ねることによって、その後の研究テーマ選定へとつなげていく。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　レポート・論文の書き方 第3講　資料収集法 第4講　レポート作成（はじめに） 第5講　レポート作成（はじめに） 第6講　レポート作成（はじめに） 第7講　レポート作成（方法） 第8講　レポート作成（結果及び考察） 第9講　レポート作成（結果及び考察） 第10講　レポート作成（結果及び考察） 第11講　レポート発表・質疑応答・討論 第12講　レポート発表・質疑応答・討論 第13講　レポート発表・質疑応答・討論 第14講　レポート修正版完成 第15講　レポート修正版完成						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	レポート（５０%）、プレゼンテーション（５０%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生の自主的なテーマ選定・資料収集・レポート作成・討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	124301
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本科目では、歴史が地域社会の中でどう息づいているのか、その影響の中で我々は地域の課題とどう向き合っていけばよいのかを歴史的に考察することを将来的な目標とする学生を対象とする。その目標に向け、歴史的事実を根拠を持って説明できるよう、実際に行なった現地調査、史料調査の分析について学ぶ。						
到達目標	・様々な視点から物事をとらえ、通説や常識を鵜呑みにするのではなく、根拠をしっかり押さえる。 ・根拠となる史資料を収集する、それを分析・検討する、そして発表し、さらにブラッシュアップしていくという一連の流れを経験する。						
授業計画	第1回　ガイダンス、歴史研究とは 第2回　史資料収集（1） 第3回　史資料収集（2） 第4回　史資料収集（3） 第5回　史資料収集（4） 第6回　分析・検討（1） 第7回　分析・検討（2） 第8回　分析・検討（3） 第9回　分析・検討（4） 第10回　プレゼンテーション作成（1） 第11回　プレゼンテーション作成（2） 第12回　プレゼンテーション作成（3） 第13回　発表（1） 第14回　発表（2） 第15回　発表（3）						
テキスト・教材（参考文献）	授業で必要なプリントは電子あるいは紙で配布する。						
事前・事後学習	先行研究の調査は予習として必須（60-90分）。 事後学習については、毎回の授業で出てきた不明点を残さないようする。また、授業に関する事柄を自ら調べる (60分）。						
成績評価方法	評価方法は以下の通り。 ・予習等の取り組み： 50% ・授業中の発言・受講態度等： 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で必ず発言してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	都度、フィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	体験学習、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・ 関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、了解しておくこと。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	124302
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	3年次にあたる専門演習aでは、卒業研究の準備を行うことを目的とします。研究の着手にあたっては、何よりご自身の関心が大事ですが、同時に、新聞・雑誌・書籍などによって、どのように扱われているかを探りながら、自分の関心を深めていくプロセスが必須です。このようなリサーチ作業が中心になります。 専門演習aでは情報のリサーチ技法の習得とそのプロセス管理を行うことにします。 また研究テーマに基づいて企業や地域を訪れる学外演習も行いたいと思います。						
到達目標	到達目標は以下の３点です。 １． 自分の関心事についてのキーワードの探索 ２． キーワードに基づいた情報リサーチの実施 ３． リサーチ結果をまとめる						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 情報リサーチの技法習得（１） 第３講 情報リサーチの技法習得（２） 第４講 情報リサーチの技法習得（３） 第５講 情報リサーチの実践（１） 第３講 情報リサーチの実践（２） 第４講 情報リサーチの実践（３） 第６講 学外演習（１） 第７講 学外演習（２） 第８講 学外演習（３） 第９講 情報リサーチのとりまとめ（１） 第10講 情報リサーチのとりまとめ（２） 第11講 情報リサーチのとりまとめ（３） 第12講 成果のプレゼンテーション（１） 第13講 成果のプレゼンテーション（２） 第14講 成果のプレゼンテーション（３） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用せず、講義中に資料配布します。						
事前・事後学習	事前学習：日頃から新聞、インターネットなどのニュースに触れておくこと（90分） 事後学習：指摘された内容にまとめておく（90分）						
成績評価方法	受講態度50% 成果の提出50%						
授業内の課題・提出方法	毎回、ディスカッションの内容をメモとして提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたメモに基づき次回の内容を確認します。						
アクティブラーニング	報告・レジメの作成・ディスカッションが求められます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生同士のディスカッションを重視します。いろいろ考えを巡らせて、ゼミ全体としてよい研究ができるようにしましょう。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	124303
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	本演習では，経営学の用語を使って具体的な現象を説明する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける.
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う. ・論拠に基づいた説得力のある論文を作成できるようになる. ・発表や議論の技術を身につける.
授業計画	1　ガイダンス 2　基礎演習bのフィードバック（1） 3　基礎演習bのフィードバック（2） 4　問題意識の検討（1） 5　問題意識の検討（2） 6　先行研究と事例研究の検討（1） 7　先行研究と事例研究の検討（2） 8　中間発表（1） 9　中間発表（2） 10　考察の検討（1） 11　考察の検討（2） 12　考察の検討（3） 13　結論の検討 14　現段階の卒論の発表（1） 15　現段階の卒論の発表（2）
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する.
事前・事後学習	発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）. 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける. 発表者以外も，自分の発表回に向けて自分の選んだ産業や企業に関する情報を収集する（1時間程度）. 各回の内容を復習し，自分の卒論作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）.
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に発表しなかった場合は原則，その日は欠席扱いとなる. (前回の発表内容を少しでも良いので進めた上で，何らかの発表を行うようお願いします) 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点で原則，その日は欠席扱いとなる.
授業内の課題・提出方法	レジュメを用意するように指示された課題については， ゼミの人数分（＋教員提出用１部）のレジュメを印刷して持参すること. ※moodle上にも課題のファイルを提出するよう指示する場合がある. レジュメの印刷が間に合わない場合は，moodle提出だけでも行うこと
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生の課題は，前のスクリーンで紹介する場合がある. 課題や議論に関しては，授業内で適宜コメントする.
アクティブラーニング	卒論の土台（例．卒論の事例と考察の章）を作成した上で，それに基づいた発表を行ってもらう回がある.
実務経験のある教員	
担当者から一言	毎回の授業でノートをとること. ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く. 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること. ほぼ毎回の授業で私語やスマホの注意を受けた人には 原則，単位を認めません.

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124304
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、地域のしくみを知るとともに、仲間と協働して身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　改めて地域の課題を考える 第３講　チームビルディングと協働 第４講　地方自治体に見る自治と協働 第５講　住民自治と団体自治 第６講　二元代表制と議会・首長の役割 第７講　計画・条例・予算 第８講　テーマとフィールド 第９講　現状の定量的把握 第10講　先行研究を探してみよう 第11講　新聞記事を探してみよう 第12講　著作権と研究倫理 第13講　現状と課題を整理してみよう 第14講　課題の絞り込み 第15講　研究計画を考える ※ 90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。 ※ 各人の興味の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。 ※ 夏休みには、有志のゼミ旅行も予定したいと思います。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2，200円＋税 大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規（2021年）、2，500円＋税						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 　また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
アクティブラーニング	第２講以降は毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124305
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	文学・文化を研究するゼミです。今期は今まで以上に学術的に、作品や作家、ジャンルと向き合います。『ちびまる子ちゃん』の原作やアニメ、さくらももこの他作品について、先行研究（論文）も読んだ上で、多角的なテーマ設定で分析したり論じたりすることを学びます。また、後学期の研究発表会に向けて、グループでの研究発表の準備も始めます。						
到達目標	・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。 ・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　参考文献①について考える 第３講　参考文献①に関連したテーマで発表する 第４講　参考文献②について考える 第５講　参考文献②に関連したテーマで発表する 第６講　参考文献③について考える 第７講　参考文献③に関連したテーマで発表する 第８講　参考文献④について考える 第９講　参考文献④に関連したテーマで発表する 第10講　参考文献⑤について考える 第11講　参考文献⑤に関連したテーマで発表する 第12講　女性作家の小説を論じる① 第13講　女性作家の小説を論じる② 第14講　女性作家の小説を論じる③ 第15講　研究テーマについてアイデア出しをする						
テキスト・教材（参考文献）	・友原嘉彦編『ちびまる子ちゃんの社会学』（古今書院、2021年11月） ・配布プリント その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。						
事前・事後学習	・次回までに読んでくるべきテクスト・資料を指示するので、それを読む（約1時間）。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも１週間前から入念な発表準備をする（毎日数時間×７日間）。						
成績評価方法	・毎回のコメントと受講態度　60% ・発表と質疑応答の内容　　40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。						
授業内の課題・提出方法	課題についてはゼミで指示します。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷をしてゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表などについて、教員や学生全員でコメントをし合い、議論を深めます。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「専門演習ａ」では、作者や時代・社会状況など、作品の背景となる情報の調査や、先行研究についての調査など、より専門的な手法で１つの作品の分析を深め、新たな視点、切り口で考察する、より実践的な研究手法を体験します。学問の醍醐味を味わいましょう。						

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124306
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	このゼミでは、3年後期から本格的に取り組む卒業研究のテーマを探すことを目的とします。そのため各自が興味を持った経済に関する新聞記事を読んで、その内容、疑問に思ったことを報告しあい、全員でディスカッションします。また、二村ゼミと合同で企業とのコラボで商品開発も行います。						
到達目標	①広い視点から問題意識を持つ力を身につけること。 ②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。 ③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 商品開発 第３講 新聞記事の報告 第４講 新聞記事の報告 第５講 商品開発 第６講 新聞記事の報告 第７講 新聞記事の報告 第８講 商品開発 第９講 新聞記事の報告 第10講 新聞記事の報告 第11講 新聞記事の報告 第12講 新聞記事の報告 第13講 新聞記事の報告 第14講 新聞記事の報告 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	適宜指示します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。ゼミ後は、指摘された内容をまとめておく（９０分以上）。						
成績評価方法	授業内での報告や発言内容70%、その他商品開発はゼミ活動への取り組み30%						
授業内の課題・提出方法	毎回授業内で発言、報告、レポート提出などを行ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内での質問な取り組み方の振り返りなどについては適宜説明します。						
アクティブラーニング	報告、ミニッツペーパー、ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	124307
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ことを考えていきます。「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ためには、観察力と論理的思考が必要になります。授業では、現代アート作品（写真）を使って、「疑問」を見つけるための観察力の養い方を実践します。一方、論理的思考は文章を作成するなかで養われます。観察の中で見つけた「疑問」を文章で表現し、更に、関連の調査を通して、解答可能な「問題提起」に仕立てていくことにしたいと思います。						
到達目標	到達目標は「0.5秒で質問が作れるようになる」です。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 アートの写真①−１ 第３講 アートの写真①−２ 第４講 アートの写真②−１ 第５講 アートの写真②−２ 第６講 「疑問」を表現する 第７講 合評会① 第８講 合評会② 第９講 「疑問」から「問題提起」へ 第10講 「問題提起」を表現する 第11講 解答を探してみよう① 第12講 解答を探してみよう② 第13講 合評会 第14講 「問題提起」から「結論」までの構成 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	自ら表現することを中心に考えていきます。						

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124308
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この専門演習では、現代社会における法の仕組みについての認識を深めることを、講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してありますが、複雑で多岐にわたる社会問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで研究報告をしてもらいます。また、この研究はこれで終わりではなく、できれば継続性をもって引き続き図書や新聞、さらにはインターネットなども利用しながら研究内容を充実させてもらいたいと思います。そのとっかかりになる演習になればと考えております。						
到達目標	これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、就職活動などでも困らないように最新の社会問題についても取り上げます。最終的な到達目標は、各自が入手した資料や新聞等の関係資料も照らし合わせたうえで、レジュメを基にした報告を行い、みんなで議論するところまでを考えています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　研究テーマ及び報告の順番の決定等 第３講　法と裁判 第４講　民事裁判 第５講　刑事裁判 第６講　裁判員制度① 第７講　裁判員制度② 第８講　憲法改正問題 第９講　国家機密と国民の知る権利 第10講　国内法と国際法 第11講　公害・環境対策と法 第12講　循環型社会の構築 第13講　循環型社会の動向 第14講　独占禁止法 第15講　まとめ、レポート提出（研究報告したテーマで）						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、資料を配付します。						
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　50% 発表内容　30% レポート　20%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	例えば、レジュメ報告での指導でも、可能な限り対話を重視した形にしています。						
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座やスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	124309
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。
到達目標	各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。 また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　現代哲学：ヘーゲルの影響 第３講　現代哲学：懐疑的解釈学 第４講　現代哲学：マルクス 第５講　現代哲学：ニーチェ 第６講　現代哲学：フロイト 第７講　現代哲学：２０世紀の哲学 第８講　発表と議論（１） 第９講　発表と議論（２） 第10講　発表と議論（３） 第11講　発表と議論（４） 第12講　発表と議論（５） 第13講　発表と議論（６） 第14講　発表と議論（７） 第15講　発表のフィードバックやコメント
テキスト・教材（参考文献）	『哲学用語図鑑』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5 『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。
実務経験のある教員	
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124310
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	企業の財務諸表などを使った経営分析とそのプレゼンテーション・ディスカッション、および文献の輪読を行うことで、会計についての理解を深めていくことをこの演習のねらいとします。経営分析や文献の輪読と並行して、卒業研究のテーマを探索・絞り込みを行います。経営分析の課題や輪読する文献については、学生の関心などを聞き取ったうえで決めます。
到達目標	（1）専門的な知識・技術を修得したうえで、会計的に思考する力を身につける。 （2）文献の輪読を通して、会計研究の基礎的なスキルを身につける。 （3）報告・発表やディスカッションなどを通して、効果的・生産的なコミュニケーションの力を身につける。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　経営分析のワーク（1） 第３講　経営分析のワーク（2） 第４講　経営分析の発表・ディスカッション（1） 第５講　文献の輪読（1） 第６講　文献の輪読（2） 第７講　文献の輪読（3） 第８講　卒業研究についての発表・ディスカッション 第９講　文献の輪読（4） 第10講　文献の輪読（5） 第11講　経営分析のワーク（3） 第12講　経営分析のワーク（4） 第13講　経営分析の発表ン・ディスカッション（2） 第14講　研究テーマの発表・ディスカッション 第15講　まとめ ・第8講では4年生とともに卒業研究についての発表・ディスカッションを行う予定です。 ・経営分析と文献の輪読の回数を変更することがあります。 ・学生1人ひとりが就職活動や就職後に「財務諸表を読むのには自信があります！」とハッキリ言えることを目指します。 ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、次回までに必要な情報の収集と分析、発表用レジュメやスライドの作成などを行う（合計90分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計90分以上）。
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。
アクティブラーニング	実在する企業の財務諸表をもとにした経営分析を行い、その発表をしてもらいます。発表内容についてディスカッションも行います。
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124311
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、社会学の視点から世の中の問題を考えます。はじめにゼミ全体のテーマを一つ用意してテーマに沿った本を読みます。その後いくつかのグループに分かれて個別テーマを立てて調査を進めます。履修者は調査の成果を発表するとともに、他者の発表に対してコメントして意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。						
到達目標	①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 全体テーマの討論 第３講 ディスカッションするには 第４講 資料の探し方 第５講 資料を探す 第６講 文献の読み方 第７講 文献を読む 第８講 中間まとめ 第９講 文献の報告① 第10講 文献の報告② 第11講 文献の報告③ 第12講 文献の報告④ 第13講 文献の報告⑤ 第14講 卒業研究に向けて 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（一日15分程度）。						
成績評価方法	報告回での報告50%、授業への参加度50%						
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容は教員を含めた全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。途中で何度か３・４限を連続して行う場合があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124312
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、研究の方法とその報告方法・まとめ方の習得を目標とします。 基本的にはグループワークを基本として、毎講義、グループごとでの進捗報告などをしてもらいます。 この活動を通して、卒業研究へ向けた専門知識の涵養と研究遂行能力を身に着けます。						
到達目標	①研究工程に関する知識を身に着ける ②研究活動の表現方法を身に着ける ③卒業研究に向けて専門知識を身に着ける						
授業計画	01.　ガイダンス 02.　研究テーマ探索（個人研究）① 03.　研究テーマ探索（個人研究）② 04.　先行研究レビュー（個人研究）① 05.　先行研究レビュー（個人研究）② 06.　研究テーマ探索（共同研究）① 07.　研究テーマ探索（共同研究）② 08.　先行研究レビュー（共同研究）① 09.　先行研究レビュー（共同研究）② 10.　先行研究レビュー（共同研究）③ 11.　先行研究まとめ（共同研究）① 12.　先行研究まとめ（共同研究）② 13.　研究新規性の認識（共同研究） 14.　研究計画の作成（共同研究） 15.　まとめ ※個人研究＝卒業研究、共同研究＝グループワーク 　後期12月に合同ゼミ合宿に参加予定あり						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。 演習中に必要に応じて随時紹介する。						
事前・事後学習	報告担当となった学生は各自で報告資料・レジュメの作成を各自で事前に行ってください（300分程度）。 また、報告者以外の学生も演習中、質疑に参加してもらいます。質問を行うためには日ごろから目にしたニュースや新聞記事に関心を持っておく必要があります。通学中などにSNSやニュースサイトなどで気になったトピックを都度、調べてみる習慣を身に着けてください（60分程度）。						
成績評価方法	報告資料（20%）と、ゼミ・グループワークへの貢献度：質疑への積極性・内容（80%）で総合評価します。 なお、原則として無断での遅刻・欠席は認めず、報告担当者が遅刻欠席した場合、単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	演習中の報告資料を課題として設定し、演習中に適宜講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	演習中に適宜講評を行います。						
アクティブラーニング	学生による報告と質疑応答を実施する						
実務経験のある教員	業務委託による自治体行政計画策定支援・ワークショップ等支援経験						
担当者から一言	ゼミは講義と違って、学生の皆さんが主体となって討論しながら、考える場です。わからないことがあったら何でも口に出して質問する習慣を身につけましょう。自分がわからないことは、大概、他の人もわかっていません。誰かが質問しなければ永遠に謎のままです。全員でわからないを出し合って、少しずつわかる領域を増やしていきましょう。 なお、ゼミ運営にあたりマイクロソフトTeamsによる資料情報共有を予定しています。						

授業科目名	専門演習ａ			科目コード	471103	授業コード	124313
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本演習では、2年次に取り組んだ研究を展開するために、追加の情報を収集し、論文の冒頭部分（はじめに）を作成し発表する。						
到達目標	文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　関心のあるスポーツの話題についてスピーチ 第3講　2年次作成のレポートの振り返り 第4講　2年次作成のレポートの振り返り 第5講　論文作成準備（追加情報収集） 第6講　論文作成準備（追加情報収集） 第7講　論文作成準備（追加情報収集） 第8講　論文作成準備（追加情報収集） 第9講　論文作成準備（追加情報収集） 第10講　論文作成（はじめに） 第11講　論文作成（はじめに） 第12講　論文作成（はじめに） 第13講　論文中間発表・質疑応答・討論 第14講　論文中間発表・質疑応答・討論 第15講　総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	論文の進捗状況（50%）、プレゼンテーション（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	124701
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本科目では、歴史が地域社会の中でどう息づいているのか、その影響の中で我々は地域の課題とどう向き合っていけばよいのかを歴史的に考察することを目標とする学生を対象とする。その目標に向け、歴史的事実を根拠を持って説明できるよう、実際に行なった現地調査、史料調査の分析を行なっていく。						
到達目標	・様々な視点から物事をとらえ、通説や常識を鵜呑みにするのではなく、根拠をしっかり押さえる。 ・根拠となる史資料を収集する、それを分析・検討する、そして発表し、さらにブラッシュアップしていくという一連の流れを繰り返し、研究を深化させていく。						
授業計画	第1回　ガイダンス、歴史研究とは 第2回　 史資料収集（1） 第3回　 史資料収集（2） 第4回　 史資料収集（3） 第5回　 史資料収集（4） 第6回　 分析・検討（1） 第7回　 分析・検討（2） 第8回　 分析・検討（3） 第9回　 分析・検討（4） 第10回　論文作成（1） 第11回　論文作成（2） 第12回　論文作成（3） 第13回　発表（1） 第14回　発表（2） 第15回　発表（3）						
テキスト・教材（参考文献）	授業で必要なプリントは電子あるいは紙で配布する。						
事前・事後学習	先行研究の調査は予習として必須（60-90分）。 事後学習については、毎回の授業で出てきた不明点を残さないようする。また、授業に関する事柄を自ら調べる (60分）。						
成績評価方法	評価方法は以下の通り。 ・予習等の取り組み： 50% ・授業中の発言・受講態度等： 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で必ず発言してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	都度、フィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	体験学習、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・ 関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、了解しておくこと。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	124702
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	3年次後期にあたる専門演習bでは、卒業研究の準備を進めることを目的とします。前期に習得したリサーチ技法を用いて、本格的に研究テーマに関する文献リストを作成いただきます。さらに文献リストに優先順位をつけて、主要文献を精読いただきます。精読した成果をレジメとしてまとめて発表することを繰り返していただきます。 最終的にはレジメをとりまとめたサーベイ論文を作成いただく予定です。 また研究テーマに基づいて企業や地域を訪れる学外演習も行いたいと思います。						
到達目標	到達目標は以下の３点です。 １． 自分の関心事についての文献リストの作成 ２． 文献の精読・レジメによる発表 ３． サーベイ論文の作成						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 文献リストの作成（１） 第３講 文献リストの作成（２） 第４講 文献リストの作成（３） 第５講 文献の精読・レジメの作成（１） 第３講 文献の精読・レジメの作成（２） 第４講 文献の精読・レジメの作成（３） 第６講 学外演習（１） 第７講 学外演習（２） 第８講 学外演習（３） 第９講 精読結果の発表（１） 第10講 精読結果の発表（２） 第11講精読結果の発表（３） 第12講 サーベイ論文の作成（１） 第13講 サーベイ論文の作成（２） 第14講 サーベイ論文の作成（３） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用せず、講義中に資料配布します。						
事前・事後学習	事前学習：日頃から新聞、インターネットなどのニュースに触れておくこと（90分） 事後学習：指摘された内容にまとめておく（90分）						
成績評価方法	受講態度50% 成果の提出50%						
授業内の課題・提出方法	毎回、ディスカッションの内容をメモとして提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたメモに基づき次回の内容を確認します。						
アクティブラーニング	報告・レジメの作成・ディスカッションが求められます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生同士のディスカッションを重視します。いろいろ考えを巡らせて、ゼミ全体としてよい研究ができるようにしましょう。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124703
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	本演習では，経営学の用語を使って具体的な現象を説明する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける.
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う. ・論拠に基づいた説得力のある論文を作成できるようになる. ・発表や議論の技術を身につける.
授業計画	1　ガイダンス 2　前期のフィードバック（１） 3　前期のフィードバック（２） 4　先行研究の検討（１） 5　先行研究の検討（２） 6　事例研究の検討（１） 7　事例研究の検討（２） 8　中間発表（１） 9　中間発表（２） 10　考察の検討（１） 11　考察の検討（２） 12　結論の検討（１） 13　結論の検討（２） 14　現段階の卒論の発表（１） 15　現段階の卒論の発表（２）
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する.
事前・事後学習	発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）. 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける. 発表者以外も，自分の発表回に向けて自分の選んだ産業や企業に関する情報を収集する（1時間程度）. 各回の内容を復習し，自分の卒論作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）.
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に発表しなかった場合は原則，その日は欠席扱いとなる. (前回の発表内容を少しでも良いので進めた上で，何らかの発表を行うようお願いします) 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点で原則，その日は欠席扱いとなる.
授業内の課題・提出方法	レジュメを用意するように指示された課題については， ゼミの人数分（＋教員提出用１部）のレジュメを印刷して持参すること. ※moodle上にも課題のファイルを提出するよう指示する場合がある. レジュメの印刷が間に合わない場合は，moodle提出だけでも行うこと
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生の課題は，前のスクリーンで紹介する場合がある. 課題や議論に関しては，授業内で適宜コメントする.
アクティブラーニング	卒論の土台（例．卒論の事例と考察の章）を作成した上で，それに基づいた発表を行ってもらう回がある.
実務経験のある教員	
担当者から一言	毎回の授業でノートをとること. ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く. 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること. ほぼ毎回の授業で私語やスマホの注意を受けた人には 原則，単位を認めません.

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124704
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。
到達目標	この演習では、数人のグループで協働して発見し探究した身近な地域の問題・課題とその解決策を、分かりやすく整理して人に伝える力を身につけることを、到達目標としています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　分かっていることと分かっていないこと 第３講　フィールドワークの準備 第４講　ヒアリング調査 第５講　調査結果の整理 第６講　論点整理 第７講　補充調査 第８講　ジョイントセミナーレジュメ完成 第９講　ジョイントセミナー動画資料作成 第10講　ジョイントセミナー直前リハーサル 第11講　ジョイントセミナー反省会 第12講　卒論最終報告 第13講　卒論発表会 第14講　学部カンファレンス準備 第15講　学部カンファレンス ※ 90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。 ※ 各チームの進捗状況などに応じて、内容が変更になる場合があります。 ※ 秋には大学祭での模擬店の出店を、12月頭には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、参考文献を紹介します）
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。
アクティブラーニング	基本的に毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。
実務経験のある教員	
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124705
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	文学・文化学のゼミです。研究発表会に向けて、研究テーマ（文学作品や文化現象など）を自分たちで設定し、調べる項目も自分たちで考え、様々な視点、手法でそのテーマについて取り組み、それを研究発表という形にすることを試みます。文学作品やサブカルチャーなどの文化現象には、興味深い研究の種が潜んでいます。それを自分たちで見つけて、調理することで、アイデアを生む力、調査能力、分析力、考察能力、論旨をまとめる力、プレゼン能力等、総合的な力を身につけることができるでしょう。
到達目標	・研究発表のテーマを設定する。 ・地道なテクスト・文献読み、調査を行う ・論を立て、展開し、まとめる能力を養う。 ・みんなでディスカッションする能力を養う。 ・研究を発表という形に仕上げる。
授業計画	第１講　ガイダンス、研究テーマの確認 第２講　調査内容を発表・議論① 第３講　調査内容を発表・議論② 第４講　調査内容を発表・議論③ 第５講　研究発表の流れを整理する 第６講　発表準備① 第７講　発表準備② 第８講　発表準備③ 第９講　ゼミ内中間発表会 第10講　さらに発表内容を練る① 第11講　さらに発表内容を練る② 第12講　発表練習① 第13講　4年生の卒業研究発表会に参加 第14講　発表練習② 第15講　研究発表会 研究発表準備の進捗状況次第では、進め方をアレンジする可能性があります。
テキスト・教材（参考文献）	設定したテーマにもよりますが、演習で扱う作品のテクストは、短い作品はプリントにして配布します。長い作品は購入するか図書館等で借りてください。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。
事前・事後学習	各自、毎回、調査をコツコツと進め、その報告や発表の準備をする（数時間）。
成績評価方法	・毎回のコメントと受講態度　60% ・発表と質疑応答の内容　　40%
授業内の課題・提出方法	毎回、全員で話し合って、次までにやるべきことを決めます。 プリントにまとめたりする場合は、人数分印刷して、ゼミに持ってくること。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各自が準備した内容などについて、教員や学生全員でコメントし合い、議論を深めます。
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
実務経験のある教員	
担当者から一言	「専門演習ｂ」では、「わかもの学会学部予選」での研究発表を想定して、グループで研究テーマ（作品、文化現象等）を設定し、色々な角度で調査したり分析して、何らかの論を立て、口頭発表・発表資料の準備を行います。文学研究は基本的には個人プレーなのですが、たまにはチームプレーも楽しんでみましょう。

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124706
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	前期で決定した研究テーマに沿って、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。また、１０月中旬に四日市港（旧港）で行われるBAURAミーティングでの企画立案、当日の運営にも携わります。						
到達目標	①広い視点から問題意識を持つ力を身につけること。 ②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。 ③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 研究テーマの設定 文献収集の方法 第３講 収集した文献の確認 第４講 文献報告 第５講 文献報告 第６講 BAURAミーティング準備 第７講 BAURAミーティング準備 第８講 BAURAミーティング準備 第９講 BAURAミーティング参加 第10講 文献報告 第11講 文献報告 第12講 文献報告 第13講 文献報告 第14講 文献報告 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	適宜指示します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。ゼミの後は指摘された点をまとめて整理しておく（９０分以上）。						
成績評価方法	文献収集の取り組み状況２０%、研究報告内容50%、ディスカッションへの取組み３０%						
授業内の課題・提出方法	毎回何が議論されたかについて簡単なレポートを書いてもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎回のレポートを授業の最後に提出してもらい、次の週にフィードバックします。						
アクティブラーニング	報告、ミニッツペーパー、ディスカッション、						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	124707
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、卒業研究に向けた調査を中心とした作業と議論を進めていきます。作業は参加者各人で進めてもらいますが、議論を通じて、資料の妥当性を中心に資料批判をしていくことにしたいと思います。						
到達目標	必要な資料の探索と見つけた資料の資料批判ができるようになる。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 研究テーマの確認 第３講 必要な資料の報告と検討１ 第４講 必要な資料の報告と検討２ 第５講 必要な資料の報告と検討３ 第６講 見つけた資料の報告と検討１ 第７講 見つけた資料の報告と検討２ 第８講 見つけた資料の報告と検討３ 第９講 再構想１ 第10講 再構想２ 第11講 必要な資料の報告と検討１ 第12講 必要な資料の報告と検討２ 第13講 一文作文の再構成１ 第14講 一文作文の再構成２ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	各自のテーマに沿った調査を進めるなかで、そこで出会った「情報」の意味を問い続けてください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124708
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この専門演習では、環境法の仕組みを理解することを講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してある通りですが、複雑で多岐にわたる環境問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで、研究報告をしてもらいます。これまでの演習でも指摘しておきましたが、ここで報告した研究はこれで終わりではなく、できるだけ継続性をもって認識を深めていってもらいたいと考えています。						
到達目標	到達目標としては、ここまでで取得した知識を土台として、卒業までの研究を視野に入れたものにしたいと考えています。前学期の演習では社会環境問題を素材としましたが、ここでは主に自然環境問題を素材とします。学問の構築だけでなく、就職活動でも困らないように最新の問題も議論し認識を深めます。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　研究テーマ及び報告の順番の決定 第３講　公害と法 第４講　環境法の捉え方 第５講　環境法の伝統的な法体系 第６講　公害・環境規制法① 第７講　公害・環境規制法② 第８講　環境対策と法規制の概要① 第９講　環境対策と法規制の概要② 第10講　エネルギー問題① 第11講　エネルギー問題② 第12講　廃棄物・リサイクル 第13講　レポート提出 第14講　学部の卒業研究発表会 第15講　学部カンファレンス						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、資料を配付します。						
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。また、本学の情報センターも積極的に利用しましょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　50% 発表内容　30% レポート　20%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	例えば、レジュメ報告での指導でも、可能な限り対話を重視した形にしています。						
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	124709
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。 また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。						
授業計画	第１講　ガイダンスと前期の復習 第２講　現代哲学：ハイデガー 第３講　現代哲学：現象学 第４講　現代哲学：全体主義 第５講　現代哲学：構造主義 第６講　現代哲学：ポスト構造主義 第７講　現代哲学：哲学と社会 第８講　発表と議論（１） 第９講　発表と議論（２） 第10講　発表と議論（３） 第11講　発表と議論（４） 第12講　発表と議論（５） 第13講　発表と議論（６） 第14講　発表と議論（７） 第15講　発表のフィードバックやコメント						
テキスト・教材（参考文献）	『哲学用語図鑑』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5 『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124710
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	会計に関する文献の輪読を行うことで、会計についての理解を深めていくことをこの演習のねらいとします。専門演習aで設定した卒業研究テーマに関連する文献調査を進めましょう。あわせて卒業研究を進めるための研究デザインを考えましょう。輪読する文献については、学生の関心などを聞き取ったうえで決めます。
到達目標	（1）専門的な知識・技術を修得したうえで、会計的に思考する力を身につける。 （2）文献の輪読を通して、会計研究の基礎的なスキルを身につける。 （3）報告・発表やディスカッションなどを通して、効果的・生産的なコミュニケーションの力を身につける。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　文献の輪読（1） 第３講　文献の輪読（2） 第４講　研究デザインの検討（1） 第５講　文献の輪読（3） 第６講　文献の輪読（4） 第７講　研究デザインの発表・ディスカッション（1） 第８講　文献の輪読（5） 第９講　文献の輪読（6） 第10講　研究デザインの検討（2） 第11講　文献の輪読（7） 第12講　研究デザインの発表・ディスカッション（2） 第13講　卒業研究の発表（1） 第14講　卒業研究の発表（2） 第15講　まとめ ・第13講・第14講では4年生による卒業研究発表に参加します。 ・学生1人ひとりが就職活動や就職後に「財務諸表を読むのには自信があります！」とハッキリ言えることを目指します。 ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、次回までに必要な情報の収集と分析、文献報告のためのレジュメやスライドの作成などを行う（合計60分以上）。 （2）卒業研究を見据えて、研究テーマに関連する文献調査と絞り込み、研究デザインなどを行う（合計60分以上）。 （3）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計60分以上）。
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。
アクティブラーニング	輪読する文献および各自の研究デザインについて報告・発表をしてもらいます。その内容についてディスカッションも行います。
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124711
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	この演習では、4年次の卒業研究に向けて研究計画書を作成します。履修者は自分でテーマを決めて資料やデータを集め、分析結果を発表します。また他者の発表を聞いてコメントし、意見交換を行ないます。建設的に議論しながら成果物をまとめる養うことがこの授業のねらいです。						
到達目標	①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける						
授業計画	1. ガイダンス 2. 卒業研究について知る 3. 卒業研究のテーマを考える 4. 先輩の卒業研究を聞いてみよう（中間報告1） 5. 先輩の卒業研究を聞いてみよう（中間報告2） 6. 卒業研究に必要な文献の調べ方を知る 7. 文献のまとめ方を知る 8. 資料やデータの集め方を知る 9. 卒業研究の調査方法を考える 10. 調査計画の立て方を考える 11. 調査企画を立てる 12. 先輩の卒業研究を聞いてみよう（最終報告1） 13. 先輩の卒業研究を聞いてみよう（最終報告2） 14. 卒業研究の計画書を作る 15. 学部カンファレンス						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しない。						
事前・事後学習	・ほかの人の報告に関連する資料を予め読んでおく（一日15分） ・自分の報告資料を作成する（担当回のみ）						
成績評価方法	平常点50%、卒業研究50% 平常点は自分の報告会の報告のほか、ゼミへの参加度も含めて評価します。						
授業内の課題・提出方法	報告回ではレジュメを人数分用意してくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に対して全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション						
実務経験のある教員	なし						
担当者から一言	3年生と4年生のゼミを合同で開催する回が何度かあります。 その場合は3・4限連続になるので予定に注意してください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124712
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	この演習では、研究の方法とその報告方法・まとめ方の習得を目標とします。 基本的にはグループワークを基本として、毎講義、グループごとでの進捗報告などをしてもらいます。 この活動を通して、卒業研究へ向けた専門知識の涵養と研究遂行能力を身に着けます。
到達目標	①研究工程に関する知識を身に着ける ②研究活動の表現方法を身に着ける ③卒業研究に向けて専門知識を身に着ける
授業計画	01.　ガイダンス 02.　前期の振り返り 03.　調査研究① 04.　調査研究② 05.　調査研究③ 06.　執筆と合同レビュー 07.　執筆と合同レビュー 08.　報告資料まとめ 09.　報告資料まとめ 10.　報告資料まとめ 11.　研究結果報告会 12.　報告会フィードバック 13.　個人研究テーマの設定 14.　個人研究の研究計画 15.　まとめ ※12月に合同ゼミ合宿に参加予定あり
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。 演習中に必要に応じて随時紹介する。
事前・事後学習	報告担当となった学生は各自で報告資料・レジュメの作成を各自で事前に行ってください（300分程度）。 また、報告者以外の学生も演習中、質疑に参加してもらいます。質問を行うためには日ごろから目にしたニュースや新聞記事に関心を持っておく必要があります。通学中などにSNSやニュースサイトなどで気になったトピックを都度、調べてみる習慣を身に着けてください（60分程度）。
成績評価方法	報告資料（20%）と、ゼミ・グループワークへの貢献度：質疑への積極性・内容（80%）で総合評価します。 なお、原則として無断での遅刻・欠席は認めず、報告担当者が遅刻欠席した場合、単位を与えません。
授業内の課題・提出方法	演習中の報告資料を課題として設定し、演習中に適宜講評を行います。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	演習中に適宜講評を行います。
アクティブラーニング	学生による報告と質疑応答を実施する
実務経験のある教員	業務委託による自治体行政計画策定支援・ワークショップ等支援経験
担当者から一言	ゼミは講義と違って、学生の皆さんが主体となって討論しながら、考える場です。わからないことがあったら何でも口に出して質問する習慣を身につけましょう。自分がわからないことは、大概、他の人もわかっていません。誰かが質問しなければ永遠に謎のままです。全員でわからないを出し合って、少しずつわかる領域を増やしていきましょう。 なお、ゼミ運営にあたりマイクロソフトTeamsによる資料情報共有を予定しています。

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	471104	授業コード	124713
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本演習では、卒業研究のテーマ選定を意識しつつ、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。						
到達目標	文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　論文作成準備（追加情報収集） 第3講　論文作成準備（追加情報収集） 第4講　論文作成準備（追加情報収集） 第5講　論文作成（方法） 第6講　論文作成（方法） 第7講　論文作成（方法） 第8講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第9講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第10講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第11講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第12講　「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第13講　論文中間発表・質疑応答・討論 第14講　論文中間発表・質疑応答・討論 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	論文の進捗状況（５０%）、プレゼンテーション（５０%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124401
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.						
授業のねらい	本演習では経営学の視点から，選択した産業や企業の具体的な現象を論理的に説明する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける.						
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う. ・論拠に基づいた説得力のある論文を作成できるようになる. ・発表や議論の技術を身につける.						
授業計画	1　ガイダンス 2　専門演習bのフィードバック（１） 3　専門演習bのフィードバック（２） 4　問題意識の検討と確定（１） 5　問題意識の検討と確定（２） 6　先行研究と事例研究の検討（１） 7　先行研究と事例研究の検討（２） 8　中間発表（１） 9　中間発表（２） 10　考察の検討（１） 11　考察の検討（２） 12　考察の検討（３） 13　結論の検討 14　現段階の卒論の発表（１） 15　現段階の卒論の発表（２）						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する.						
事前・事後学習	発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）. 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける. 発表者以外も，自分の発表回に向けて自分の選んだ産業や企業に関する情報を収集する（1時間程度）. 各回の内容を復習し，自分の卒論作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）.						
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に発表しなかった場合は原則，その日は欠席扱いとなる. (前回の発表内容を少しでも良いので進めた上で，何らかの発表を行うようお願いします) 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点で原則，その日は欠席扱いとなる.						
授業内の課題・提出方法	レジュメを用意するように指示された課題については， ゼミの人数分（＋教員提出用１部）のレジュメを印刷して持参すること. ※moodle上にも課題のファイルを提出するよう指示する場合がある. レジュメの印刷が間に合わない場合は，moodle提出だけでも行うこと						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生の課題は，前のスクリーンで紹介する場合がある. 課題や議論に関しては，授業内で適宜コメントする.						
アクティブラーニング	現段階の卒論の発表を行ってもらう回がある.						
実務経験のある教員							
担当者から一言	毎回の授業でノートをとること. ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く. 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること.						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124402
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	卒業研究にむけての研究指導。教員や他のメンバーと意見交換しながら卒業研究テーマを確定する。						
到達目標	卒業研究のテーマを確定し、論文作成や発表に向けた準備をする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 研究テーマに関する意見交換1 グループディスカッション 第3講 研究テーマに関する意見交換2 グループディスカッション 第4講 研究テーマに関する意見交換3 グループディスカッション 第5講 研究テーマに関する意見交換4 グループディスカッション 第6講 卒業研究の概要作成1 第7講 卒業研究の概要作成2 第8講 卒業研究の概要作成3 第9講 卒業研究の概要作成4 第10講 卒業研究のスケジュール作成1 第11講 卒業研究のスケジュール作成2 第12講 研究の進捗状況報告1 第13講 研究の進捗状況報告2 第14講 研究の進捗状況報告3 第15講 夏期休暇中の研究打ち合わせ						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	卒業論文用の資料準備(90分) 発表用のレジュメやスライドの準備(90分)						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・卒業研究の進捗・準備状況:50% ・レポート・発表:50%						
授業内の課題・提出方法	卒論の草稿を作成し、moodleで提出してもらいます						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された草稿は、編集しメール、moodle等にてフィードバックします						
アクティブラーニング	口頭発表、質疑応答など、卒論発表会にむけた練習						
実務経験のある教員							
担当者から一言							

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124403
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。
到達目標	この演習では、あらためて地域のしくみを学ぶとともに、自分自身で身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることを、到達目標としています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　改めて地域の課題を考える 第３講　チームビルディングと協働 第４講　地方自治体に見る自治と協働 第５講　住民自治と団体自治 第６講　二元代表制と議会・首長の役割 第７講　計画・条例・予算 第８講　テーマとフィールド 第９講　現状の定量的把握 第10講　先行研究を探してみよう 第11講　新聞記事を探してみよう 第12講　著作権と研究倫理 第13講　現状と課題を整理してみよう 第14講　課題の絞り込み 第15講　研究計画を考える ※90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。 ※ 各人の興味などによっては、内容が変更になる場合があります。 ※ 夏休みには、有志のゼミ旅行も予定したいと思います。
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2，200円＋税 大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規（2021年）、2，500円＋税
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません（就職活動を言い訳にしないこと！）。 成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。
アクティブラーニング	第２講以降は毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。
実務経験のある教員	
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124404
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	文学・文化学のゼミです。今期は各自、卒業論文の執筆に向けて、取り扱う作品や作家、文化現象を決め、テーマを設定し、論じていくための準備をしていきます。まずは各々が扱う作品もしくはその作家の別作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の論の手がかりを得てもらいたいと思います。皆さんの研究テーマに応じた、多種多様な作品を皆で読んで考えていきましょう。						
到達目標	・卒業論文のテーマを自分で設定する。 ・地道なテクスト・文献読み、調査を行う ・論を立て、展開し、まとめる能力を養う。 ・みんなでディスカッションする能力を養う。						
授業計画	第１講　ガイダンス、卒論について 第２講　卒論テーマプレゼン 第３講　参考文献リスト作成 第４講　卒論関連作品を読む・議論① 第５講　卒論関連作品を読む・議論② 第６講　卒論関連作品を読む・議論③ 第７講　卒論関連作品を読む・議論④ 第８講　卒論関連作品を読む・議論⑤ 第９講　小説を読む 第10講　卒論関連作品を読む・議論⑥ 第11講　卒論関連作品を読む・議論⑦ 第12講　卒論関連作品を読む・議論⑧ 第13講　卒論関連作品を読む・議論⑨ 第14講　卒論関連作品を読む・議論⑩ 第15講　今後について						
テキスト・教材（参考文献）	テクスト等については、適宜プリントを配布するか、購入してもらいます。 各自、自分の卒業論文のためのテクスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。						
事前・事後学習	・次回扱う作品や文献について読んでくること（１時間程度） ・それと並行して、自分の卒業論文のための準備を進めていくこと（数時間）						
成績評価方法	・毎回のコメントと受講態度　70% ・発表と質疑応答の内容　　30%						
授業内の課題・提出方法	毎回、ゼミで指示します。 必要に応じて、資料を準備し、人数分印刷してゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各自が準備してきたもの、発表内容などについて、教員や学生全員でコメントし合い、卒業研究の道筋を作っていきます。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ゼミを通じて、じっくりと自分の卒業論文のための準備をしていくとともに、並行して、他のメンバーの卒業研究の様子を知ることで、研究手法の参考にもしつつ、研究のテーマやスタイル等の多様性も楽しみましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124405
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	３年間の大学生活の中で培ってきた知識をもとに各自で研究テーマを設定した上で、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	自分で収集した文献をまとめて報告します。 最終的には専門演習 d において研究の成果を報告できるように積みかさねていきます。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 研究テーマの確認 第３講 文献報告① 第４講 文献報告② 第５講 文献報告③ 第６講 文献報告④ 第７講 文献報告⑤ 第８講 文献報告⑥ 第９講 文献報告⑦ 第10講 文献報告⑧ 第11講 論文の目次報告① 第12講 論文の目次報告② 第13講 論文の目次報告③ 第14講 論文の目次報告④ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	適宜指示をします。						
事前・事後学習	報告の準備（９０分以上）とディスカッション後の整理（９０分以上）						
成績評価方法	文献収集の取り組み状況２０%、研究報告内容50%、ディスカッションへの取組み３０%						
授業内の課題・提出方法	卒業研究作成に関する進捗状況をまとめて、毎回報告してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒進捗状況や質問に対して、適宜コメントします。						
アクティブラーニング	報告、ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124406
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、プレゼンテーションの準備を中心に考えていきます。２年生の演習で進めた各自の研究テーマに関する調査をもとに、口頭によるプレゼンテーション資料を作成します。音声、文字、図像の違いを意識しながら、効果的なレジュメ、スライドの作り方や発表の構成を実践することにしたいと思います。						
到達目標	自分のアイディアを効果的に相手に伝えることができる。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 研究テーマの確認 第３講 グループ分けの検討 第４講 口頭発表のメディア（音声、文字、図像） 第５講 メディアと内容の対応 第６講 口頭発表の準備１ 第７講 口頭発表の準備２ 第８講 口頭発表１ 第９講 口頭発表２ 第10講 口頭発表３ 第11講 口頭発表４ 第12講 TEDを参考に 第13講 再構想１ 第14講 再構想２ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	コミュニケーションの方を考えてみましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124407
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
授業のねらい	この専門演習では、環境法を中心に扱います。とくに都道府県が制定する上乗せ条例等に関わる法的問題点や、国際標準化機構が発行するISO14001規格に関わる専門的な内容、さらには循環型社会構築のための知識を担当教員が実際に経験した実践的なノウハウも取り入れながら、現代の環境マネジメントシステムにもマッチできるように、できるだけ新しい素材を使いながら教授します。
到達目標	これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築だけでなく、就職活動などでも困らないように最新の社会問題を議論することにも重点を置きたいと思います。最終的な到達目標は、全員が卒業研究に向けた進捗状況の報告を行い、経過報告としてレポートにまとめるところまでを考えています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　条例による規制とその問題点① 第３講　条例による規制とその問題点② 第４講　ISO14001と環境法① 第５講　ISO14001と環境法② 第６講　循環型社会構築のために① 第７講　循環型社会構築のために② 第８講　卒業研究の進捗状況の報告① 第９講　卒業研究の進捗状況の報告② 第10講　卒業研究の進捗状況の報告③ 第11講　卒業研究の進捗状況の報告④ 第12講　卒業研究の進捗状況の報告⑤ 第13講　卒業研究の進捗状況の報告⑥ 第14講　卒業研究の進捗状況の報告⑦ 第15講　まとめ、レポート提出
テキスト・教材（参考文献）	ガイダンスで指示します。
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　50% 発表内容　30% レポート　20%
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
アクティブラーニング	例えば、レジュメ報告での指導でも、可能な限り対話を重視した形にしています。
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124408
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。 また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　中国哲学 第３講　インド哲学 第４講　京都学派 第５講　日本哲学：西田幾多郎 第６講　日本哲学：田辺元 第７講　日本哲学：西谷啓治 第８講　発表と議論（１） 第９講　発表と議論（２） 第10講　発表と議論（３） 第11講　発表と議論（４） 第12講　発表と議論（５） 第13講　発表と議論（６） 第14講　発表と議論（７） 第15講　発表のフィードバックやコメント						
テキスト・教材（参考文献）	『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124409
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	卒業研究に関する発表・ディスカッション、および文献の輪読を行うことで、卒業研究をブラッシュアップすることをこの演習のねらいとします。専門演習aで設定した卒業研究テーマ、および専門演習bで作った研究デザインをもとに卒業研究を本格的にスタートします。輪読する文献については、学生の卒業研究の進捗や関心などを聞き取ったうえで決めます。						
到達目標	（1）卒業研究を進める。 （2）専門的な知識・技術を修得したうえで、会計的に思考する力を身につける。 （3）文献の輪読を通して、会計研究の発展的なスキルを身につける。 （4）報告・発表やディスカッションなどを通して、効果的・生産的なコミュニケーションの力を身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（1） 第３講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（2） 第４講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（3） 第５講　文献の輪読（1） 第６講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（4） 第７講　文献の輪読（2） 第８講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（5） 第９講　文献の輪読（3） 第10講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（6） 第11講　文献の輪読（4） 第12講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（7） 第13講　文献の輪読（5） 第14講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（8） 第15講　まとめ ・第8講では3年生も交えて卒業研究についての発表・ディスカッションを行う予定です。 ・学生1人ひとりが就職活動や就職後に「財務諸表を読むのには自信があります！」とハッキリ言えることを目指します。 ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。						
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、卒業研究をブラッシュアップする（合計150分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計30分以上）。						
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%						
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。						
アクティブラーニング	輪読する文献および各自の卒業研究進捗について報告・発表をしてもらいます。その内容についてディスカッションも行います。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124410
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	卒業研究の準備を行ないます。自ら文献を調べ、データを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換します。この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。						
到達目標	①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける ⑤大学生としての文章作成能力を身につける						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 各自のテーマ設定 第３講 資料の探し方 第４講 文献を探す 第５講 先行研究の整理 第６講 卒業研究報告① 第７講 卒業研究報告② 第８講 中間まとめ 第９講 データの整理 第10講 データを分析する 第11講 分析結果の検討 第12講 卒業研究報告③ 第13講 卒業研究報告④ 第14講 卒業研究報告⑤ 第15講 まとめ 各報告についてはゼミ全員でディスカッションします。						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ ケン・プラマー著、赤川学監訳（2021）『21世紀を生きるための社会学の教科書』筑摩書房.						
事前・事後学習	報告内容に関する資料に目を通しておくこと（1日20分）						
成績評価方法	報告回での報告50%、授業への参加度50%として評価します。 報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。						
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告は教員を含めた全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。途中で何度か３・４限を連続して行う場合があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124411
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、卒業研究のテーマを確定し、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。これまでの研究概要について、教員や他のメンバーと意見を交換して、卒業研究のテーマを熟考していく。						
到達目標	卒業研究のテーマを決定し、文献検索、卒業論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　研究について簡単なスピーチ 第3講　研究について簡単なスピーチ 第4講　これまでの研究概要発表・意見交換 第5講　これまでの研究概要発表・意見交換 第6講　これまでの研究概要発表・意見交換 第7講　これまでの研究概要発表・意見交換 第8講　これまでの研究概要発表・意見交換 第9講　これまでの研究概要発表・意見交換 第10講　卒業研究テーマ決定・意見交換 第11講　卒業研究テーマ決定・意見交換 第12講　卒業研究テーマ決定・意見交換 第13講　卒業研究テーマ決定・意見交換 第14講　卒業研究テーマ決定・意見交換 第15講　総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	論文の進行状況（５０%）、プレゼンテーション（５０%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	124412
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	ゼミでは、就職指導もしながら、生きる力を身につけるさまざまな演習を行う。就職活動は、この専門演習cの時期と重なる。これをプラスに捉え、就職活動を通して社会を知り、自分について見つめなおし、内定を得た企業や日本社会のために自分がなすべきことを考える機会と考える。就職試験を通して企業の持つカルチャーを感じ、社会を自由自在に泳ぐ感性を身につけよう。社会のために役立つ仕事を見つけ、自己実現と生活の両立ができるよう、生きる力を強化しよう。							
到達目標	ゼミは社会人として必要な準備で始まり、就職先が決定したものは社会に出るための研究を進めることが到達目標となる。						
授業計画	1.　ガイダンス；就職活動の中間報告会 2.　エントリーシートに磨きをかける 3.　企業研究とディスカッション 4.　課題作成に向けた準備 5.　自分が進むキャリアの調査 6.　自分が進むキャリアの研究 7.　自分が進むキャリアに関する小論文を作成 8.　自分が進む業界の調査 9.　自分が進む業界の研究 10.　自分が進む業界に関する小論文の作成 11.　自分が就職する企業のライバルを調査 12.　自分が就職する企業のライバルを研究 13.　自分が就職する企業のライバルに関する小論文を作成 14.　研究発表会① 15.　研究発表会②						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	課題をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ準備学習・振り返り学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対して個別にコメントでフィードバックする。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	できるだけ早く内定をとり、社会に出るための準備をして、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124801
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける. 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける.
授業のねらい	本演習では経営学の視点から，選択した産業や企業の具体的な現象を論理的に説明する能力を養う. また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける.
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う. ・論拠に基づいた説得力のある論文を作成できるようになる. ・発表や議論の技術を身につける.
授業計画	1　ガイダンス 2　前期のフィードバック（１） 3　前期のフィードバック（２） 4　先行研究の検討（１） 5　先行研究の検討（２） 6　事例研究の検討（１） 7　事例研究の検討（２） 8　中間発表（１） 9　中間発表（２） 10　考察の検討（１） 11　考察の検討（２） 12　結論の検討（１） 13　結論の検討（２） 14　現段階の卒論の発表（１） 15　現段階の卒論の発表（２）
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する.
事前・事後学習	発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）. 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける. 発表者以外も，自分の発表回に向けて自分の選んだ産業や企業に関する情報を収集する（1時間程度）. 各回の内容を復習し，自分の卒論作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）.
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に発表しなかった場合は原則，その日は欠席扱いとなる. (前回の発表内容を少しでも良いので進めた上で，何らかの発表を行うようお願いします) 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点で原則，その日は欠席扱いとなる.
授業内の課題・提出方法	レジュメを用意するように指示された課題については， ゼミの人数分（＋教員提出用１部）のレジュメを印刷して持参すること. ※moodle上にも課題のファイルを提出するよう指示する場合がある. レジュメの印刷が間に合わない場合は，moodle提出だけでも行うこと
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生の課題は，前のスクリーンで紹介する場合がある. 課題や議論に関しては，授業内で適宜コメントする.
アクティブラーニング	現段階の卒論の発表を行ってもらう回がある.
実務経験のある教員	
担当者から一言	毎回の授業でノートをとること. ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く. 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること.

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124802
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究 テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、これまでの演習で身につけた知識や情報を利用し、卒業論文作成および卒業発表を展開する。						
到達目標	卒論の提出、卒論公聴会による口頭発表						
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 卒業研究進捗状況の報告1 第3講 卒業研究進捗状況の報告2 第4講 卒業研究進捗状況の報告3 第5講 卒業研究進捗状況の報告4 第6講 卒業研究進捗状況の報告5 第7講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換1 第8講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換2 第9講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換3 第10講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換4 第11講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換5 第12講 卒業研究発表練習 第13講 卒業研究発表練習 第14講 卒論公聴会 第15講 学部カンファレンス						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	卒業論文の作成(120分)						
成績評価方法	卒業論文 卒業論文発表会						
授業内の課題・提出方法	卒業論文は、指定日時に教学課に提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒業論文に関しては、適宜、授業・メール等で回答していきます						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	発表担当者は、責任を持って資料を準備する						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124803
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。
到達目標	この演習では、自ら発見し探究した身近な地域の問題・課題とその解決策を、分かりやすく整理して文章にまとめ人に伝える力を身につけることを、到達目標としています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　分かっていることと分かっていないこと 第３講　フィールドワークの準備 第４講　ヒアリング調査 第５講　調査結果の整理 第６講　論点整理 第７講　補充調査 第８講　ジョイントセミナーレジュメ完成 第９講　卒論中間発表 第10講　ジョイントセミナー直前リハーサル 第11講　ジョイントセミナー反省会 第12講　卒論最終報告 第13講　卒論発表会 第14講　学部カンファレンス準備 第15講　学部カンファレンス ※ 90分という授業時間の枠にとらわれることなく、３・４限目の連続で、３・４年生のゼミを合同で行っていきます。 ※ 各チームの進捗状況などに応じて、内容が変更になる場合があります。 ※ 秋には大学祭での模擬店の出店を、12月頭には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」（有志参加）を、それぞれ予定しています。
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、参考文献を紹介します）
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。
アクティブラーニング	基本的に毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。
実務経験のある教員	
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124804
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	文学・文化学のゼミです。今期はいよいよ、各自、卒業論文の完成に向けて具体的に研究を進めていきます。前期に引き続いて、めいめいが扱う作品もしくはその作家の関連作品について、ゼミのメンバー皆で読みあったり、中間発表の内容について議論することで、各自の卒業論文の参考にし、論文をまとめていきましょう。						
到達目標	・卒業論文のテーマにそって、論旨を組み立てていく。 ・そのための地道なテクスト・文献読み、調査を行う。 ・論を「卒業論文」という形にまとめる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、卒論について 第２講　卒論テーマの発表① 第３講　卒論テーマの発表② 第４講　卒論の目次を作ってみる① 第５講　卒論の目次を作ってみる② 第６講　卒論の「はじめに」を書いてみる① 第７講　卒論の「はじめに」を書いてみる② 第８講　歌会 第９講　卒業論文中間発表① 第10講　卒業論文中間発表② 第11講　卒業論文中間発表③ 第12講　座談会 第13講　卒業研究発表会 第14講　小説を読む 第15講　わかもの学会学部予選						
テキスト・教材（参考文献）	テクスト等については、適宜プリントを配布します。 各自、自分の卒業論文のためのテクスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。						
事前・事後学習	自分の卒業論文のための準備と執筆を進めていくこと。（毎週数十時間）						
成績評価方法	・毎回のコメントと受講態度　30% ・発表と質疑応答の内容　20% ・卒業論文　50%						
授業内の課題・提出方法	毎回、ゼミで指示します。 必要に応じて、資料を作成し、人数分印刷してゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各自が準備してきたことに対して、教員や学生全員がコメントし合い、議論を深めます。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	いよいよ卒業論文を執筆し、仕上げていきます。大学での学びの集大成です。情熱を傾けて、ひたむきに取り組んでいきましょう。そして、他のメンバーの研究にもアドバイスをし、切磋琢磨していきましょう。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124805
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	前期で行った、文献や情報の収集とその報告を何度か繰り返して卒業研究を完成させていきます。各自による報告だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	卒業研究の完成を目指します。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 卒業研究報告とディスカッション 第３講 卒業研究報告とディスカッション 第４講 卒業研究報告とディスカッション 第５講 卒業研究報告とディスカッション 第６講 卒業研究報告とディスカッション 第７講 卒業研究報告とディスカッション 第８講 卒業研究報告とディスカッション 第９講 卒業研究報告とディスカッション 第10講 卒業研究報告とディスカッション 第11講 卒業研究報告とディスカッション 第12講 卒業研究報告とディスカッション 第13講 卒業研究報告とディスカッション 第14講 卒業研究報告とディスカッション 第15講 ３、４年生合同報告会						
テキスト・教材（参考文献）	適宜指示します。						
事前・事後学習	報告の準備（９０分以上）とディスカッション後の整理（９０分以上）。						
成績評価方法	文献や情報収集などへの取り組み２０%、研究報告の内容50%、ディスカッションへの取組み３０%						
授業内の課題・提出方法	卒業研究作成に関する進捗状況をまとめて、毎回報告してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	進捗状況や質問に対して、適宜コメントします。						
アクティブラーニング	報告、ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	大学４年間の集大成です。思いっきり楽しんで研究報告を完成させてください。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124806
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、卒業論文の完成を目指します。これまでやってきた作業の繰り返しと、文章の作成を中心に進めていきます。						
到達目標	卒業論文の完成						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 一文作文の確認 第３講 一文作文から構成へ１ 第４講 一文作文から構成へ２ 第５講 草稿の報告と検討１ 第６講 草稿の報告と検討２ 第７講 草稿の報告と検討３ 第８講 草稿の報告と検討４ 第９講 作成論文の報告と検討１ 第10講 作成論文の報告と検討２ 第11講 作成論文の報告と検討３ 第12講 作成論文の報告と検討４ 第13講 発表会１ 第14講 発表会２ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	４年間のまとめを形に残すことを常に心がけてください。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124807
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	この専門演習では、全体としての指導というよりマンツーマンでの指導が多くなります。この演習はこれまでの集大成として精度の高い研究を目指しておりますので、ただ完成させるということでなく、社会人になってからでも自信をもって発信できるものにしていただきたいと考えております。そのため、第３講から第９講までは毎回、進捗状況をできるだけ細かく報告してもらい、素晴らしい研究発表となるように丁寧な指導をしたいと考えております。						
到達目標	到達目標としては、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築はもとより、継続中の就職活動などでも困らないように最新の社会問題も議論できればと考えています。この演習によって、自信をもって社会人になっていただくための必要不可欠な法律知識を身につけ、その特徴を生かし、あらゆる場面で頼りにされる人材になるための土台をつくることができればと考えています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　研究内容の確認及び指導 第３講　研究の進捗状況報告及び指導 第４講　研究の進捗状況報告及び指導 第５講　研究の進捗状況報告及び指導 第６講　研究の進捗状況報告及び指導 第７講　研究の進捗状況報告及び指導 第８講　研究の進捗状況報告及び指導 第９講　研究の進捗状況報告及び指導 第10講　研究発表会に向けた指導 第11講　卒業研究論文のレジュメ提出 第12講　卒業研究論文提出と内容確認 第13講　卒業研究発表会に向けて 第14講　学部の卒業研究発表会 第15講　学部カンファレンス						
テキスト・教材（参考文献）	適宜指示します。						
事前・事後学習	発表者には、発表の一週間前の授業時間中までに、テーマと内容を簡単に報告してもらう。 また、週6日は新聞やニュース等も含め1日に30分以上は学習すること。						
成績評価方法	成績は次のような評点配分です。 受講態度　50% 研究成果　50%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	例えば、レジュメ報告での指導でも、可能な限り対話を重視した形にしています。						
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。有意義な卒業研究になるように、精一杯がんばりましょう。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124808
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	各自のテーマについて卒業論文の作成と発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論を行います。						
到達目標	本演習の目的は卒業論文を作成し、発表することです。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　大陸哲学 第３講　英米哲学 第４講　分析哲学 第５講　プラグマティズム 第６講　科学哲学 第７講　倫理の問題 第８講　卒業研究（１） 第９講　卒業研究（２） 第10講　卒業研究（３） 第11講　卒業論文の作成（１） 第12講　卒業論文の作成（２） 第13講　卒業論文の作成（３） 第14講　卒業論文発表会（１） 第15講　卒業論文発表会（２）						
テキスト・教材（参考文献）	『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	卒業論文の準備をします（毎週約100分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 卒業研究論文の発表：20% 卒業研究論文：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。						
授業内の課題・提出方法	学生は卒業論文の作成と発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	面談や卒業論文の作成の指導を行います。						
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	卒業まではあと少しだけです！頑張りましょう！						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124809
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
授業のねらい	専門演習cに引き続いて卒業研究をさらに進めます。卒業研究に関する発表・ディスカッションを行うことで、卒業研究をブラッシュアップし、完成させることをこの演習のねらいとします。
到達目標	（1）卒業研究をブラッシュアップし、完成させる。 （2）報告・発表やディスカッションなどを通して、効果的・生産的なコミュニケーションの力を身につける。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（1） 第３講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（2） 第４講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（3） 第５講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（4） 第６講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（5） 第７講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（6） 第８講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（7） 第９講　卒業研究進捗についての発表・ディスカッション（8） 第10講　卒業研究の完成 第11講　卒業研究の発表準備（1） 第12講　卒業研究の発表準備（2） 第13講　卒業研究の発表（1） 第14講　卒業研究の発表（2） 第15講　まとめ ・第13講・第14講では3年生も交えて卒業研究の発表を行う予定です。 ・学生1人ひとりが就職活動や就職後に「財務諸表を読むのには自信があります！」とハッキリ言えることを目指します。 ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、卒業研究をブラッシュアップする（合計150分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計30分以上）。
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）卒業研究：50%
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。
アクティブラーニング	各自の卒業研究進捗について報告・発表をしてもらいます。その内容についてディスカッションも行います。
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124810
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
授業のねらい	この演習では卒業研究に向けて研究計画書を作成します。履修者は自分でテーマを決めて資料やデータを集め、分析結果を発表します。また他者の発表を聞いてコメントし、意見交換を行ないます。建設的な議論を通して成果をまとめる力を養うことがこの授業のねらいです。
到達目標	①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける
授業計画	1．ガイダンス 2．卒業研究について知る 3．卒業研究のテーマを考える 4．先輩の卒業研究を聞いてみよう（中間報告1） 5．先輩の卒業研究を聞いてみよう（中間報告2） 6．卒業研究に必要な文献の調べ方を知る 7．文献のまとめ方を知る 8．資料やデータの集め方を知る 9．卒業研究の調査方法を考える 10．調査計画の立て方を考える 11．調査企画を立てる 12．先輩の卒業研究を聞いてみよう（最終報告1） 13．先輩の卒業研究を聞いてみよう（最終報告2） 14．卒業研究の計画書を作る 15．学部カンファレンス
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しない。
事前・事後学習	・ほかの人の報告に関連する資料を予め読んでおく（一日15分） ・自分の報告資料を作成する（担当回のみ）
成績評価方法	平常点50%、卒業研究50% 平常点は自分の報告会の報告のほか、ゼミへの参加度も含めて評価します。 報告予定の回に無断で欠席した場合は単位を出しません。
授業内の課題・提出方法	報告回ではレジュメを人数分用意してくること。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に対して全員でディスカッションします。
アクティブラーニング	ディスカッション
実務経験のある教員	なし
担当者から一言	3・4限連続で行う回が何度かあるので予定に注意してください。

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124811
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、これまでに習得した知識や情報を活かして、計画的に卒業研究を展開していく。						
到達目標	卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第3講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第4講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第5講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第6講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第7講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第8講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第9講　卒業研究進捗状況報告・意見交換 第10講　卒業研究についてプレゼンテーション 第11講　卒業研究についてプレゼンテーション 第12講　卒業研究についてプレゼンテーション 第13講　卒業研究についてプレゼンテーション 第14講　卒業研究についてプレゼンテーション 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	研究内容（５０%）、プレゼンテーション（５０%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	毎回担当者を決めて、卒業研究について発表してもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	471106	授業コード	124812
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	大学生活の最後の半年を、卒業研究を完成させることに専念したい。卒業研究(5000字程度の論文)は、懸賞論文をベースにより深く探求し、研究結果をプレゼン(パワーポイントで作成して発表)で人に伝えることを目標とする。なお、この演習と別に卒業論文(2万字程度)を書き上げて2単位の取得を目指す場合は、履修登録を別途することを忘れないように。詳しくは履修要綱を参照のこと。						
到達目標	卒業研究を完成させ、全員がゼミの中での発表会で頂点をめざして切磋琢磨することを通じ、考えるカと伝えるパワーを修得する。						
授業計画	1.　ガイダンス 2.　卒業研究に向けた情報収集 3.　卒業研究執筆作業① 4.　卒業研究執筆作業② 5.　卒業研究執筆作業③ 6.　卒業研究中間発表 7.　卒業研究執筆作業④ 8.　卒業研究執筆作業⑤ 9.　卒業研究執筆作業⑥ 10.　卒論完成 11.　レジュメ完成 12.　研究発表会① 13.　研究発表会② 14.　学部カンファレンス① 15.　学部カンファレンス②						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	卒業研究をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や卒業研究の評価(5割)により総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。卒業研究も、Moodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒業研究の執筆に合わせ、助言を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。						

授業科目名	地方自治論			科目コード	471201	授業コード	123703
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PCD2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義では地方自治の制度と仕組み、役割などについて体系的に学びます。 少子高齢化や人口減少が問題となっている現代において、地方自治体の役割はより大きくなり、その地域に根付いたより創造的な政策の提案が求められています。 この講義を通して、皆さんが地方自治の担い手として地域にかかわっていく際の基礎知識を習得することを目指します。						
到達目標	・地方自治に関する制度やしくみを理解できる。						
授業計画	01.　ガイダンス/地方自治「民主主義の学校」 02.　地方自治の現状 03.　登場人物1：首長 04.　登場人物2：議会 05.　登場人物3：地方公務員 06.　住民による統制 07.　条例制定 08.　地方自治体の組織編制 09.　地方自治体の権能と大都市制度 10.　地方税財政と予算 11.　中央政府と地方政府 12.　まとめ 13.　各論：教育行政の地方自治 14.　各論：子育て行政の地方自治 15.　各論：高齢者福祉の地方自治 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・北村亘、青木栄一、平野淳一「地方自治論［新版］」有斐閣（2024）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。						

授業科目名	地域経済論			科目コード	471202	授業コード	122203
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PCD2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	地域経済とは、日本では行政的区分である都道府県や経済的区分である首都圏・近畿圏などのことで、厳密に言えば『1つの国内を対象として、国民経済内部を 地理的に分割した自立的な経済圏』のことを意味しています。このような地域の経済諸問題を対象とするのが地域経済学という学問分野です。この講義では地域経済学を概説します。						
到達目標	以下の３つを掲げています。 ①地域経済を理解する上で重要な基礎的概念を理解すること。 ②具体的な地域（中部圏）がどのような特徴をもった地域かということを理解すること ③地域経済政策の考え方を理解すること。						
授業計画	第1講　ガイダンス／地域の時代 第2講　地域とはなにか・都市とはなにか 第3講　経済学で地域をみる 第4講　地域経済の開放性 第5講　地域所得の決定 第6講　地域経済の成長 第７講　地域間格差 第8講　都市の成立と発展 第9講　中心地理論と都市システム 第10講　中部経済のポイント 第11講　名古屋の都市形成 第12講　三重県の経済をみる 第13講　地域経済政策（１） 第14講　地域経済政策（２） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に使用せず、Moodle上で資料配付します。 （参考文献） 山田浩之他『地域経済学入門第3版』（有斐閣コンパクト）						
事前・事後学習	（予習）資料をあらかじめ読んでおいてください。経済学の応用分野ですから、経済学を復習しておいてください。（９０分） （復習）講義中に理解度を確認する小テストを課します。（９０分）						
成績評価方法	授業への参加態度（含む講義中の小テスト）１５%、期末試験　８５%						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回、理解度の確認を兼ねて小テストを行います（Moodleに提出予定）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは、Moodle内で適宜フィードバックします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	経済学の言葉を使って地域を語れるよう、意欲のある学生の履修を期待します。						

授業科目名	政策過程論			科目コード	471203	授業コード	125803
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PCD2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	この授業では、法とまちづくりの関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。 　ゲストスピーカーとして、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、どのような法的な規範が作られ、それに基づいてまちづくりが行われているか、お話いただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています
到達目標	法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。
授業計画	第１講　ガイダンス～法的な規範とまちづくりについて～ 第２講　法令と条例 第３講　産業をめぐるまちの現状と課題 第４講　グループワーク～産業をめぐる課題解決のためのルール～ 第５講　四日市市の産業と法規制（清水） 第６講　観光をめぐるまちの現状と課題 第７講　グループワーク～観光をめぐる課題解決のためのルール～ 第８講　四日市市の観光・シティプロモーションと法（中村） 第９講　市民生活をめぐるまちの現状と課題 第10講　グループワーク～市民生活をめぐる課題解決のためのルール～ 第11講　四日市市の市民生活を改善するための法規（室田） 第12講　文化をめぐるまちの現状と課題 第13講　グループワーク～観光をめぐる課題解決のためのルール～ 第14講　文化行政と法（田端） 第15講　まとめ・振り返り 定期試験（レポート提出） ※ ゲストスピーカーの都合などにより、日程や内容が変更になる場合があります。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じて資料を配布する場合があります）
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと（60分）。
成績評価方法	授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。成績は以下の配分により評価します。 ・グループワークなどへの取組姿勢：40% ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況：36% ・定期試験（レポート）：24%
授業内の課題・提出方法	グループワークを行わない回は、授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題（小レポート）を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。
アクティブラーニング	グループワークとその成果のプレゼンテーションをしてもらいます。
実務経験のある教員	ゲストスピーカーの4人の方は、いずれも現役の市役所職員であり、市役所での実務に基づいた講義をしていただきます。
担当者から一言	知識・情報をしっかり収集し、グループワークに積極的に参加するようにしてください。

授業科目名	現代財政学			科目コード	471204	授業コード	125707
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PPT2001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	この講義では、財政の基本的な理論や考え方、経済政策や社会保障制度、税の基礎理論と税制の仕組みについて、ミクロ経済学・マクロ経済学の両面から学んでいきます。また、現在の日本が抱えている財政上の諸問題についても適宜解説していきます。また、みなさんの意見や疑問を聞き、活発なディスカッションも行いながら進めていきます。						
到達目標	財政の基本的な考え方や仕組みを理解し、日本や地方の財政政策について自分なりの意見を言える力を身につける。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 政府の役割 第３講 市場と政府 第４講 財政の仕組み 第５講 公共財 第６講 経済政策 第７講 社会保障制度 第８講 社会政策（労働、子育て支援、教育、社会） 第９講 税制の設計 第10講 直接税 第11講 間接税と税制改革 第12講 政府の借金 第13講 地方分権 第14講 公民連携 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	山重慎二『財政学』中央経済社ベーシックプラスシリーズ（2016年）2，400円（税別）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	行政学			科目コード	471206	授業コード	122406
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PPT2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	本講義では公共サービスの執行を担う行政について、その組織構造、歴史、機能などの基本的事項を体系的に学びます。 行政機関の提供する公共サービスは私たちの生活になくてはならないものですが、それらがどのように決められ、どのように運用されているのかは意外と知られていません。 一人の市民として公共サービスがいかにして執行されているのかを理解し、自らの住む国・自治体の姿をより鮮明に理解することができるようになることを目指します。						
到達目標	・行政学に関する基本的な用語・概念などを理解できる ・日常の政策や行政に関するニュースなどを理解できる						
授業計画	01.　ガイダンス／行政学とは 【行政学史】 02.　行政とは何か 03.　近代官僚制 04.　行政学の成立と展開 05.　NPMとガバナンス 【執政制度と行政制度】 06.　執政制度 07.　行政組織制度 08.　公務員制度 09.　国と自治体の制度改革 【公共政策と行政活動】 10.　政策の調査と立案 11.　法律・条例 12.　予算制度 13.　政策の実施と評価 14.　行政活動と行政統制 15.　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔（2022）『はじめての行政学［新版］』有斐閣						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。 1年後期開講科目「地方自治論」の事前受講を推奨します。						

授業科目名	都市法			科目コード	471207	授業コード	123405
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PPT3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	本講義のねらいは、都市の公害・環境に関係する法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。また、都市計画上必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。
到達目標	本講義では、都市の公害・環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市の公害・環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　公害と法 第３講　環境法の伝統的な法体系 第４講　憲法との関係 第５講　行政法との関係 第６講　民法との関係 第７講　刑法との関係 第８講　都市の環境対策と法規制 第９講　公害・環境規制法 第１０講　都市開発と環境アセスメント 第１１講　廃棄物・リサイクル対策 第１２講　私法的な救済方法 第１３講　条例による規制とその問題点 第１４講　環境のための３R 第１５講　まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験　70%：すべて持込可
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業科目名	政策法務			科目コード	471208	授業コード	122804
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PPT3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する
授業のねらい	将来 警察官になりたいという話は、しばしば耳にします。では、警察官は、どのような仕事をしているのでしょうか。警察官として、日々どのようなことを考えているのでしょうか。 この授業では、現職の警察官の方にもゲストスピーカーとして登壇いただくことで、警察の実際について学生諸君に知ってもらうことを、そのねらいとしています。 防犯・交通安全活動などの場面における警察と市民との協働や、刑法・刑事訴訟法などの背景となる知識についても、学んでもらいます。
到達目標	警察の業務が市民の安全に対して果たしている役割などについての基礎的な知識を身につける。
授業計画	第１講（ 9/23） ガイダンス（この授業の進め方） 第２講（ 9/30） 忘れ物や落とし物（拾得・遺失物） 第３講（10/ 7） 交通安全の意識啓発と施設整備 第４講（10/14） 夢を叶えた警察受験（受験の準備と現在の仕事）（卒業生 栁川さん） 第５講（10/21） 法規と警察 第６講（10/28） 刑法と刑事訴訟法 第７講（11/ 4） 犯罪に向き合う現場から（南警察署南川さん） 第８講（11/11） ストーカー・ＤＶ及び児童虐待について 第９講（11/18） 少年非行・少年犯罪と補導・更生 第10講（11/25） 刑事としてOBとして（学生時代と現在の仕事）（卒業生 行廣さん） 第11講（12/ 2） 身近な警察　交番・駐在所 第12講（12/ 9） 犯罪防止に向けた対策の推進 第13講（12/16） 警察と協力した防犯活動 （四日市北防犯協会　松岡さん） 第14講（12/23） 警察事務と被害者支援 第15講（ 1/19） 振り返りと課題 定期試験 ※ ゲストスピーカーの都合などにより、内容や順番が変更になる可能性が有ります。
テキスト・教材（参考文献）	レジュメや資料などを配る予定です。
事前・事後学習	日頃から、テレビや新聞の事件・事故に関するニュースに目を通し、警察の役割について考えることを心掛けてください（毎日20分以上）。 また、必ず復習をして、不明な点などはインターネット等で調べておいてください（40分）。
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用のミニッツペーパーを配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニッツペーパーに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。
アクティブラーニング	この授業では、原則として毎回、ミニッツペーパーを提出してもらいます。
実務経験のある教員	本学の卒業生などのゲストスピーカーの方々は、いずれも警察などで実務に携わっている方々です。
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業科目名	地域産業論			科目コード	471209	授業コード	122102
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PCD2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。						
授業のねらい	地域の将来を考えるとき、それぞれの地域の産業がどのように発展するかが重要であることは言うまでもありません。しかし産業構造が変化するなかで、地域の産業は一様ではありません。我が国では、地域の既存集積や資源を活用して、どのように産業を産み出していくかが重要になりつつあります。地域産業政策も、基盤整備型・産業誘致型の政策から、産業創造力を支える仕組みづくりが重要になりつつあります。 本講義では、地域産業に関する緒論や産業立地論を解説するともに、日本の産業地形成・地域産業政策を解説します。						
到達目標	到達目標は、以下の３つです。 １．地域産業に関する緒論を理解する ２．中部圏の主要な産業地形成を理解する ３．地域産業政策を理解する						
授業計画	第1講　ガイダンス／地域産業の緒論（１）ペティークラークの法則／産業分類 第2講　地域産業の緒論（２）ホフマンの法則／ロストウの発展段階説／ 第3講　地域産業の緒論（３）工業化の終焉／産業空洞化 第4講　産業立地論（１）工業立地論の概観／輸送費問題 第5講　産業立地論（２）ウェーバー工業立地論 第6講　産業立地論（３）商業立地論（ホテリングモデル） 第7講　日本の産業地形成（１）概観 第8講 日本の産業地形成（２）地場産業論／大都市産業論 第9講　四日市の産業 第10講　名古屋の産業 第11講　浜松の産業 第12講　地域産業政策（１） 第13講　地域産業政策（２） 第14講　地域産業政策（３） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用せず、講義中に資料配布します。						
事前・事後学習	配付資料に事前に目を通しておいてください。（９０分） 講義中に課される小レポートを行ってください。（９０分）						
成績評価方法	学期末試験（８５%）小レポート（１５%）						
授業内の課題・提出方法	講義中に小レポートを課します。Moodleに提出いただくことを予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートはコメントをつけて講義中に返却いたします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義を通じて、自分の故郷や関心のある地域をイメージし、どのような産業発展を経験し、どのような課題・展望があるかを考えるきっかけにしてください。						

授業科目名	地域開発論			科目コード	471210	授業コード	121607
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PCD2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	この講義では、都市を中心に空間利用のあり方を考えます。そのねらいは大きくわけて以下の４つです。第１は、人類の長い歴史のなかで、都市がなぜ、どのように形成されていったのか（都市の原理）を理解することです。第２は、産業革命後の都市問題の発生と解決方法（近代都市計画）の形成過程を知ることです。第３は、現在の都市がどのような制度によって計画されているか（都市計画制度）を理解することです。第４は、これからの都市のあり方がどのように考えられているかということを理解することです。						
到達目標	到達目標としては、講義のねらいの４つ（都市の原理・近代都市計画・都市計画制度・都市のあり方）を理解し、まちづくりを空間利用という観点から考える基礎を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講　ガイダンス／地域開発と都市 第2講　都市の時代（世界人口・都市人口） 第3講　世界の都市形成史（１）古代都市 第4講　世界の都市形成史（２）ローマ 第5講　日本の都市形成史 第6講　都市と人間（都市の原理） 第7講　近代都市計画の萌芽（１）都市問題と近代都市計画 第8講　近代都市計画の萌芽（２）田園都市論／近隣住区論 第9講　日本の都市計画制度（１）都市計画の内容／土地利用計画 第10講　日本の都市計画制度（２）都市計画事業（土地区画整理事業・市街地再開発事業） 第11講　これからの都市像～コンパクトシティを中心に～ 第12講　まちづくりの事例（１） 第13講　まちづくりの事例（２） 第14講　国土計画と国土形成計画 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。講義資料はMoodle上で配布します。						
事前・事後学習	予習：テキストのあらかじめ指定した範囲を読んでおくこと（90分）。 復習：講義中に課される小テスト（作文）を行ってください（90分）。						
成績評価方法	講義中の小レポート（15%） 学期末の定期試験（85%）						
授業内の課題・提出方法	講義中に理解度を確認する小レポート（作文）を課します。Moodleへの提出を予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートは、コメントをつけてMoodle上でフィードバックします。						
アクティブラーニング	本講義にはアクティビティラーニングの要素は少ないが、小レポートの中で、能動的な学びを促したいと思います。						
実務経験のある教員	四日市市開発審査会委員、鈴鹿市都市計画審議会専門委員として得られた事例を紹介する予定です。						
担当者から一言	都市は、日常生活にかかわる身近な場です。自分のふるさとや魅力あるまちを頭に思い浮かべながら、皆さんが都市づくりに関心を持つことを期待します。 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。						

授業科目名	地域福祉論			科目コード	471211	授業コード	125308
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PCD2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。						
授業のねらい	この授業では地域福祉の基本的な考え方を学びます。私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考える授業です。						
到達目標	地域福祉の基本的考え方、地域福祉における主体と対象、地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要（地域福祉とは） 第2講　コミュニティとネットワーク 第3講　地域福祉の財源 第4講　地域福祉の主体や担い手　　小レポート１ 第5講　地域福祉をプロ野球から考える　ーゲストスピーカーー 第6講　災害と地域福祉 第7講　ボランタリズム 第8講　少子高齢化 第9講　子育て支援と地域福祉 第10回　社会的養護と子どもの貧困　　小レポート２ 第11回　地域福祉と子育て支援を考える　ーゲストスピーカーー 第12回　当事者組織・セルフヘルプグループ 第13回　協同組合 第14回　社会的孤立と社会的排除 第15回　生活保護　小レポート-3 定期試験 ※ゲストスピーカーの都合により前後する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 加山弾・熊田博樹・中島修・山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣（2020） 動画などを視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）						
担当者から一言	自分ごととして地域福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	社会保障論			科目コード	471212	授業コード	121804
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PCD2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。						
到達目標	社会保障の役割と意義および課題、社会保障の基礎理論、歴史、財源を含む実施体制について、現代社会の動向も踏まえながら理解することができる。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要（社会保障とは） 第2講　社会保障の歴史と現代社会の変化 第3講　社会保障の法と財政 第4講　公的年金って？ 第5講　医療保険って？ 第6講　介護保険って？　小レポート-1 第7講　働くことと社会保障 第8講　生活保護 第9講　社会福祉 第10講　災害と社会保障 第11講　居住福祉　小レポート-2 第12講　沖縄の貧困と社会保障 第13講　多国籍社会の社会保障 第14講　ジェンダーと社会保障 第15講　ひとり親と社会保障　小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 <参考文献> 春田吉備彦ほか『生きのびるための社会保障入門』堀之内出版（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会保障制度を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	地域社会学			科目コード	471213	授業コード	121406
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PCD2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この授業では地域社会を社会学的に考える方法を学びます。地域社会を語る語彙と視点を身につけることが目標です。						
到達目標	地域を取り囲む社会的背景を理解する						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 都市の成長 第３講 都市の人間関係 第４講 都市の親族関係 第５講 都市の社会集団 第６講 都市の類型 第７講 都市と不平等 第８講 家と村 第９講 グローバル化と地域社会 第10講 大学と地域 第11講 まとめ① 第12講 社会地図を作る① 第13講 社会地図を作る② 第14講 社会地図を作る③ 第15講 まとめ② 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日20分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験30%、期末レポート40%。 平常点は授業への参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内でリアクションペーパーを作成し提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	リアクションペーパーの内容は翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション リアクションペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ほぼ毎回ディスカッションの時間があります。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境社会学			科目コード	471214	授業コード	125605
担当教員	平　春来里			科目ナンバリング	PCD2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	環境社会学は「環境」と「社会」にまたがる問題を、あらゆる角度から捉える学問である。この分野を学ぶにあたり、まずは各年代・各地域で生じてきた環境問題を理解する必要がある。特に日本の環境社会学が公害問題を端緒として発展してきた過程を体系的に学ぶ。同時に、環境問題に対し、社会学や環境社会学からどのようにアプローチするのかという方法論への理解を深める。これにより問題を多角的に分析し、実践的に解決に取り組むための思考力を養うことを目的とする。						
到達目標	①日本における環境問題の歴史とともに、環境社会学の視点と方法論を十分に理解し自らの言葉で説明することができる。 ②環境社会学の視点を用いて、環境問題に関して解決策を現実に即して考察することができる。						
授業計画	第1講　ガイダンス 第2講　「環境の時代」と環境社会学 第3講　環境問題の歴史　～19世紀以前～20世紀の環境問題～ 第4講　環境問題の歴史　～20世紀の環境問題～ 第5講　環境問題の歴史　～現代の環境問題～ 第6講　日本の環境問題　～鉱害・公害問題のはじまり～ 第7講　水俣病と被害構造論　～「被害」はどのようにうまれるか～ 第8講　四日市公害①　～訴訟と判決の社会的意義～ 第9講　四日市公害②　～生活史と運動から捉える～ 第10講　新幹線公害　～公共事業による公害とは～ 第11講　生活環境主義　～自然との「距離」とは～ 第12講　順応的ガバナンス～試行錯誤の環境保全～ 第13講　原発事故　～被害／避難の不可視性、負の記憶のを紡ぐ・伝える～ 第14講　地域社会とエネルギー転換　～「公正」なエネルギー転換とは～ 第15講　授業のまとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書は指定しません。授業開始前にMoodle上でその日のレジュメを配布し、それを元に進めます。 【参考文献】 鳥越皓之・帯谷博明 編著「よくわかる環境社会学（第2版）」ミネルヴァ書房（2017）						
事前・事後学習	事前学習として次回の授業のテーマとなっている環境問題についてネット等で情報収集することが望ましい。（90分） 授業後には、授業資料や、Moodle上にアップされたその日の授業内容に関連する文献、論文、新聞記事等で復習をすること。（90分）						
成績評価方法	・授業内で課すレポート（授業期間内に1本のレポート課題の提出）：30% ・定期試験：70%						
授業内の課題・提出方法	・コメントペーパーは授業後に示すGoogleフォームで毎回提出 ・レポート、定期試験はMoodle上に提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントペーパーは全体での共有が可能かどうか許可をとったうえで、次回の授業の冒頭で時間をとって回答する						
アクティブラーニング	授業中のディスカッションと授業期間内でのレポート提出では、独自の視点に基づいた積極的な問題提起や意見を重視する。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	時に「やっかいな問題」といわれる環境問題について、社会学的な観点から理解を深めつつ、未だ「正しい」答えのない問題に向き合う方法論を学びます。授業への積極的な参加や発言を期待します。						

授業科目名	祭りとまちづくり			科目コード	471217	授業コード	122407
担当教員	浅井　雅、小林　慶太郎			科目ナンバリング	PCO2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 幅広い人間力を身につける。
授業のねらい	地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式の変化、価値観の多様化等により、伝統文化の多くは継承の危機に瀕している。 この科目では、「大入道山車」（三重県指定有形民俗文化財）等に実際に参加し、伝統文化の保存・継承にはどのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を考えてもらおうとするものである。
到達目標	講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。
授業計画	第1回　ガイダンス、都市祭礼とは何か（浅井） 第2回　四日市祭の歴史（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第3回　四日市祭の現在（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第4回　保存継承の問題点と今後の課題I（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第5回　保存継承の問題点と今後の課題I（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第6回　岩戸山山車の復活講義（岩戸山保存会会長） 第7回　大入道山車の保存継承上の課題講義（大入道保存会会長） 第8回　富田鯨船の保存継承上の課題講義（富田鯨船中島組会長） 第9回　ここまでのまとめと実習の班分け（浅井） 第10~12回　現地実習① 7月20日（日）午前　大入道の組み立てへの参加 （荒天時：7月27に延期の可能性あり） 第13~15回　現地実習② 8月3日（日）終日　大四日市まつり大入道山車、 その他の山車の演技への参加 【現地実習①十②への参加が必須（交通費等自己負担）】
テキスト・教材（参考文献）	レジュメは電子あるいは紙で必要に応じて配布する。
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。(60~90分)
成績評価方法	講義とその後のコメントペーパー、実習や祭りなどへの取り組み＝ 70%、 期末レポート＝30%
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。
アクティブラーニング	体験学習
実務経験のある教員	
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることもあるので、了解しておくこと。 この講座は、前任の岩崎前学長の時から四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得、15年以上にわたって開講している。地域の祭りに主体的に参加し、実践的に地域社会について考えてみようとする学生の参加を望んでいる。

授業科目名	コミュニティ論			科目コード	471220	授業コード	123209
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PCO2002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	この講義では、地域における住民主体の活動として、自治会・町内会・市民活動団体・地域自治組織などを取り上げる。少子高齢化や人口減少などの社会構造の変化により、地域では様々な課題を抱えており、住民による活動も多様化してきている。講義では、住民による活動の歴史、実情、今後の方向性と課題について、各地の実例などを踏まえて整理する。また実習を通じて、住民による新たな活動、社会への生かし方について考える力を養成することを目的とする。
到達目標	1. 住民による活動が果たすべき役割と個人としての関わり方について理解する。 2. 地域に合わせた活動の運営手法について考察する力をつける。 3. 住民による活動と関わる人々との交流により、より豊かな人間性を身につける。
授業計画	第1回　ガイダンス、市民社会とは 第2回　非営利組織と経営、社会福祉協議会とは 第3回　市民社会の政治的側面 第4回　排外主義、社会的排除 第5回　ローカルガバナンスと自治会、町内会の役割 第6回　事例研究 町内会の取り組み 第7回　受け入れ先団体とのディスカッション 第8回　いなべ市内地域活動団体とのフィールドワーク事前学習① 第9回　いなべ市内地域活動団体とのフィールドワーク事前学習② 第10回　フィールドワーク① 第11回　フィールドワーク② 第12回　フィールドワーク③ 第13回　フィールドワーク④ 第14回　発表準備 第15回　発表・まとめ ※受け入れ先及び講義登録者数によって、シラバスが変更になる場合があります。受け入れ先団体の方も座学講義に参加する場合があります。 ※いなべ市内にてフィールドワークを行いますが交通費は実費になります。
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。
事前・事後学習	事前学習では、地元のまちづくり活動を調べる（30分）。 住民活動に関連した図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。
成績評価方法	参加意欲20%、報告や発言内容20%、課題発表やコメントカード20%、最終レポート40%
授業内の課題・提出方法	事例研究として、町内会の住民活動に関する課題を発表・提出してもらう。 最終講義では本授業での学びを発表する。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートまた報告会では、適宜コメントする。
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本）
担当者から一言	自分ごととして地域について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。フィールドワークにはしっかり参加してください。携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます

授業科目名	地方議会論			科目コード	471221	授業コード	122805
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PCO2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	地方議会は私たちにとって最も身近な政治の場である一方で、首長の陰に隠れその活動が見えずらいものです。 本講義では地方議会の仕組みや、地方議員の活動などに触れつつ、なり手不足や不祥事などの負の側面ばかりが強調されがちな地方議会の役割を近時の議会運営の工夫なども取り入れつつ解説します。 本講義を通して、私たちの代表としての地方議会に対する関心を高め、地方議会に関する各種ニュースを冷静に理解できるようになることを目指します。						
到達目標	・地方議会に関する基本的な知識を身に着ける ・自らの住む地域の地方議会の動向を関心を持って見つめることができる						
授業計画	01.　ガイダンス/地方議会の必要性 02.　地方自治の現状 03.　二元代表制 04.　議会と首長 05.　地方議員とはどういう人か 06.　地方議員と選挙① 07.　地方議員と選挙② 08.　地方議会の構成・運用① 09.　地方議会の構成・運用② 10.　地方議会の権限 11.　議会広報 12.　議会改革：総論 13.　議会改革：事例① 14.　議会改革：事例② 15.　まとめ 定期試験 ※全15回のどこかで四日市市議会議員さんをお招きしての意見交換会を実施予定です。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・野村憲一（2016）『いちばんやさしい地方議会の本』学陽書房 ・辻陽（2019）『日本の地方議会-都市のジレンマ、消滅危機の町村』中央公論新社						
事前・事後学習	事前学習①：新聞や二ュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。 1年後期開講科目「地方自治論」の事前受講を推奨します。						

授業科目名	ＮＰＯ論			科目コード	471222	授業コード	125706
担当教員	小林　慶太郎、鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PCO2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	この授業では、市民が主体となって地域の活性化や魅力発信などの「まちづくり」に取り組むことの大切さを、いくつかの事例を中心に考えていきます。まちづくりに携わっている方々に教室に来ていただいて話を聞き、実際にスタッフとしてイベントに参加することを通じて、まちづくりを学びます。 　今年度は、市民ボランティアが中心になって開催されている「四日市JAZZフェスティバル」、三重からJリーグを目指して市民で盛り上げるスポーツクラブ「ヴィアティン三重」、四日市大学生の発案でスタートし定着した三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」を取り上げます。学生諸君が、市民主体のまちづくり活動の実際を、五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	市民主体のまちづくりの活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	第１講（ 9/26）ガイダンス（鬼頭・小林） 第２講（10/3）四日市JAZZフェスティバルと地域活性化（実行委員長） 第３講（10/10）イベントとまちづくり（鬼頭・小林） 第４講（10/16(木)5限）JAZZフェスに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会、鬼頭・小林） 第５～7講（10/18-19）フィールドワーク（JAZZフェスへのスタッフとしての参加を３コマとしてカウント） 第８講（10/24）スポーツクラブ経営(ヴィアティン三重社長) 第９講（10/31）スポーツクラブとまちづくり(ヴィアティン三重スタッフ) 第10講（11月中の週末 日程未定）フィールドワーク（ヴィアティン三重ホームゲームの場外イベントへのスタッフとしての参加を１コマとしてカウント） 第11講（11/28）イベントとまちづくり（鬼頭・小林） 第12講（12/ 5）北勢線サンタ電車とローカル鉄道（三岐鉄道職員） 第13講（12/12）コミュニティバスと鉄道の連携（東員町担当者） 第14講（12/19）サンタ電車運行準備と打ち合わせ（三岐鉄道職員、鬼頭・小林） 第15講（12/20）フィールドワーク（北勢線サンタ電車へのスタッフとしての参加を１コマとしてカウント） ※ 都合により授業計画が変更になる可能性があります。掲示等を注意して見るようにしてください。						
テキスト・教材（参考文献）	JAZZフェスのパンフレット、サンタ電車の資料などの配布を予定しています						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちに資料やネットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	フィールドワークに取り組む姿勢・パフォーマンス40%、授業内で課す課題30%、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義の際には小レポートを、フィールドワークの際はその振り返りレポートを、それぞれ課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、Moodle等を通して学生にコメントを返していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、フィールドワークが重要な要素となっている。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、実際にまちづくりに関わっている方であり、フィールドワークの際にも指導いただく。なお、授業の担当者である鬼頭、小林も、それぞれ市民団体の代表として、まちづくりの実務に携わっている。						
担当者から一言	最も重要なフィールドワークに参加できない学生には、原則として単位は与えられませんので、履修登録の際には注意してください。						

授業科目名	マイノリティ政策			科目コード	471223	授業コード	122101
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PRP2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	ダイバーシティ（divercity）、日本語では、多様性と訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。 年齢、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。 この授業では、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が尊重されるダイバーシティ社会の担い手としての資質
到達目標	この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。
授業計画	第１講　ガイダンス：この講義の進め方 第２講　世界がもし100人の村だったら（グループワーク） 第３講　民族と国民国家 第４講　棲み分けか統合か　～諸外国のケースから～ 第５講　日本における少数民族政策 第６講　もう一つの民族問題 在住外国人 第７講　日本における在住外国人政策 第８講　地域における在住外国人政策 第９講　セクシュアルマイノリティと「ＬＧＢＴ」 第10講　トランスジェンダーと性同一性障害 第11講　同性愛・両性愛と異性愛 第12講　地域におけるセクシュアルマイノリティ政策 第13講　性感染症をめぐる差別とタブー 第14講　ダイバーシティ経営 第15講　ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク） 定期試験 ※ ゲストスピーカーの都合などにより、順序が変更になる場合があります。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。 【参考文献】 小林慶太郎「ＬＧＢＴと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。
アクティブラーニング	授業時に、複数回グループワークを行うほか、課題として毎回ミニッツペーパーを記入してもらいます。
実務経験のある教員	担当教員は、ダイバーシティ社会の実現に向けた三重県の委員会の委員等を数年にわたって務めています。また、ダイバーシティ社会実現に向けた活動をされている方を、ゲストスピーカーとしてお招きする予定です。
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業科目名	環境政策			科目コード	471224	授業コード	122301
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PRP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。						
到達目標	環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	第1講　ガイダンス・環境政策の概観：4/8 第2講　豊島から学ぶ「ごみ問題」：4/15 第3講　循環型社会とリサイクル：4/22 第4講　災害ゴミの処理：4/29 第5講　四日市公害と中国における大気汚染①：5/13 第6講　四日市公害と中国における大気汚染②：5/20 第7講　四日市公害と中国における大気汚染③：5/27 第8講　四日市公害と中国における大気汚染④：6/3 第9講　映像でみる四日市公害①：6/10 第10講　映像でみる四日市公害②：6/17 第11講　再生可能エネルギーって本当にエコ？：6/24 第12講　他にもエコな取り組みがエコじゃないかも？：7/1 第13講　地球温暖化の基礎知識＆アルゴア：7/8 第14講　グレートリセット7/15 第15講　まとめと光害7/22						
テキスト・教材（参考文献）	講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。講義終了後は、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、しっかりと数時間かけて自分の考えをまとめて提出する。						
成績評価方法	小レポート5点×15回として全体の75%、学期末試験25%の配分で、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させたレジュメをMoodleなどで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodle上でコメントを書く。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。						

授業科目名	観光政策			科目コード	471225	授業コード	123608
担当教員	富田　与、浅井　雅、高田　晴美			科目ナンバリング	PRP2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	「観光」や「旅行」を考える視点には、旅人としてのの視点、場所という視点、観光地にいる（観光産業に関わるなど）人々の視点と、様々な見方、問題の捉え方があります。この授業では、「観光」や何らかの「旅」という行為や訪れる地域について、文学・文化・歴史・人類学などの様々な観点で分析し、ツーリズムの本質に迫ることをもくろみます。この科目は富田、浅井、高田の3名の教員がそれぞれの専門性や持ち味を生かして行います。その視点や手法の多様性を生かして、ツーリズムについて考えていきましょう。						
到達目標	「観光」にもいろいろなあり方があることを知る。 旅人が観光に求めるものについて考える。 その上で、各地域が観光地として魅力を持つための条件について考える。						
授業計画	第１講 ガイダンス、〈ツーリズム〉を考える視点（9/25） 第２講 東海道・街道とツーリズム（10/2） 第３講 アート（浮世絵）とツーリズム（10/9） 第４講 西行・松尾芭蕉の旅（10/16） 第５講 伊勢講・富士講（10/23） 第６講 聖地巡礼①（10/30） 第７講 聖地巡礼②（11/6） 第８講 聖地巡礼③（11/13） 第９講 だんじり／山車（11/20） 第10講 だんじり／山車（11/27） 第11講 小泉八雲（外国人）とツーリズム（12/4） 第12講 外国人が見た日本（12/11） 第13講 ジオパーク（12/18） 第14講 アート（国際芸術祭）とツーリズム（1/8） 第15講 まとめにかえて（1/15）						
テキスト・教材（参考文献）	友原嘉彦編著『クリエイティブツーリズムー「あの人」に会いに行く旅』古今書院（2022年）3，200円 授業はテキストを使用する回としない回があります。						
事前・事後学習	（事前）テキストの次の回で取り上げる章の論文を読んでおく。（90分） （事後）講義のトピックスに合わせて、紹介された旅のあり方についてもっと調べる。（90分）						
成績評価方法	・毎回の課題 60% ・期末レポート 40%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、小レポートなどの課題を出します。 課題の提出方法は、担当教員によってことなります（Moodle、forms、紙など）。各回の担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題で書かれた皆さんのコメント等について、授業内で紹介したりします。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	皆さんはどんな旅が好きですか？ 旅に何を求めますか？ 旅のあり方は人それぞれ。旅の成果も人それぞれ。そんな「旅」を、単なるイベントとして楽しむだけでなく、学問的に考えてみませんか？ そこからは、旅をする側たけでなく、旅人をもてなす側としての示唆も得られるかもしれません。						

授業科目名	経済政策			科目コード	471226	授業コード	123607
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PRP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	ミクロ経済学の中心をなす企業・消費者の行動や市場メカニズムは、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングも取り入れ、直感的・感覚的にミクロ経済学を学ぶ。						
到達目標	ミクロ経済の仕組みや動きについて深く理解し、社会人になって経済の動きを予想して対応できる能力を身に着けるのが目標である。						
授業計画	1：対面；ガイダンス：コロナ禍の地域経済 2：OD；消費者の行動①個別需要曲線の理論；スタート 3：OD；消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明 4：OD；消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる 5：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給① 6：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給② 7：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③ 8：対面；独占禁止政策① 9：対面；独占禁止政策② 10：対面；独占禁止政策③ 11：対面；災害からの復興と経済① 12：対面；災害からの復興と経済② 13：対面；市場メカニズムと物価高 14：対面；震災からの復興と地域経済 15：対面；講義の振り返り						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	シラバスをみて準備学習に取り組むこと。本講義は、事後学習の時間を確保することが重要である。OD授業は、理解が困難だった部分について、複数回視聴する。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が数時間必要である。						
成績評価方法	毎回Moodleで提出する課題(75%)、対面・持ち込み不可による学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	レジュメの空白に授業の内容をノートテイクし、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	提出された課題によって理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	都市政策			科目コード	471227	授業コード	122204
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PRP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	消防士になりたい学生は必ず履修すること。消防行政の枠組みについて理解したうえで、具体的に四日市市の消防について現地取材をもとに、消防士の仕事内容、車両、資器材についても映像などで解説していく。また、大学がある八郷地区の消防団と、三重県消防学校についても取材を行い、映像で紹介していく。さらに、フィールドワークとして、実際に四日市市防災教育センターと北消防署北部分署を訪問し、防災学習をしたり、実際の消防について視察を行う。フィールドワークは5月の週末土曜日の朝から夕方までを予定している。具体的には北部分署まで						
到達目標	実際の消防行政について学び、災害と消防の仕事を理解することが到達目標である。						
授業計画	第1講　ガイダンス・日本の消防・救急体制の現状①：4/8 第2講　日本の消防・救急体制の現状②：4/15 第3講　四日市の消防体制①：4/22 第4講　四日市の消防体制②：4/29 第5講　四日市の消防体制③：5/13 第6～9講　フィールドワーク：5/17(土)9：10～16：30 第10講　緊急消防援助隊①：5/20 第11講　緊急消防援助隊②：5/27 第12講　三重の消防組織①：6/3 第13講　三重の消防組織②：6/10 第14講　能登半島地震における消防の対応①：6/17 第15講　能登半島地震における消防の対応②と講義のまとめ：6/24						
テキスト・教材（参考文献）	講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。講義終了後は、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、しっかりと数時間かけて自分の考えをまとめる。						
成績評価方法	小レポート5点×13回として全体の65%、学期末試験35%の配分で、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させたレジュメをMoodleなどで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodle上でコメントを書く。						
アクティブラーニング	フィールドワークを行う。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	社会でとても大切な消防行政について、具体的な取材をもとに講義を進めていく。						

授業科目名	都市計画論			科目コード	471229	授業コード	123109
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	PRP3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	都市計画を知るには、現在どのような目的に向けて、都市計画が進められ、人々が関わっているのかについて把握することが求められる。都市計画の実態を知るために、都市計画の成り立ち、構造、仕組み、実態、課題等を体系的かつ論理的に学ぶ。これらの学びを通して、地域活動やまちづくりに関わる、政策遂行や社会動向に関心を持ち、組織や社会に生かせることを目指す。						
到達目標	地域の課題や活動、新聞記事やニュース内容、都市計画に関する図書について、理解が早まること。						
授業計画	1．ガイダンス 2．都市形成のメカニズム１ 3．都市形成のメカニズム２ 4．現代社会における課題 5．都市計画におけるハード面とソフト面 6．住宅に関する都市計画 7．環境に関する都市計画 8．観光に関する都市計画 9．交通に関する都市計画 10．総合的な都市計画 11．将来課題を見据えた都市計画 12．都市、農村・山村・漁村連携を見据えた都市計画 13．都市間連携による都市計画 14．広域的連携による都市計画 15．まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	事前学習では、毎日、新聞やニュースを見る（30分）。 地元のまちづくり活動を調べる(30分)。 都市計画に関する図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ① 講義時に提示する課題への提出状況及び受講態度　70% ② 最終レポート　30%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義にて、適宜コメントする。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、プレゼンテーション、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係の事例を取り上げます。						
担当者から一言	三重県や全国の様々な地域を事例として、私たちの生活と密接な関係にある都市計画とは何なのかを学びます。知識提供だけでなく、自分自身で地域を読み解く力を養成します。						

授業科目名	からだとこころ			科目コード	471301	授業コード	123704
担当教員	三田　泰雅、富田　与			科目ナンバリング	PSH2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	社会の「しくみ」と人々の「つながり」の変化をたどりながら、現代の日本社会と国際関係のあり方を考える。						
到達目標	現代社会の諸問題に気づけるようになる。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会の発見 3 国家の登場 4 統治の技法 5 監視と権力 6 暴力を考える 7 国家と外交 8 戦争と平和 9 国際機関の役割 10 国際会議と地域組織 11 慣習の力 12 自己責任論の時代 13 国際報道の仕組み 14 報道とプロパガンダ 15 デジタル社会の報道 各回の順番は前後することがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 平田オリザ（2012）『わかりあえないことから』講談社.						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日20分以上）。						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55%。 平常点は授業への参加度と課題の内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内でリアクションペーパーを作成し提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	リアクションペーパーの内容は翌週以降の授業内で適宜コメントします						
アクティブラーニング	必要に応じてグループワークを行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	私たちが生きる社会の「しくみ」に目を当てて、現代社会の理解を試みます。						

授業科目名	こころの科学			科目コード	471302	授業コード	125202
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSH2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義では、米国を中心に発展を続けるスポーツ心理学の観点から、リーダーシップとは何か、チームビルディングとは何か、について検討を加える。リーダーシップに関連する学術的知見を実際の競技現場でどのように応用していくのかについて考察し、グローバルな社会を生きていくための実践的な知識を深める。スポーツ場面の事例を取り上げることが多いが、実社会においても十分活用可能な講義内容と考える。						
到達目標	自分自身の存在と社会との関係性について考察を加え、今後の社会生活にいかせる実践的な知識を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス 第2講　リーダーについての日米の考え方の違い 第3講　コーチングに必要な科学的知見 第4講　一人のリーダーが組織を率いるリスクとは 第5講　リーダーとしてのコミュニケーション 第6講　リーダーとメンバーの関係性 第7講　チームビルディングアクティビティ 第8講　アドバイスのタイミング 第9講　指導者が権力者になりがちな日本 第10講　日本のスポーツ界ではスポーツ科学が受け入れられにくい 第11講　リーダーに求められる学ぶ姿勢 第12講　スキル習得にはステップがある、とリーダーが理解する必要性 第13講　チームビルディングとは 第14講　チームビルディング事例 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	「C3チームビルディング」クロスメディアパブリッシング（必携） 授業では、講義内容に沿った資料を配付することもある。						
事前・事後学習	予習として、テキストの次回以降の授業内容に目を通した上で、自己と他者、対人関係、集団、社会等に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、テキストの講義内容該当部分を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０%）及び定期試験（４０%）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	スポーツ政策論			科目コード	471303	授業コード	123702
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSH2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修

授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者やスポーツクラブのクラブマネジャーとしての必要なマネジメントの知識、心構えや法的知識等を学習する。
到達目標	国家のスポーツ政策から自治体のスポーツ政策に至るまでの幅広い知識を身につけるとともに、様々な対象に応じたスポーツマネジメントを理解し、クラブマネジメントの実践に活かせるようにする。
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ行政とその関わり・スポーツ振興 第3講 競技スポーツ政策 第4講 健康体力政策・スポーツ基本計画と健康日本21 第5講 スポーツマネジメントとは・大学スポーツのマネジメント 第6講 子どもスポーツのマネジメント・障害者スポーツのマネジメント 第7講 高齢者スポーツのマネジメント・高齢者を取り巻く環境 第8講 中間テスト 第9講 地域スポーツを取り巻く環境 第10講 地域スポーツクラブの機能とその役割・スポーツ少年団について 第11講 総合型クラブについて・総合型クラブを取り巻く環境 第12講 総合型クラブの立ち上げ方式の分類・総合型クラブのマネジメント 第13講 総合型クラブの具体的な事例(設立から運営まで)・クラブマネジャーの位置づ け 第14講 総合型クラブの自主運営に必要な条件・スポーツとNPO・法人格の取得 第15講 まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:60% ・中間試験・定期試験:40%
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポート、中間テストは、個別に評価（得点）を報告します。
アクティブラーニング	
実務経験のある教員	
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。

授業科目名	スポーツ指導論			科目コード	471304	授業コード	125403
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSB2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。						
到達目標	スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　スポーツ指導者とは 第3講　指導者の心構え・視点 第4講　競技者育成プログラムの理念 第5講　スポーツと健康 第6講　スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講　救急処置 第8講　指導計画の立て方 第9講　スポーツ活動と安全管理 第10講　中高年者とスポーツ 第11講　女性とスポーツ 第12講　障害者とスポーツ 第13講　プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講　ミーティングの方法 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０%）及び定期試験（４０%）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合がある。						

授業科目名	スポーツトレーニング論			科目コード	471305	授業コード	125306
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSB2002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。						
到達目標	トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　体力とは 第3講　体力とは 第4講　トレーニングの進め方 第5講　トレーニングの進め方 第6講　トレーニングの種類 第7講　トレーニングの種類 第8講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講　発育発達期に多いケガや病気 第12講　発育発達期に多いケガや病気 第13講　発育発達期のプログラム 第14講　発育発達期のプログラム 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０%）及び定期試験（４０%）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合がある。						

授業科目名	スポーツ心理学			科目コード	471306	授業コード	123605
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSB2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲･学習･発達･性格特性･集団･環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。						
到達目標	スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス・スポーツ心理学とは 第2講　スポーツと心 第3講　スポーツにおける動機づけ 第4講　技能の練習と指導 第5講　プレイヤーの個人指導と心理的問題 第6講　チームの指導と心理的問題 第7講　コーチングの評価 第8講　メンタルマネジメントとは 第9講　リラクセーション 第10講　イメージトレーニング・集中力トレーニング 第11講　心理的コンディショニング 第12講　プレッシャー・あがり・スランプの克服 第13講　指導者のメンタルマネジメント 第14講　スポーツ環境における精神障害と対策 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃･渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０%）及び定期試験（４０%）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	スポーツ社会学			科目コード	471307	授業コード	125103
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSB2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	現代では、スポーツ文化が社会に及ぼす影響は大きい。我々の生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツを文化的観点から考察する。						
到達目標	近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　スポーツの歴史と概念 第3講　スポーツ行政の仕組み 第4講　スポーツ振興策 第5講　スポーツ事業の効果的運営 第6講　スポーツ指導者論1 第7講　スポーツ指導者論2 第8講　スポーツ指導者論3 第9講　スポーツ施設管理論 第10講　スポーツ系理論 第11講　スキルとは何か 第12講　地域スポーツ経営論 第13講　スポーツとメディア 第14講　スポーツにおける逸脱行為 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０%）及び定期試験（４０%）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	スポーツ生理学			科目コード	471308	授業コード	121206
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSB2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。						
到達目標	スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 生体の維持 第3講 筋の生理学（筋収縮のメカニズム） 第4講 筋刺激による筋の適応と加齢が筋に与える影響 第5講 呼吸器系の機能と構造・トレーニングによる呼吸器系の適応 第6講 循環器系の機能と構造 第7講 循環器系の運動時の反応とトレーニングによる適応 第8講 内分泌系（ホルモン） 第9講 中間テスト 第10講 神経系とその適応 第11講 身体運動と神経系 第12講 特殊環境下（高温・寒冷・水中・高所）での運動について 第13講 運動と免疫 第14講 老化による諸機能の変化とその特徴 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献:財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 、Scott K. Powers， Edward T. Howeley 「Exercise Physiology」Human Kinetics 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告する 中間テストの得点についても個別に報告する						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	健康スポーツ論			科目コード	471309	授業コード	121608
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSB2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	現代社会の課題から、生涯にわたり主体的にスポーツを楽しむためのスポーツライフの実現に向けた取り組み、国家施策、生涯を通じてスポーツを実践する意義を考える。						
到達目標	生涯スポーツの多様性を理解すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス 講義の進め方 第２講　社会体育の変遷 第３講　国家政策と生涯スポーツ 第４講　地域スポーツ施策と生涯スポーツ 第５講　国民の健康課題と生涯スポーツの役割 第６講　メタボリックシンドローム 第７講　ロコモティブシンドローム 第８講　中間テスト 第９講　総合型地域スポーツクラブの現状と課題 第10講　子どもと生涯スポーツ 第11講　高齢者と生涯スポーツ 第12講　障害者とスポーツ 第13講　運動処方の指針 第14講　ウエルビクスのすすめ 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ						
事前・事後学習	日頃から地域スポーツに関する話題を調べること(毎日20分程度) シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(15分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自身でまとめておくこと(40分)						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:40% 中間試験、定期試験（授業内配布資料持込可）:60%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告 中間テストについても、その得点を個別に報告する						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	スポーツ栄養学			科目コード	471310	授業コード	123606
担当教員	櫻井　智美			科目ナンバリング	PSB2007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。						
到達目標	スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。						
授業計画	第１　講 ガイダンス　、授業の概要 第２　講 アスリートにおける基本の食事 第３　講 エネルギー産生栄養素（糖質・脂質・たんぱく質） 第４　講 ビタミン・ミネラル 第５　講 熱中症の予防と水分補給 第６　講 アスリートの身体組成 第７　講 トレーニングとエネルギー消費量 第８　講 目的別の食事 第９　講 試合前後の食事 第１０講 トレーニング時の食事 第１１講 アスリートに多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴 第１２講 サプリメントとエルゴジェニックエイド 第１３講 ジュニア・シニア・障がい者アスリートの栄養管理 第１４講 アスリートの栄養教育のすすめ方 第１５講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	スポーツ栄養学　　鈴木志保子著 講義内容に沿った資料プリント <参考文献> 公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ、Ⅲ（公益社団法人　日本スポーツ協会） 新版コンディショニングのスポーツ栄養学　樋口満編著（市村出版） スポーツ栄養学　　鈴木志保子著						
事前・事後学習	予習として、次項のテキストを読み、内容を調べる（９０分） 復習として、講義内容や課題等を復習する（９０分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 課題の提出・内容および受講態度：50% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	課題のプリントを毎項配布し、授業終了後回収する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は、次項の授業で原則返却する。提出物に記載されたコメントに対しては、以降の講義で応答する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻(開始20分以降）や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは原則禁止します。これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。						

授業科目名	アスリート育成論			科目コード	471311	授業コード	123803
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。						
到達目標	アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講　競技者育成と評価競技 第4講　競技者育成システムにおける指導計画 第5講　競技力向上のためにチームマネジメント 第6講　スポーツとIT 第7講　アスリートの健康管理 第8講　アスリートの内科的障害と対策 第9講　アスリートの外傷・傷害と対策 第10講　アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講　コンディショニングの手法 第12講　スポーツによる精神障害と対策 第13講　特殊環境下での対応 第14講　アンチドーピング 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０%）及び定期試験（４０%）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	スポーツ応用科学			科目コード	471312	授業コード	123207
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。						
到達目標	最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。						
授業計画	第１講 ガイダンス 講義の進め方 第２講 身体運動学 第３講 トレーニング理論とその応用① 第４講 トレーニング理論とその応用② 第５講 トレーニング効果測定について 第６講 体格の測定評価とその活用 第７講 体力評価とその活用 第８講 中間テスト 第９講 スピードトレーニング・持久性トレーニング 第10講 神経系トレーニング・スキルトレーニング 第11講 健康と複合運動 第12講 エアロビクス運動・レジスタンス運動の理論と実践① 第13講 エアロビクス運動・レジスタンス運動の理論と実践② 第14講 柔軟性運動の理論と実践 第15講 バランス運動の理論と実践 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告 中間テストについても、その得点を個別に報告						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	スポーツメディカル論			科目コード	471313	授業コード	121501
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。						
到達目標	身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ医学の基礎知識1「スポーツが心臓血管系に及ぼす影響」 第3講 スポーツ医学の基礎知識2「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」 第4講 スポーツ医学の基礎知識3「体液と体温調節」 第5講 スポーツ医学の基礎知識4「スポーツと内分泌系」 第6講 スポーツ医学の基礎知識5「身体運動学・機能解剖」 第7講 加齢とスポーツ医学 第8講 中間テスト 第9講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(急性) 第10講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(慢性) 第11講 スポーツ外傷とスポーツ障害 第12講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(上肢) 第13講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(下肢) 第14講 救急処置(救急蘇生法) 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 目崎登「スポーツ医学入門」分光堂						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します 中間テストについても、得点を個別に報告します						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	地域スポーツ論			科目コード	471314	授業コード	123108
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PSP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。 講義を通じて、スポーツクラブをマネジメントするための知識・技術の習得を目指す。 「組織のあり方」、「コミュニケーション能力」を意識しながら、スポーツクラブだけでなく、集団活動の場に適応できる力を養う。						
到達目標	スポーツ場面における多様なニーズに対応方法、クラブ育成に関する知識を身につけ、クラブマネジメントの実践に役立てる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 地域スポーツ組織の事業と運営 第3講 国家施策としての地域スポーツクラブ 第4講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけと求められる能力 第5講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの役割 第6講 中間テスト 第7講 クラブマネジャーに求められる能力「コミュニケーション・ロジカルシンキン グ」 第8講 クラブマネジャーに求められる能力「経営戦略」・「マーケティング」 第9講 クラブマネジャーに求められる能力「ヒト・組織のマネジメント」 第10講 クラブマネジャーに求められる能力「ホスピタリティ」・「施設の管理と運営」 第11講 クラブマネジャーに求められる能力「財務・会計」・「事業計画作成」 第12講 クラブ設立の準備・総合型クラブの自主運営に必要な条件 第13講 クラブの作り方・クラブの運営 第14講 総合型クラブ 事例クラブ紹介 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義に沿った授業資料をプリントして用意します。 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認アシスタントマネジャー養成テキスト」						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート:60% ・中間試験・定期試験:40%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポート、中間テストの評価（得点）については個別に報告						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	健康スポーツ実技			科目コード	471317	授業コード	123609
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PHH2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	本講義では、生涯を通じて実践可能なスポーツの方法を学び、身体運動の創作なども通してスポーツ指導者としての想像性を育む。						
到達目標	楽しく安全にスポーツができる方法を学ぶことにより、生涯を通したスポーツ実践につなげる。						
授業計画	第１講 ガイダンス 講義の進め方 第２講 体力評価の方法 第３講 体力評価とフィードバック 第４講 健康のための身体運動 第５講 エアロビクスの理論と指導方法 第６講 エアロビクスの実践と指導 第７講 エアロビクスの実践と指導 第８講 エアロビクスの実践と指導 第９講 レジスタンス運動の理論と指導方法 第10講 レジスタンス運動の実践と指導 第11講 柔軟性運動の理論と指導方法 第12講 柔軟性運動の実践と指導 第13講 バランス運動の理論と指導方法 第14講 バランス運動の実践と指導 第15講 体力評価とフィードバック						
テキスト・教材（参考文献）	竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ						
事前・事後学習	取り上げる内容について、事前に資料を配布するので、目を通しておく						
成績評価方法	実技実習（指導）を評価						
授業内の課題・提出方法	各種運動の指導（模擬指導） 他学生への体力評価フィードバックレポート作成						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題を課した際は、次週にその解説をおこないフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループ指導を複数人で行います						
実務経験のある教員							
担当者から一言	運動のできる服装(ウェア・シューズ)を用意して参加する事。 服装を用意していない場合は欠席扱いとします。 体育館内を使用する場合は、上履きシューズを持参してください。 欠席は評価ができません。休まずに受講することが最低条件です。						

授業科目名	こころの健康			科目コード	471318	授業コード	122604
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PHH2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	本来は〈メインカルチャー〉に対抗するための〈サブカルチャー〉ですが、今となってはサブカルこそが日本のメインカルチャーと言っても過言ではありません。それだけの影響力を持つサブカルは、時代とそこに生きる人々、社会を映す鏡とも言えるでしょう。その時代その時代で、サブカルの流行は移っていきます。何となくの流行りとしてそれらを楽しむ我々ですが、あるジャンルが流行るには、それなりの理由がきっとある。作り手の需要も受け手の需要も満たす何かがきっとある。そういうことを一緒に紐解いていきましょう。サブカルを解読することは、						
到達目標	・ジャンル、流行の型を見抜くスキルを身に付ける。 ・流行の背景を分析するスキルを身に付ける。 ・様々なジャンル、流行を結び付けて考えるスキルを身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、〈オタク〉とは何か？ 第２講　少女マンガと少年マンガの違いを考える①ー設定編 第３講　少女マンガと少年マンガの違いを考える②ー語り編 第４講　少年マンガにおけるネーミング問題 第５講　二次創作というオタクの知的遊戯 第６講　〈異世界転生〉モノが流行る理由 第７講　ラノベのタイトルはなぜ長い？ 第８講　「ガンダム」が画期的だった理由ーヒーロー像の変遷 第９講　文化としてのBL 第10講　文化としての同性愛と耽美 第11講　中二病と〈セカイ系〉 第12章　〈キャラクター〉とは何か？ 第13講　日本人が好きな悪役キャラの傾向 第14講　考察系の流行 第15講　様々な流行を網の目に編んで広げてみる 順番は入れ替わったり、内容が多少変更になったりする可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 気になる作品については、書籍やネット小説、映像などにあたって、作品そのものに自分で触れてみましょう。						
事前・事後学習	講義後に、講義で紹介した作品を読んだり、関連事項を調べたりして、理解を深める。（180分）						
成績評価方法	・毎回の小レポート　60点 ・期末レポート　40点						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業後に小レポート（紙のコメント用紙）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメントを紹介したりします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	普段は単に面白いからと楽しんでいるサブカルだって、学問的に分析対象とすることができます。その面白さを味わってください。						

授業科目名	こころと文学			科目コード	471319	授業コード	122302
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PHH2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 幅広い人間力を身につける
授業のねらい	文学作品や芸術作品は、ある時代状況や社会状況、世間の人々の心理状況の中で、もしくは作者の極めて個人的な状況下で、「こんな作品を世の中に投げかけたい！」「こんな作品を生み出さずにはいられない！」と生み出されます。それは、作者の意思や欲望、おもしろづくの表れでもありますし、読者や鑑賞者の何らかの欲望を満たすものでもあります。複雑にからみあう状況の中に作品を位置づけること、作品を読み解くこと、そして何よりそれを深く味わうこと。それをこの授業では試みたいと思っています。
到達目標	作品を単に単体の見えている部分だけでとらえるのではなく、背景等も含めて分析し、解釈する視点を学ぶ。
授業計画	第１講　ガイダンス、ひとの心をたねとして 第２講　近年の短歌ブームに見る現代人の心 第３講　失恋ソングに見る〈情念〉 第４講　変態・醜悪を真剣に文学にするー田山花袋「少女病」 第５講　変態を美学に昇華するー江戸川乱歩の作品 第６講　匂わせの官能表現という美学ー谷崎潤一郎、川端康成 第７講　夫婦でバトルした時代 第８講　ノーベル賞作家、アリス・マンローの文学 第９講　海外文学を通して知らない世界を知る①ーハイチ文学 第10講　海外文学を通して知らない世界を知る②ーアフガニスタン文学 第11講　社会の底辺を描く文学 第12講　風刺としての芸術 第13講　芸にストイックに生きる人々 第14講　青春の煩悶ー太宰治の作品 第15講　人生、捨てたもんじゃないー岡本かの子「家霊」 状況によっては、内容を一部変える可能性があります。
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 気になる作品については、書籍などにあたって、作品そのものに自分で触れてみましょう。
事前・事後学習	講義後に、講義で紹介した作品を読んだり、関連事項を調べたりして、理解を深める。（180分）
成績評価方法	・毎回の小レポート　60点 ・期末レポート　40点
授業内の課題・提出方法	毎回、授業後に小レポート（紙のコメント用紙）を提出してもらいます。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメントを紹介したりします。
アクティブラーニング	
実務経験のある教員	
担当者から一言	文学作品や芸術作品を、普段は単なる娯楽として楽しむだけ、という人が多いと思います。それを学問として分析すると、きっと世界がもっと面白くなるし、「これはどうなの？」と色々なことにひっかかって物事を思考するスキルも得られると思います。複雑怪奇なこれからの世の中に必要なのはきっと、そういう人文科学的視点。

授業科目名	国際経済事情			科目コード	471401	授業コード	123706
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PIM2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	この講義では、海外に進出する多国籍企業について、理論および実態の両面から理解することを目的とします。また、そのために必要となる、貿易の理論や為替レートの決定といった国際経済学の基礎的な理論も理解していきます。 特に日本企業の国際経営とはどのような活動なのか、どのような経緯を辿ってきているのか、イギリスのEU離脱やコロナなどの国際情勢の変化によってどのような影響を受けているのかを考えていきます。						
到達目標	企業が外国で生産活動や販売活動を行う動機や問題点、今後の課題について自分なりの考えを持つことができるようになること。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 貿易の理論~産業間貿易と産業内貿易 第３講 外国為替市場と為替レートの決定理論 第４講 多国籍企業～海外直接投資とは？ 第５講 国際経営戦略の歴史的展開と政治的性格 第６講 国際マーケティング 第７講 海外生産 第８講 技術移転と海外研究開発 第９講 北米・欧州の中の日本企業 第10講 アジアの中の日本企業 第11講 新興国市場と日本企業 第12講 サービス企業の海外進出 第13講 国際経営の新展開 第14講 コロナなどによる国際経営の課題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	吉原英樹『国際経営』第5版　有斐閣アルマ（２０２２）　本体２０００円＋税						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日読んだテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果、講義中や講義後の質問や疑問には適宜コメントします。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	国際関係論			科目コード	471402	授業コード	123805
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	PIM2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	最近、新聞やインターネット、テレビーニュースの中で持続可能な開発（SDGs）の話をよく聞きます。SDGsのような目標を聞いてもあまり身近に感じないかもしれません。この講座では様々な地球の問題についての知識を深めながら、SDGsの目標や指標について学びます。地球市民になるために何が必要でしょうか。日本に居ながら我々は個人のレベルで問題解決のため何が出来るか、学生と一緒に考えます。『優しい英語でSDGs！』というテキストを利用して、講義中にいくつかの地球問題を取り上げます。 ＊注意 この講座は英語の講座です。						
到達目標	１。 SDGsについての知識や理解を高める。 ２。様々な地球問題について知識や理解を高めて、関心を持ってもらう。 ３。地球問題やSDGsについて学生の英語力を向上させる。 ４。授業に取り上げられた地球問題に関連している英語の語彙を増やす。						
授業計画	1. ガイダンス/ No Poverty　貧困をなくそう 2. No Poverty　貧困をなくそう 3. Zero Hunger　飢餓をゼロに 4. Zero Hunger　飢餓をゼロに 5. Good Health and Well Being　全ての人に健康と福祉を 6. Good Health and Well Being　全ての人に健康と福祉を 7. Quality Education　質の高い教育をみんなに 8. Quality Education　質の高い教育をみんなに 9. Gender Equality　ジェンダー平等を実現しよう 10. Gender Equality　ジェンダー平等を実現しよう 11. Clean Water and Sanitation　安全な水とトイレを世界中に 12. Clean Water and Sanitation　安全な水とトイレを世界中に 13. プレゼンテーション preparation 14. プレゼンテーション preparation 15. プレゼンテーション 定期試験- プレゼンテーション						
テキスト・教材（参考文献）	『優しい英語でSDGs!』 本間正人， 山本ミッシェールのぞみ 合同出版 978-4772614504						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（３０分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（６０分）						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　30% プレゼンテーション・定期試験　40% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット						
実務経験のある教員							
担当者から一言	『基礎英語　I and II　』と『英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ　I and II 』をまだ受講していない学生や受講中の学生にとって、この講座は難しいかもしれません。3年生になってから受講を勧めます。 5回以上欠席すると単位がもらえません。２回遅刻すると１回の欠席になります。履修者が18名を超えた場合は抽選となります。						

授業科目名	経営管理論			科目コード	482201	授業コード	112807
担当教員	小西　琴絵			科目ナンバリング	PMO4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ，社会や地域の課題を発見し，原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識をにつけている。						
授業のねらい	本講義のねらいは企業（経営者）が従業員をどの様な存在であると認識しどの様な管理を行っているのかについて理解することである。経営学の歴史と照らし合わせながら，映画やドキュメンタリー番組を用いて実際の企業において様々な理論がどの様に活用されているのかも考えていく。						
到達目標	本講義の到達目標は以下の2点である。 ①　経営管理の基本的な理論を理解することができるようになる ②　理論をもとに、様々な実際の経営活動の良い点、改善すべき点を考えることができるようになる						
授業計画	第 1 講 ガイダンス 第 2 講 経営管理論の発生 第 3 講 古典的管理論 第 4 講 官僚制組織 第 5 講 科学的管理法 第 6 講 フォード・システム 第 7 講 人間関係論① 第 8 講 人間関係論② 第 9 講 新・人間関係論① 第10講 新・人間関係論② 第11講 近代組織論 第12講 意思決定論 第13講 リーダーシップ論① 第14講 リーダーシップ論② 第15講 ラップアップ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	【テキスト】 なし（講義資料は学内システム上で配布） 【参考文献】 ・占部都美（1984）『新訂　経営管理論』白桃書房。 ・塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（2009）『経営管理』有斐閣アルマ。 ・野中郁次郎（1980）『経営学入門シリーズ　経営管理』日本経済新聞社。						
事前・事後学習	予習（90分）：講義資料を熟読し，わからない言葉などを事前に辞書で調べておくこと 復習（90分）：講義資料と確認課題の内容を照らし合わせながら自身の理解度を把握すること						
成績評価方法	毎講義後の確認課題30%，中間課題30%，期末課題40%						
授業内の課題・提出方法	・毎講義後に，講義内容の理解度を確認する課題を提示する ・確認課題，中間課題はmoodleにて提出すること ・期末課題についてmoodleでの提出を予定している						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・確認課題は提示した翌週に講評する ・中間課題は採点後に講評する						
アクティブラーニング	確認課題や中間課題の実施						
実務経験のある教員							
担当者から一言	・講義資料の紙での配布は原則しませんので各自で事前に印刷やダウンロード等して準備すること ・受講生の理解度や講義の進捗状況に合わせて，適宜レポートなどの追加課題を課すことがある						

授業科目名	日本経済事情			科目コード	471404	授業コード	123208
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PIU2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	経済学の基本的な理論を習得します。国民所得がどのように決定されるのか、財政政策や金融政策とはどのようなものなのか、そのような経済政策によってどのような変化が起きるのかなどについて学び、世の中の動きを理解する力を身につけます。						
到達目標	新聞やニュースで取り上げられている経済に関する出来事の意味を理解し、それに関連する問題点を捉える力をつける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、経済学とは？-ミクロ経済学とマクロ経済学- 第2講 マクロ経済学と日本経済（１） 第3講 マクロ経済学と日本経済（２） 第４講　GDP（国内総生産）とは？ 第5講 家計の消費と貯蓄（１） 第6講 家計の消費と貯蓄（２） 第7講 企業の投資 第8講 政府支出 第9講 GDP（国内総生産）の決定 第10講 財政政策（１） 第11講 財政政策（２） 第12講 貨幣の定義 第13講 金融政策（１） 第14講 金融政策（２） 第15講 財政政策と金融政策 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	家森信善『マクロ経済学の基礎』ベーシックプラスシリーズ 中央経済社（２０２１） 定価：2200円（税込）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト２０%、定期試験８０%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	金融論			科目コード	471405	授業コード	123211
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PIU2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この「金融論」では、私たちの社会にとってはなくてはならない金融を学びます。私たちは誰しも、さまざまなかたちで金融の恩恵を受けて毎日、生活できています。その仕組みは非常に複雑で高度に進化していますが、この講義では初めて金融を学ぶかたを対象にして金融の基盤的な知識を修得することをねらいとします。全15回の授業のうち7回はゲストスピーカーを招きます。さまざまな金融の現場をよく知るゲストスピーカーから、生きた金融を講義で話してもらいます。						
到達目標	（1）金融の基盤的な知識を修得する （2）自分自身のライフプランやマネープランを考え、実践するための知識を修得する						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　ライフプラン（二村） 第３講　金融と経済の基礎知識（1）（二村） 第４講　金融と経済の基礎知識（2）（二村） 第５講　ライフデザインと資金調達（東海財務局津財務事務所） 第６講　金融トラブルと投資のリスク（東海財務局津財務事務所） 第７講　お金を借りる（二村） 第８講　お金を稼ぐ（二村） 第９講　日本経済の中の銀行の役割～中央銀行と民間金融機関～（鷲山さん） 第10講　お金を増やす（マネックス証券） 第11講　生活設計とリスク管理（生命保険協会） 第12講　生命保険の基礎知識（生命保険協会） 第13講　政府系金融機関と地域金融機関（脇田さん） 第14講　金融界の動向（二村） 第15講　まとめ（二村）						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 家森信善「金融論　第3版」日本経済新聞出版（2022年）、定価：2420円（税込）						
事前・事後学習	事後学習として授業の内容を復習してください。授業の内容が自分にはどう関係するか考え、自分自身のファイナンシャル・プランニングに落とし込んでください。また週に1時間程度は図書館で日本経済新聞や経済系雑誌などで金融に関する記事（最新の記事でなくても構いません）を探し、じっくりと読んでください。記事のなかにわからない用語があれば、複数の文献で調べてください（180分）。						
成績評価方法	（1）各回のレポート：50% （2）課題（3回+1回）：50%（小課題10%×3回+期末課題20%×1回）						
授業内の課題・提出方法	課題のファイルをメールまたはMoodleで提出してもらいますが、外部講師の回ではそれ以外の提出方法とすることがあります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回のレポートについては、全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	自分自身の簡易なライフプランなどを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	ファイナンシャル・プランニング技能士2級とAFPというという資格で長年、お金に関するコンサルティングを行ってきました。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。ゲストスピーカーの都合により、講義の内容および順序が変更になることがあります。						

授業科目名	国際経営論			科目コード	471406	授業コード	123509
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PIU2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この「管理会計論」では、主に企業の内部で自主的に行われる、会計の観点でのマネジメントについて学びます。管理会計は、部署や担当にかかわらず、企業のなかで働く人すべてに密接に関係するものです。管理会計の考え方やフレームワークなどを学び、卒業後に学んだことをビジネスの現場で使えることを目指します。						
到達目標	管理会計の考え方やフレームワークを正しく理解し、将来、自分が働く企業の現場などで、それらをそれぞれの現場に合わせたうえで使えることを到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　管理会計とは何か 第３講　原価計算（1） 第４講　原価計算（2） 第５講　損益分岐点分析（1） 第６講　損益分岐点分析（2） 第７講　バランススコアカード 第８講　中間テスト/ABCとABM 第９講　加重平均資本コスト（1） 第10講　加重平均資本コスト（2） 第11講　現在価値と将来価値 第12講　意思決定（1） 第13講　意思決定（2） 第14講　事業ポートフォリオマネジメント 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 加登豊、梶原武久「管理会計入門　第2版」日本経済新聞出版（2017年）、定価：1100円（税込） 浅田孝幸ほか「管理会計・入門　戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング 第4版」有斐閣（2017年）、定価：2530円（税込）						
事前・事後学習	「管理会計論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」「経営分析論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。日本経済新聞やビジネス系雑誌などで企業に関する記事を読むと、会計と経営管理を関連づけて考える材料が多く見つかるはずです。週に1時間程度は図書館などで企業やビジネスに関する新聞・雑誌の記事に触れてください（180分）。						
成績評価方法	（1）中間テスト・平常点（受講態度など）：30% （2）課題（2回）：30%（15%×2） （3）定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	課題のファイルをMoodleまたはメールで提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間テストについては全体の講評を授業で行います。課題については希望者に個別のフィードバックをします。						
アクティブラーニング	授業で取り上げた内容に関する新聞・雑誌記事を探し、その要約や解説をしてもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	国際協力論			科目コード	471407	授業コード	121805
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PIU2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では、日常的に接する国際情報（SNS、報道等）を解釈するための、知的実践の手掛かりを考えます。テキストでキーワードとされているのは、「われわれと他者」、「格差と不満」、「信頼と不信」、「正統と異端」という4つで、いずれも「国際」、「国内」、「日常」の各次元の社会に、相互に関連した形で埋め込まれています。境界横断のネットワーク（ヒト、モノ、カネ、情報）が常態化した状況と言えるでしょう。講義では、テーマに応じた報道を取り上げ、テキストに基づきそれを解釈するという知的実践をしていきます。						
到達目標	日常的に接する国際情報を解釈するための知的実践の修得。						
授業計画	第1講　ガイダンス 第2講　国際関係の基本原理 第3講　国際社会の成り立ち 第4講　帝国主義と国際社会の民主化 第5講　ナショナリズムとグローバル化 第6講　貿易とグローバル化 第7講　通貨と金融 第8講　貧困と開発援助 第9講　国家間戦争と同盟・有志連合 第10講　内戦とテロリズム 第11講　システムの安定と国家間の和解・関係修復 第12講　国境をこえる環境問題と地球温暖化 第13講　人権規範の広がりと内政干渉 第14講　技術革新と正当性の国際政治 第15講　国際関係論の方法						
テキスト・教材（参考文献）	『国際関係論 アカデミックナビ』　多胡淳著　勁草書房　2，640円						
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	まずは複数言語で国際報道に接する習慣を付けて下さい。						

授業科目名	開発経済学			科目コード	471408	授業コード	121304
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PIU2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では、日本を含むアジア諸国の経済発展がどのような変遷を辿ってきたのかを、経済理論と実際の流れによって説明します。特に、国内の工業化政策、諸外国との貿易と直接投資、外国からの政府開発援助（ODA）、そして、グローバリゼーションが進む国際経済における自由貿易（FTA）や地域連携協定（EPA）が、経済成長を進める上でどのような役割を担っているのかに焦点を置いて講義していきます。授業では鶴田の解説だけでなく、活発なディスカッションを行いながら進めます。							
到達目標	経済成長に関する基本的な理論とアジア諸国の経済の実情を理解する。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 GDPの決定（１） 第３講 GDPの決定（２） 第４講 財政政策 第５講 金融政策 第６講 為替・国際収支 第７講 マルサスの罠 第８講 ペティ＝クラークの法則 第９講 ２部門モデル 第10講 工業化の初期条件と輸入代替工業化 第11講 輸出志向型工業化と対外直接投資 第12講 日本の政府開発援助 第13講 多様化する外国資本投資とアジア通貨危機 第14講 アジア経済の新動態 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	簿記入門			科目コード	471409	授業コード	125606
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PBM2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	簿記は株式会社などの企業、小規模な店舗、官公庁といった各種組織・機関で行われている幅広い事業活動をお金の面で記録する技術であり、また財務諸表（決算書）を作る基盤でもあります。この「簿記入門」の授業では、簿記や財務諸表の基礎、勘定科目、仕訳などを学びます。皆さんが就職後、簿記の対象となる取引にどう関わるかは人それぞれしょうが、まったく関わらない人はいないはずです。就職後に自分が働くことをイメージしながら、簿記という技術体系の基礎を理解することがこの授業のねらいです。						
到達目標	（1）日商簿記検定3級の「簿記の基本原理」と「諸取引の処理」に関する問題を解ける……日商簿記検定3級は他の資格と比べて学びやすく、学習した時間数が獲得できる知識量、そして合格につながりやすい資格だと言えます。日商簿記検定3級試験のほぼ半分の問題を解けるだけの知識修得を目指しましょう。 （2）「学び方」を学ぶ……幅広く応用が効く、「学び方」を学びましょう。「学び方」を学べているかどうかは採用担当者が近年、特に重視するポイントです。就職後の学ぶ力を養うために「学び方」を学ぶことも、この「簿記入門」の到達目標です。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　簿記の意義（テキストのテーマ01）、財務諸表と簿記の5要素（同02） 第３講　日常の手続き（同03） 第４講　商品売買１（同04） 第５講　商品売買２（同05） 第６講　現金・預金（同06）、小口現金（同07） 第７講　クレジット売掛金（同08）、手形取引（同09） 第８講　中間試験、電子記録債権・債務（同10） 第９講　その他の取引１（同11） 第10講　その他の取引2（同12）、減価償却（同20の一部） 第11講　その他の取引３（同13） 第12講　さまざまな帳簿の関係（同14） 第13講　試算表（同15） 第14講　証ひょう（同31）、伝票（同32） 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：2200円（税込） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込） 日建学院「ネット試験対応　日商簿記3級　過去問+予想問題解説集 2024-2025年版」日建学院（2024年）、定価：1320円（税込）						
事前・事後学習	簿記は知識を一つひとつ積み上げていくことで理解できる科目です。欠席すると次週以降の理解がかなり難しくなります。欠席しないことを第一に、欠席したらその日の内容をテキストで必ず自習してください。 継続的な繰り返し学習が効果的です。「近道は遠道」「走れば転ぶ」「急がば回れ」と心得て、コツコツ学びましょう。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと（90分）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。						
成績評価方法	（1）中間試験（第8講で実施予定）：30% （2）課題：30% （3）定期試験：40% 「簿記入門」は日商簿記初級に合格できるレベル、もしくは日商簿記検定3級の「簿記の基本原理」「諸取引の処理」に関する問題で合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、それらの検定試験に準じます。						
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleまたはメールで提出してもらいます（計3回）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。優れた課題については授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。 テキストの発行がシラバス登録の後であるため、授業計画が一部変更になる可能性があります。						

授業科目名	会計学総論			科目コード	471410	授業コード	123807
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PBM2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この「会計学概論」では、会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を学びます。会計学が対象とする領域は幅広く、財務諸表論、管理会計論、経営分析論などへと細分化されます。それらのどの領域、さらに経営学、経済学、金融論などの一部にも通底する《過去を未来に知恵として伝えようとする意志》を感じ取りながら、会計学の全体像を理解していくことをこの授業のねらいとします。						
到達目標	（1）会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を身につける……2年次・3年次に配当されている「財務諸表論」「管理会計論」「経営分析論」で学びを深められるよう、この授業で全体像をつかんでおきましょう。 （2）就職後の仕事ではもちろん、1人ひとりの生活者として生きていくさいにも会計的な視点で考えられるようになる……会計的な視点で考えることは仕事だけでなく個人の生活にも大きな恩恵をもたらしてくれます。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　会計の目的 第３講　会計基準と会計制度 第４講　企業経営と会計 第５講　貸借対照表1 第６講　貸借対照表2 第７講　損益計算書1 第８講　損益計算書2 第９講　会計原則 第10講　キャッシュ・フロー計算書 第11講　経営分析 第12講　家計（個人）にとっての会計 第13講　ファイナンスと会計 第14講　会計と監査 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 桜井久勝「会計学入門〈第5版〉」日本経済新聞出版（2018年）、定価：946円（税込） 川本淳ほか「はじめて出会う会計学　第3版」有斐閣（2022年）、定価：2310円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として新聞（特に日本経済新聞）や雑誌などで、企業に関する記事を読むようにしてください。最初はわからない用語ばかりでしょうが、そうした用語をメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また授業で学んだことを使って、実存する企業の財務諸表などを使って小レポートを作成してください（90分）。						
成績評価方法	（1）平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% （2）小レポート：20% （3）定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第9講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。小レポートはMoodleまたはメールで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと小レポートについては全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、財務面のレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	財務諸表論			科目コード	471411	授業コード	125708
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PBM2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	ビジネス界の共通言語とも言われる会計、その中心となる財務諸表（決算書）について学ぶのが、この「財務諸表論」です。「財務諸表論」のねらいは財務諸表を《読む》ためや《使う》ために、財務諸表が作られるさいのルール、各財務諸表の構成や関係を学ぶことです。授業を通して各財務諸表が何を示しているのかを理解しましょう。同時に、何を示して（示せて）いないのかを考えると、財務諸表のおもしろさを見つけられるかもしれません。						
到達目標	（1）財務諸表を読むための基礎的な知識を身につける……「難しそう」という印象を持たれやすい財務諸表ですが、ポイントを押さえれば読むのは難しくありません。 （2）さまざまな立場のさまざまな目的で財務諸表を使うための実践的なスキルを修得する……たとえば経営者が株主を増やすため、1人の従業員が未知の企業と取引を検討するため、また個人が株式投資をするためなど、財務諸表を使えるようになりましょう。 （3）公開情報から有用なものを取捨選択し、効果的に報告する能力を獲得する……財務情報は容易に手に入ります。それを価値あるデータとしていかす術を身につけてください。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　財務諸表を作るねらい 第３講　財務諸表の構成 第４講　貸借対照表1 第５講　貸借対照表2 第６講　貸借対照表3 第７講　損益計算書1 第８講　損益計算書2 第９講　損益計算書3 第10講　キャッシュ・フロー計算書1 第11講　キャッシュ・フロー計算書2 第12講　株式会社の設立・資金調達～仕入・生産活動 第13講　株式会社の営業・販売活動～設備投資・研究開発 第14講　会計と経営 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 日本経済新聞社「財務諸表の見方　第14版」日本経済新聞出版（2023年）、定価：1100円（税込） 金子智朗「教養としての「会計」入門」日本実業出版社（2023年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください（90分）。						
成績評価方法	（1）平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% （2）レポート：30% （3）定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第7講・第10講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。レポートはメールまたはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストとレポートについては全体の講評を授業で行います。また優れたレポートは授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務面などで比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	経営戦略論			科目コード	471412	授業コード	122206
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PBM2003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し，進路に即した人間力の根幹を形成する.						
授業のねらい	本講義では経営戦略論の概念や論理を理解した上で，企業の経営戦略について考察する. 考察を通じて経営戦略論の理解を深めることを，本講義のねらいとする.						
到達目標	経営戦略の枠組みや手法について理解した上で，実際の企業戦略に対する改善案や新たな戦略案を提示できる. 経営戦略の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ. 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する.						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　経営戦略の基本（１）／思考の軸としての論理 3　経営戦略の基本（２）／主要なアプローチの概観 4　経営戦略の構造／戦略の３つのレベル，環境 5　ポジショニング・アプローチの源流 6　事業戦略 ／ ポーター理論（１） 7　ポーター理論（２） 8　他社との違いをつくる（１） 9　他社との違いをつくる（２） 10　コストを引き下げる戦略 11　顧客ニーズの違いに対応する（１） 12　顧客ニーズの違いに対応する（２） 13　環境は変えられる／環境操作戦略（１） 14　環境操作戦略（２） 15　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する. 参考文献：宮崎正也著『コア・テキスト事業戦略』新世社 青島矢一，加藤俊彦著『競争戦略論』東洋経済新報社 稲葉 祐之，井上 達彦，鈴木 竜太，山下 勝著『キャリアで語る経営組織』有斐閣						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 経営戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）.						
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること. ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする. 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある.						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある.						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります. ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります.						

授業科目名	マーケティング論			科目コード	471413	授業コード	122104
担当教員	小西　琴絵			科目ナンバリング	PBM2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義のねらいはマーケティング論の基本的な概念や論理を理解することである。それを基に企業のマーケティング活動や戦略について考察し、マーケティング論への理解を深めることを目指す。						
到達目標	本講義の到達目標は以下の2点である。 ① マーケティングの基礎的概念，基本用語，各理論の概要について理解することができる ② 企業の経営活動におけるマーケティングの位置づけを説明することができる						
授業計画	第 1 講 ガイダンス 第 2 講 マーケティングの概念と体系① 第 3 講 マーケティングの概念と体系② 第 4 講 ビジネスチャンスの発見 第 5 講 消費者行動分析① 第 6 講 消費者行動分析② 第 7 講 マーケティング・リサーチ 第 8 講 マーケティング戦略① 第 9 講 マーケティング戦略② 第10講 製品・価格設定 第11講 プロモーション・販売促進 第12講 CRM 第13講 インターネット・ビッグデータ 第14講 サービス・マーケティング 第15講 ラップアップ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	【テキスト】 なし（講義資料は学内システム上にて配布） 【参考文献】 ・和田充夫・恩藏直人・三浦俊彦（2023）『マーケティング戦略（第6版）』有斐閣アルマ。 ・石井淳蔵・廣田章光・清水信年（2019）『1からのマーケティング（第4版）』碩学舎。						
事前・事後学習	予習（90分）：講義資料を熟読し，わからない言葉などを事前に辞書で調べておくこと 復習（90分）：講義資料と確認課題の内容を照らし合わせながら自身の理解度を把握すること						
成績評価方法	毎講義後の確認課題30%，中間課題30%，期末課題40%						
授業内の課題・提出方法	・毎講義後に，講義内容の理解度を確認する課題を提示する ・確認課題，中間課題はmoodleにて提出すること ・期末課題についてmoodleでの提出を予定している						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・確認課題は提示した翌週に講評する ・中間課題は採点後に講評する						
アクティブラーニング	確認課題や中間課題の実施						
実務経験のある教員							
担当者から一言	・講義資料の紙での配布は原則しませんので各自で事前に印刷やダウンロード等して準備すること ・受講生の理解度や講義の進捗状況に合わせて，適宜レポートなどの追加課題を課すことがある						

授業科目名	中小企業論			科目コード	471414	授業コード	125502
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PBM2008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	企業は「法人」の一つであることから、経済的・法律的な解釈や分析が多かった。近年では社会的責任・社会貢献といった文化的・社会的な側面が重要となりつつあります。また企業研究は、かつては大企業が中心的なテーマであったが、近年では地域・雇用・社会的起業といった側面から、中小企業の役割も重要と考えられるようになりつつある。 　この講義では、毎回、経営者の対談やエピソードに関する映像を見ていただき、その経営者が何を重要と思いながら日々経営を考えているか、なぜそのような経営理念が生まれるのかを探りたいと思います。						
到達目標	以下の３つを目標とします。 １．企業の役割や課題を理解する。 ２．企業の経営理念と事業内容の関係を理解する。 ３．全体を通じて中小企業がもつ経営の特質を理解する。						
授業計画	第１講　ガイダンス&映像視聴 第２講　企業とは（講義） 第３講　花王 第４講　メルカリ 第５講　ユニバーサルスタジオジャパン 第６講　セブンイレブン 第７講　コメダ珈琲 第８講　マザーハウス 第９講　ヴィソン 第１０講　アートディレクター佐藤可士和 第１２講　中小企業とは（講義） 第１３講　矢場とん 第１４講　ものづくりin三重 第１５講　まとめ ※とりあげる企業は変更する可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。Moodle上で提示します。						
事前・事後学習	予習：とりあげる企業の概要を調べておくこと（90分） 復習：毎回の要約の提出（90分）						
成績評価方法	毎回の要約（50%） 学期末のレポート試験（50%）						
授業内の課題・提出方法	毎回の要約をMoodle内の課題として提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された要約は毎回採点します。全体の講評を授業内で行います。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	皆さんも経営者になった気持ちで、受講してください。 映像は授業内でのみ視聴可能な貴重なものです。毎回、映像の内容を要約するのは大変ですが、よい訓練になります。						

授業科目名	人事管理論			科目コード	471415	授業コード	125804
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PBM3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	①企業や社会の諸個人が抱える課題について考えること，②組織論を使った解決の方法について理解することを，本講義のねらいとする．個人や組織の観点から，経営組織について学ぶ.						
到達目標	組織の仕組みや組織に関する理論について理解した上で，働き方に関する諸課題への解決策を提示できる．受講生自身のキャリア計画を立案できる. 組織論の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する.						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　組織とは／様々な組織の形 3　日本の人材マネジメント（１） 4　日本の人材マネジメント（２） 5　キャリアを考える（１） 6　キャリアを考える（２）／日米の就活比較 7　社会化と信頼 8　意思決定（１） 9　意思決定（２）／不確実性のマネジメント 10　賃金とまとめ 11　賃金（２） 12　社会人としての未来を考える／ルールの存在意義，官僚制 13　人間関係を考える 14　自分と世界を考える 15　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する.						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 組織リーダーとしての戦略立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）.						
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること. ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする. 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある.						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある.						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります. ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	ものづくり経営			科目コード	471416	授業コード	125404
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PBM2006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この授業では「簿記入門」に続き、日商簿記検定3級の内容、具体的には「決算」と「株式会社会計」を学びます。3級試験に合格できる簿記知識の修得がねらいです。また企業の事業活動や社会・組織のなかで行われている、さまざまな取引やお金に関する管理手法を学ぶこともねらいです。600年以上も使われ続け、ゲーテも高く評価※した簿記（現在の複式簿記）の洗練と優美さを感じ取ってください。 ※ ゲーテ（ドイツの詩人、劇作家。1749-1832）の『ウィウヘルム・マイスターの修業時代』という小説には複式簿記を「人類の最も見事な発明の一つだ」と評価する一節があります。						
到達目標	（1）日商簿記検定3級の「決算」と「株式会社会計」に関する問題を解ける……「簿記の基本原理」と「諸取引（期中取引）の処理」を学んだ「簿記入門」とあわせて、この「商業簿記」を履修すれば、3級試験の出題範囲をすべて学べることになります。履修後には3級試験の受検を強くおすすめします。 （2）簿記・会計の考え方を理解する……簿記・会計には、企業などの事業活動をお金の面でとらえるにあたって私たちに馴染みのある一般的な考え方とは異なる、独特の考え方があります。そうした考え方を理解することは、企業経営、経済や金融について理解する一助となるはずです。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　決算（テキストのテーマ16） 第３講　決算整理１　現金過不足（同17） 第４講　決算整理２　売上原価（同18） 第５講　決算整理３　貸倒れ（同19） 第６講　決算整理４　減価償却（同20） 第７講　決算整理５　貯蔵品（同21）、決算整理６　当座借越（同22） 第８講　決算整理７　経過勘定項目（同23） 第９講　中間試験 第10講　決算整理後残高試算表（同24） 第11講　精算表（同25） 第12講　帳簿の締め切り（英米式決算）（同26）、損益計算書と貸借対照表（同27） 第13講　株式の発行（同28）、剰余金の配当と処分（前半）（同29） 第14講　剰余金の配当と処分（後半）（同29）、税金（同30） 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト： TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）（2024年度後学期の「簿記入門」で使用したテキスト） 入手できなければ、同著者、同出版社、同価格の「よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　ver.15.0」TAC出版（2025年）でも可 参考文献（問題集）： TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円）またはTAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　ver.15.0」TAC出版（2025年）、定価：1650円）						
事前・事後学習	「商業簿記」の履修には「簿記入門」を先行して履修していること、もしくは日商簿記初級の学習経験を持つことが望ましいです。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと。授業では要点の確認、疑問点の解消だけに集中できるくらいまでテキストを読み込んでおくことが望ましいです（90分以上）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。 細切れの時間をうまく使って、簿記を毎日学習する習慣をつけましょう。						
成績評価方法	（1）中間試験（第9講で実施予定）：30% （2）課題：30% （3）定期試験：40% 「商業簿記」は、「簿記入門」の学習内容とあわせて日商簿記検定3級に合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、日商簿記検定3級に準じます。						
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。また優れた課題については授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。						

授業科目名	流通論			科目コード	471417	授業コード	123806
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PBM2007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	系統的に学修し，進路に即した人間力の根幹を形成する．
授業のねらい	本講義では流通論の概念や論理を理解した上で，小売企業の流通活動について考察する． 考察を通じて流通論の理解を深めることを，本講義のねらいとする．
到達目標	流通論の論理や枠組みについて理解した上で，企業の流通活動に対する改善案や新たな流通戦略を提示できる． 流通論の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ． 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する．
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　流通とは　／生産者，商業者，消費者の視点 3　百貨店と総合スーパー　／チェーン・オペレーション 4　食品スーパー　／日本市場特有のニーズ 5　コンビニエンス・ストア ／立地・時間・品揃えという価値 6　ディスカウント・ストア ／規模の経済 7　SPA　／伝統的な分業体制とのちがい 8　商店街とショッピングセンター　／開発業者とテナントの関係 9　流通構造と日本型取引慣行 ／映画産業の事例 10　日本型の商慣行と，その崩壊 ／流通系列化 11　農産物流論　／卸売市場とは 12　付加価値／青果物の流通 13　青果物の流通（２） 14　青果物と食品の流通 15　Amazonの流通システム，イオンの歴史 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する． （参考資料：石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1からの流通論（第2版）』碩学舎）
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 流通戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）．
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること． ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定．
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする． 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある．
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある．
実務経験のある教員	
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります． ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります

授業科目名	農業経営論			科目コード	471418	授業コード	121407
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PBM2009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義では、日本および国際的な農業問題やビジネスの変化について理解していきます。 日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化 が進む中で、日本の農業問題やビジネスががどのように進展していったのかを学びます。 国際的な視点からはGATT(貿 易と関税に関する一般協定)やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉え られてきたのかを理解します。また、実際にどのような農業経営が行われているのかいくつかの事例を見ていきます。						
到達目標	日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 日本の農業の現状1:農地、農家、農業産出額 第3講 日本の農業の現状2:農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第4講 日本の農政1:戦後改革と農業、食管制度 第5講 日本の農政2:高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第6講 日本の農政3:グローバル化と農業経営 第7講 農業経営の事例（１） 第8講 農業経営の事例（２） 第9講 世界の食糧事情と問題点 第10講 穀物貿易の特質 第11講 農業保護政策 第12講 輸出競争とGATT農業交渉 第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講 地域連携協定と農業問題 第15講 講義のまとめ						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュー スを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(90分以上)。						
成績評価方法	小テスト２０%、期末テスト８０%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、講義中及び講義終了後の質問には適宜コメントします。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	起業論			科目コード	471419	授業コード	124109
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PBM2010		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義では起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うための講義と演習を行います。 　起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。 　まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。						
到達目標	以下の３つを掲げています。 1. アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。 2. 創造的思考の技法を身につける。 3. 自ら事業企画を立案する。						
授業計画	第1講　4/10ガイダンス 第2講　4/17アントレプレナーシップと事業事例１ 第３講　4/24アントレプレナーシップと事業事例２ 第４講　5/8アントレプレナーシップと事業事例３ 第５講　5/15創造的思考実習１（ブレーンストーミング／KJ法） 第６講　5/22創造的思考実習２（ソーシャルビジネスの企画立案） 第７講　5/29企画立案のフィードバック 第８講　6/5ビジネスプランコンテスト 第９講　6/12事業計画の構成１（総論） 第10講　6/19事業計画の構成２（ファイナンス）※１ 第11講　6/26ビジネスモデル立案の実習１ 第12講　7/3ビジネスモデル立案の実習２ 第13講　7/10ビジネスモデルのフレームワーク 第14講　7/17ビジネスプランコンテスト　※１ 第15講　7/24特別講義※2 ※１は、株式会社三十三総研が提供する授業です。 ※２は、三重県信用保証協会が提供する授業です。 ※日程・内容などは変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。講義資料はMoodle内で提示します。						
事前・事後学習	参考文献は講義中に示します。事前に学習してください（90分）。 報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください（90分）。						
成績評価方法	課題への取り組み（５0%）学期末のレポート試験（５0%） 提出された課題は、講義中にコメントまたは講評します。						
授業内の課題・提出方法	講義中に課題を課します。Moodleに提出することを予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、Moodle内でコメントをつけてフィードバックします。事業計画の構想については、適宜、講義中に講評します。						
アクティブラーニング	起業家精神は考え方を理解するだけでなく自分で事業を構想してみることが何より求められます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめざしてください。						

授業科目名	総合政策特別講義Ⅱ			科目コード	471502	授業コード	125602
担当教員	浅井　雅、吉川　和挟			科目ナンバリング	PSL2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式の変化、価値観の多様化等により、伝統文化の多くは継承の危機に瀕している。 この科目では、富田の鯨船行事（ユネスコ文化遺産）に実際に参加し、伝統文化の保存・継承にはどのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を考えてもらおうとするものである。						
到達目標	実習とワークショップを通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。						
授業計画	第1～8回　現地実習： 9月27日（土）・28日（日）終日　富田鯨船行事参加 第9～14回　ワークショップ：祭りに関する聞き取り 第15回　発表 【現地実習への参加が必須（交通費等自己負担）】						
テキスト・教材（参考文献）	レジュメは電子あるいは紙で必要に応じて配布する。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。(60~90分)						
成績評価方法	実習や祭りなどへの取り組み＝ 70%、 ワークショップ・プレゼンテーション＝30%						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	体験学習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることもあるので、了解しておくこと。						

授業科目名	出版文化論			科目コード	471504	授業コード	122103
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PCF2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では、メディア（主にマス・メディア）を挟んだ、（多数）対（多数）のコミュニケーションを見ていきます。発信性はそうしたコミュニケーションを流れる情報にどのようなレトリックを施し、受信者はそうしたレトリックを施された情報にどのように対応していけば良いかを考えていきます。						
到達目標	コミュニケーションの基本的な考え方をリテラシーに結びつける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 コミュニケーションと文化 第3講 言語コミュニケーション 第4講 非言語コミュニケーション 第5講 「旧修辞学」の復権 第6講 新しいプロパガンダの時代 第7講 レトリックを演じる人々 第8講 革命は放映されない 第9講 広告と消費の誘惑 第10講 Instagramのレトリック 第11講 スポーツのメディア表象 第12講 「異なる身体」の表象 第13講 性的マイノリティへのまなざし 第14講 氾濫する英語のレトリック 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『メディア・レトリック論』 青沼智（他）著 ナカニシヤ出版 2400円						
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ここ数年でメディアのあり方が大きく変わってきています。基本的にはテキストの内容に従って進めますが、状況や情勢を見ながら内容を多少変更するかもしれません。						

授業科目名	日本文化論			科目コード	471505	授業コード	123508
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	PCF2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自な文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているのかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたのかについて一緒に考えてみたい。						
到達目標	「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　「文化」概念、「文明」概念について 第３回　「日本文化論」の問題点について 第４回　ブルーノ・タウトの日本文化論について　①　「日本文化私観」 第５回　ブルーノ・タウトの日本文化論について　②　「ニッポン」 第６回　日本の食文化について（お雑煮を例に） 第７回　加藤周一＜雑種文化論＞　①　その背景 第８回　加藤周一＜雑種文化論＞　②　その主張 第９回　加藤周一＜雑種文化論＞　③　その特徴と問題点 第１０回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　①　その概要 第１１回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　②　その問題点 第１２回　三島由紀夫「文化防衛論」　①　その特徴 第１３回　三島由紀夫「文化防衛論」　②　戦後の日本文化論 第１４回　坂口安吾「日本文化私観」　①　その内容 第１５回　坂口安吾「日本文化私観」　②　その思想史的意味 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布する日本文化論のテクストをよく読んでくること。（90分） 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテクストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。						
授業内の課題・提出方法	毎回ミニ・レポートを提出してもらう。提出方法は、ミニ・レポート用紙を配布するので、それを講義の終りに提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニ・レポートは、講義を聴いて書いたと思えないもの、何が書いてあるか意味が分からないもの、また講義の内容を単にまとめただけのものなどは高く評価できない。講義の内容を踏まえ、それをもとに自分の考えを筋道立てて分かりやすく書いているレポートを高く評価する。毎回３点満点で評価し、その点数を記して翌週の講義の際にコメントとともに返却する。						
アクティブラーニング	毎回提出のミニ・レポート。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本文化論がこれまでにどのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。出席して坐っていれば単位が取れると安易に考えないでほしい。ノートをしっかり取る、関連する作品を自分でさがして読むなど、積極的に取り組んでほしい。						

授業科目名	東洋文化論			科目コード	471506	授業コード	121502
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	PCF2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	世界のさまざまな文化の比較を通して、その違いや共通点を探り出し、異文化間の相互理解と自文化に対する理解をより深めることをこの授業の最大のねらいとします。世界のさまざまな文化圏にはそれぞれ異なった文化が存在しています。それぞれの文化にはその根底にどのような価値観や行動規範があるのか、そうしたそれぞれの価値体系をさぐることにより、相互、あるいは自文化に対する再評価や問題解決に役立てることが出来ます。そうしたことを学ぶ機会にしたいと考えています。講義中に、受講生自身が特定のテーマについて調べ、レポートにまとめ発						
到達目標	異なる文化や歴史的、社会的背景を比較することにより、文化の多様性や共通性を理解し、それによって異文化間の交流をよりスムーズに行えるようになること。また、異文化間に存在する諸問題の解決方法を自分なりに導き出せるようにすること。						
授業計画	第１講：ガイダンス、講義の概要 第２講：「文化」とは、「比較文化論」とは何か（(課題１） 第３講：「異文化理解」その１ 第４講：「異文化理解」その２（課題２） 第５講：「異文化理解」その３ 第６講：「異文化理解」その４（課題３） 第７講：「多文化共生社会と異文化コミュニケーション」１ 第８講：「多文化共生社会と異文化コミュニケーション」２（課題４） 第９講：「言語文化」の比較（その１） 第10講：「言語文化」の比較（その２）（課題５） 第11講：「日中言語・文化」の比較ａ 第12講：「日中言語・文化」の比較ｂ（課題６） 第13講：「日中文化」の比較ａ 第14講：「日中文化」の比較ｂ（課題７） 第15講：「日中文化」の比較ｃ・まとめ（課題８） 定期試験 注 進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	プリント教材（講義内容に応じて、適宜配布します）。						
事前・事後学習	毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（９０分）。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（９０分）。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。						
成績評価方法	定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	講義内における課題は、Moodle、あるいは講義内に直接担当教員に提出すること。どちらの方法で提出するのは、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題や質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から自国についてはもちろんのこと、世界各国・地域の歴史・文化・社会 などに関心を向け、理解を深める取り組みをしてください。なお、 遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。						

授業科目名	地域文化論			科目コード	471508	授業コード	122702
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PCF2005		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	文化とは、人々が生活の中で築き上げてきたものの総体である。したがって、集団の数だけ無数の文化であるが、人々は常にその文化から影響を受け、また影響を与えている。この授業では、三重県や四日市市の文化を中心として、先人たちの営みを再発見・再認識するとともに、その影響関係を多角的な視点でとらえていきたい。						
到達目標	1. 三重県および四日市市にある文化的資源の概要を把握し、文化的特徴を理解できる。 2. 国内外問わず、他地域の人々がこの地域の魅力をどのように受け止めるか客観的に検討できる。 3. 地域社会に対する関心を高め、探求心を持つ。						
授業計画	第1回　　ガイダンス、文化、三重県、街道と交通とは（講義）、＋グループ分け 第2～4回　グループワーク 第5回　　伊勢神宮（発表） 第6回　　熊野古道（発表） 第7回　　鳥羽・志摩（発表） 第8回　　伊賀（発表） 第9回　　中南勢（発表） 第10回　四日市市、北勢（発表） 第11回　伝統芸能（発表） 第12回　まつり（発表） 第13回　食文化（発表） 第14回　三重の人々、三重を訪れる人々、地域文化資源の活用（講義） 第15回　伝統工芸（発表）						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料については、電子もしくは紙で毎回配布する。 テキスト・教材（参考文献）・「新視点三重県の歴史」（山川出版社） ・「続・新視点三重県の歴史」（山川出版社） ・「発見！三重の歴史」（新人物往来社） ・「続 発見！三重の歴史」（新人物往来社）						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP、あるいは参考図書等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。(60分) 事後学習については、毎回の講義に関して不明点を残さないように調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。(60分)						
成績評価方法	授業中の質疑および授業で提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝40% 発表準備＋プレゼンテーション＝60% なお、グループワーク・プレゼンテーションを理由なく欠席した場合は大幅に減点する。 ただし、病欠・公欠等は別途相談のこと。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、あらかじめ了解しておくこと。						